

特274

127

い易え覺

漢文重要四千單語

著助之芳尾淺

堂精有



0048846000

0048846-000

特274-127

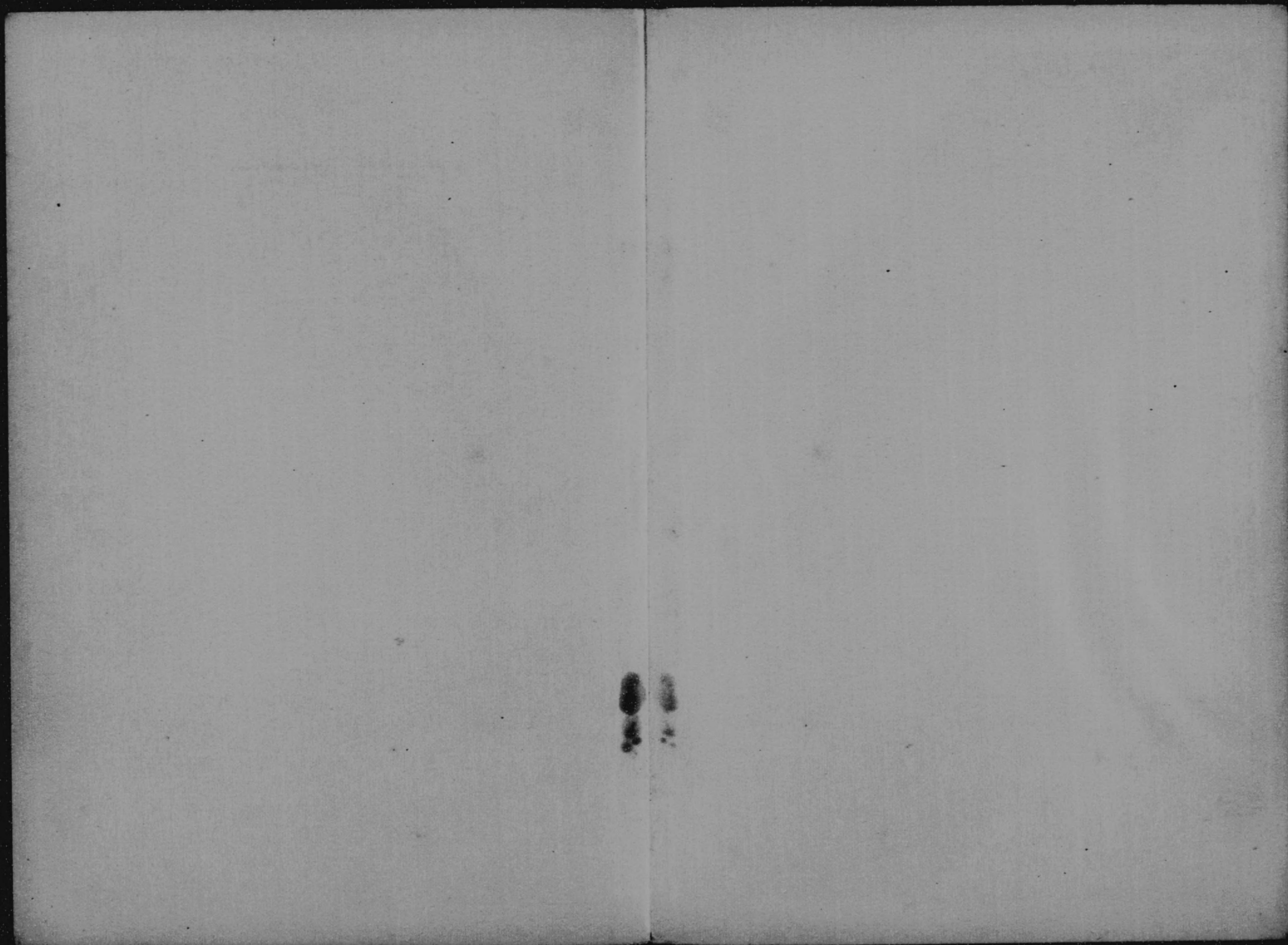
覺へ易い漢文重要四千單語

淺尾芳之助・著

有精堂出版部

昭和11

AHJ



特 274
127



淺尾芳之助著

重要四千單語

東京 有精堂出版部



はしがき

□本書は高等學校及び高等専門諸學校の入學試験問題として屢々出された漢文單語、若しくは將來に於て出さうだと思はれる單語約四千を五十音順に配列して、これに簡明なる解説を施したものである。

□本書は特に受験生諸君の同伴として編纂したものであるから、普通一般の辭書と異なり、左の諸點に多大の注意を拂つた。

(1) 解説を努めて平易簡明ならしめたこと——即ち解説の中に、もう一度他の辭書を引かねば領解出来ないやうな難解の語の無いやうにしたこと。

(2) 入試問題として一度も出たこともなく、また將來に於て出さうもないやうな語は、一切これを収録しなかつたこと。

(3) 一語で幾つもの意義を持つてゐる場合には、その中受験に縁遠いと思はれるものを省いたこと。

(4) 出題回数が多い語を特に明示したこと。

(5) 必要に應じては、用例を擧げて、その語の意義・用法を明確にする爲の資に供したこと。

□本書使用上の諸注意。

(1) 配列された語の上に*印のあるものは、數回入試問題として出たものである。

(2) 二重括弧即ち()で包んである部分は、上記の語の根本的意義・出典等を記したものである。

受驗 漢文四千單語目次

あ	一	そ	二二
い	五	た	二七
う	三	ち	三五
え	一四	つ	三三
お	一八	て	三三
か	一九	と	四〇
き	三五	な	四五
く	四七	に	四六
け	五	ね	四七
こ	六	の	四八
さ	七	は	四八
し	八一	ひ	五八
す	一〇〇	ふ	六三
せ	一〇二	へ	七〇

- (3) 各語の解説の後に、○印の施してある語は、上記の單語の同義語であることを示す。
- (4) △印の附いてあるものは、上記の語と反対の意味を有するもの、若しくは何等かの關係を有することを示す。
- (5) □印の次に記されてある部分は、上記の語の出所たる故事を説いたものである。
- 本書に収録した語の過半数は、諸君に取つては既知のものである。故に諸君が本書を使用せられる際には、未知の語、又は記憶の不確な語の上に何か印を付けて置き、それだけは他の部方よりも一層反覆精讀されたらよからうと思ふ。
- 故事・成語・格言等は、他日出版される「故事成語篇」に譲つて、本書には割愛する事にした。茲に御諒承を乞ふ。

昭和十一年四月

著者しるす

くて気がふさがること。

【奥儀】キウ 高尚で奥深い道理。おくのて。○奥旨。奥秘。

*【殃慶】ケイ わざはひとよるこび。○禍福。

【鶯梭】サウ 鶯が枝から枝へ飛びかふ状を機織の梭に喩へていふ。

【塵殺】サツ 皆殺しにする。

【鞅掌】シヤウ せはしくたち働いて容儀を修める暇のないこと。例「鞅掌職務」

□鞅はニナフ、掌はサ、ケル意。負荷持して容儀を修める暇のないこととなる。

【塵戰】セン 敵を皆殺しにする覺悟で戦ふ。

【懊惱】ナウ うらみなやむ。うれへもだえる。○憂悶

【阿衡】カウ ①支那では宰相。②日本では攝政。

□天子の依りて平を得る義。殷の湯王が、その相

伊尹を呼んだ稱。

【阿曲】キョク おもねりて己の節を曲げる。例「阿曲諂諛」(アキョク)

【惡逆】ギヤク 極惡で道にさからふこと。君父にあだをすること。

【惡鬼羅刹】ラセツ 人に害をなす鬼。□羅刹は惡鬼の名。黒身・赤髮・綠眼にして人を食ふといふ。

*【阿兄】ケイ 兄を親しんで呼ぶ語。おにいさん。△阿父。阿母。阿姉。阿妹。阿弟。

*【醒眼】サク こせつくさま。例「小人自醒眼。寧知」(チンヤノサキヤク)

*【惡聲】セキ ①悪い評判。②惡口をいふこと。

【渥丹】タン ①こい赤色。②あから顔。

【握髮】ハツ (髮を洗つてゐる時に人が来れば、髮を握つたまゝで面會する意。周公の故事。) 賢者の來訪を歓迎してのがさないこと。○握沐。

【惡辣】ラツ 悪く手あらいこと。たちが悪くあら

くしいこと。

【惡戾】レイ 心あしく道にもとること。

【阿孺】ジュ 幼な子。この孺子。

【裹足】ツツ 怖れて進まないこと。

【亞相】シヤウ (宰相に亞ぐ意) ①支那では御史大夫。②日本では大納言の異稱。○亞槐(アライ) △相は大臣といふ意の時ハ音シヤウ。

【亞聖】サイ 聖人に次ぐべき賢人。例へば孟子。顔淵など。

【阿世】セイ 世におもれる。世人の意を迎へてこびへつらふ。例「曲學阿世之徒」

【啞然】ゼン 呆れてあいた口のふさがらぬさま。△「アクセン」と讀む時は、大いに笑ふさま。

【阿黨】カウ おもれる。

*【壓卷】カワン 詩文集中で最もすぐれた作。

*【斡旋】セツ 人の爲に骨を折る。とりもつ。○周

【輶轢】レイ ①車のきしること。②仲がわるく反目すること。

【阿諂】アチン おもねりへつらふ。おべつかないふ。

*【阿堵物】アト (あの物の意、金錢といふ語を口にすることを忌み嫌つていふ。金錢。ぜに。かれ。例「阿堵物於神佛一乎」)

□晋の王衍は性質が潔白で、未だ嘗て「錢」といふ語を口にしたり事がない。その妻がわざと錢を床の周圍にまき散らして置いた處が、衍は阿堵物(そんなもの)を持ち去れと命じたといふ故事から出た語。

【阿附】アフ おもねりつく。

△「阿附黨同」(アウタウ) 黨同は己と心を同じくする者に黨すること。

【蛙鳴蟬噪】ワシウ (蛙や蟬のやかましく鳴きさわ

ぐこと三陋劣な文章や無用の辯論を嘲つていふ語。

【阿蒙】^{モウ} 子供。

【亞流】^{リウ} (亞はツケの義) ①第二位に立つ人。②同じなさま。同類。

【阿婉】^{エン} 美しい女。○阿嬌(ケウ)

【安佚】^{イフ} 心安らかに楽しみ遊ぶこと。怠けて働くことをいとふ。○安逸。

【晏駕】^{カン} 天子の崩御。(天子のおでましを晏しと待つ意)。

【暗窖】^{カウ} くらいあなぐら。

【暗香】^{カウ} どこからともなくにはひ来る香。

【暗合】^{カウ} 二つの事柄が偶然一致すること。

【暗愚】^{カン} 事理に暗くおろかなること。

【晏起】^{カン} 朝おそく起きる。あされをする。

【案几】^{カン} つくろ。

【殷紅】^{コウ} 黒ずんだ赤い色。△殷は赤黒い意に

用ひられる時には音がアンであることに注意。

【案罪】^{ザン} 罪をしらべる。

【暗示】^ジ それとなく教へ示す。

【諳悉】^{サン} すつかりそらんじてゐること。

【安車蒲輪】^{アンシャ} 老人を優待すること。(安車は車中に安坐することの出来るやうに造つた車。蒲輪は動揺と騒音とを防ぐ爲に蒲の葉で輪をつんだ車)。

【晏如】^{ジャン} 安らかなさま。○晏然。

【安心立命】^{リツメイ} すべて天命に任せ、身命の安危に處して疑惑畏怖のないこと。

【安宅正路】^{セイロク} (安宅は身をおくに最も安全な場所)で仁を指し、正路は人の履み行くべき正しい道で義を指す。仁と義。

【暗澹】^{タン} うすぐらいさま。○黯淡。黯澹。

【暗中飛躍】^{ヒヤク} 秘密で活動すること。

【暗中摸索】^{モサク} (くらがり)で手さぐりに物

なさがす。あて推量でさがしもとめることの喩。

【安堵】^{ファン} (かきの内に安んじ住む意)その居所に安んじ住む。安心してゐる。

【案牘】^{バン} 調査すべき書類。

【鹽梅】^{エン} ①料理のあぢかげん。②物事を程よく調理すること。③ぐあひ。程度。

【案文】^{ワン} 文章を工夫する。△下書・草稿の意に用ひる時には「アンモン」とよむ。

【暗涙】^{アン} 人知れず流す涙。

【依依】^イ ①枝のしなやかなさま。例「楊柳依依」。②心を引かれて離れるに忍びないさま。思ひ慕ふさま。例「依依如^{トシナシ}有^レ意」。③たどくしいさま。例「皆助^ツ朕^ノ依依」。

【依倚】^イ たよる。よりのむ。

【怡怡】^イ よろこび楽しむさま。例「兄弟怡怡」。○怡然。

怡。○怡然。

【唯唯】^イ 「はい／＼」とのみ答へて自己の意見を述べないさま。他人のいふがまゝになるさま。例「諸大夫朝、徒聞^ス唯唯。不^レ聞^ニ周舍^ノ諄諄」。

【優渥】^{アウ} 手あつたこと。情深いこと。れんごろなること。例「恩寵優渥、超^ニ子^ノ儕^等」。

【悠悠】^{イウ} ①憂へるさま。例「悠悠我思」。②はてしもなく遙かなるさま。例「悠悠蒼天」。

【優游】^{イウ} ①ひまがあつて、ゆつたりするさま。②ゆるやかなこと。のどやかなこと。例「優游自適」。③ぐづ／＼してゐてなかく決しないさま。例「優游不^レ斷」。

【女子】^ウ 兄弟仲の睦じいこと。(書經の「友^ニ于兄弟」から取つたもの)。

【誘掖】^{イウ} たすけ導くこと。

【誘拐】^{イウ} 幼者・女子などを暴力又は詭計を用ひて他所へ連れ行くこと。かどはかすこと。

【悠久】^{イウ} 遙に久しいこと。○恒久。長久。

【遊俠】ケイウ 死を軽んじて義を重んずる者。なと

こと。○任俠。豪俠。

【幽玄】ゲイウ 道理が奥深く知り難い意。

【莠言】ゲイゴ 聞きぐるしい言。

【有司】イウシ 司る所ある意。役人。官吏。

【游子】イウジ 他國にある者。旅人。

【遊絲】イウジ いとゆふ。かげろふ。

【猶子】イウジ (猶子ノ如シの意) 兄弟の子。

をひ。○養子。義子。

【幽草】イウクサ さびしい感じを起させる草。

【有終】イウシュウ 終をまつたうすること。例「有終之

美。」(靡レ不レ有レ初、鮮ニ克有レ終。)

【優柔不斷】イウジュフツ 決断力の乏しいこと。○優

遊

【有識】イウシキ ものしり。學者。

【宥恕】イウジョ 寛大に扱ふこと。ゆるして責めない

こと。

【幽人】イウジン 世を逃れて静かな處に住む人。

【耽贅】イウジ こと。いぼ。○むだなもの。

【幽邃】イウスイ 奥深いこと。○深遠。

【幽棲】イウセイ 世をばなれた静かな土地に住むこと

○幽居。

【遊説】イウゼツ 諸國を廻つて己が意見を説き動める

こと。

【油然】イウゼン 雲の盛に起るさま。

【右族】イウシツ すぐれた家柄。○名門。有姓。

【有道】イウダウ 道德を身にそなへてゐること。又そ

の人。

【游敗】イウバイ かりをして楽しむこと。なぐさみの

かり。○游獵。

【雄圖】イウトウ すぐれて大きいばかりこと。

【右筆】イウヒツ 昔、貴人に侍して物を書くことを掌

つた役。かきやく。(右はマスケル意)○書記。祐

筆。佑筆。

【尤物】イウブツ すぐれてよい物、特に美人にいふ。

○逸品。

【猶豫】イウイ ぐづぐづして進退を決しないこ

と。○時日を延ばすこと。

【游豫】イウイ 遊び楽しむこと。(豫はタノシム)

【揖讓】イフジヤウ(ジヤウ) おじぎをしてへりくだる。(揖

は支那の禮法。手をこまぬいて或は上下にし或は

左右にすること)

【夷憚】イイハ 心が安らかでよろこぶ。○夷悦

【怡懌】イイセキ よろこぶ。よろこび。

【怡悅】イイエツ よろこび楽しむ。よろこび。

【己降】イイカウ それから後。○以降。以還。以來。

【依稀】イイキ 稀似去年。○よく似てゐるさま。例「風景依

稀似去年。○ぼんやりとして判然しないさま。

【衣魚】イイゴ 衣服・書籍などの中に生じて、それ

を食ふ虫。しみ。○蠹魚(イイゴ)

【郁郁】イイク 香氣の盛んなさま。○穠郁。

【育英】イイク 英才を教育すること。

【衣冠之盜】イイクワン (衣冠を着けながら、その職

責をつくさぬものを習つていふ語) 祿ぬすびと。

【異彩】イイサイ 異なつた色どり。すぐれたおもむき。

【圯橋】イイク 土橋。

【夷險】イイク 平らかな處とけはしい處。

【呬語】イイク 讀書の聲。○伊吾。

【頤使】イイク 言語を發せすあごで指圖して使ふこ

と。(他人を輕んじて使ふ意。)

【異志】イイク そむかうとする心。二心。○異心

【異日】イイク 他日。ほかの日。

【畏日】イイク おそるべき日。夏のあつ日。△之

に對して冬の日を「愛日」といふ。

【蝟集】イイク 物事の多く集まるさま。(蝟は針れ

すみ。蛸の毛のやうに集まる意。

*【倚藉】シヤ 他にたよること。(倚は他にヨリタノムこと、藉はタスケルこと。即ち他に依りて己の助とする意。)

*【意匠】シヤウ 工夫をこらすこと。例「意匠慘憺」
|| 工夫をこらすに苦心すること。

【意趣】シユ 志す所。意の赴く所。

◎遺恨。

【怡色】シヨク よろこばしさうな顔色。

【威信】シキ 威勢と信望。○威望。

*【懿親】シン 親族間の至つて美しい親しみ。(懿はウツシイ意。)

*【依然】ゼン 元のまゝ。そのまゝ。

【夷道】ダイ 平らかな道。○平道。

【唯諾】ダイ 他人の言に少しも逆らはず承諾すること。○唯唯諾諾。

*【夷坦】タン ①たひらかなこと。○平坦。

◎心にわだかまりのないこと。

*【異端】タン 聖人の道に背いて他の説をなす者。

自分の修める道と異なる道。

【逸遊】イウ 心にまかせてあそぶ。きまゝに遊ぶ。

○佚遊。逸樂。

*【一葉】エフ 一艘の小舟。○一葦。

【一毫】ガウ (一すぢの毛) 物の極めてわづかなこと。

*【一字之師】イチジ 一字を教へて貰つたほどの一すした先生。

*【一日之長】イチジツノ (一日だけ先に生まれてゐること) 學問・經驗などの少しばかり優れてゐること。

【一人】ジチ ①天子に對する尊稱。◎天子の自稱として用ひられる。

【一瞥】ベツ ①ちらりと見る。○瞥見。◎ざつと目を通す。

【一面識】イチメンシキ 一度面會して見知つただけのこと。いさゝかの知合の間柄。

*【一樹肉】イチジュニク 一きれの肉。

【一縷】ルイ (二筋の糸) 微かな一つのつながり。

*【一家言】イツカ 自家一流の學說や意見。

*【一介】カイツ ①(介は芥の意) 極めてわづかなこと。◎(介は介に通ず) 一人。

*【一更】カイツ 午後八時頃。○初更。甲夜。

【一簣】キツ 一もつこの土。(簣は土を運ぶ爲のかご。)

【逸居】イツキヨ 氣樂に暮らすこと。

【逸材】イツサイ 衆にすぐれた材能、又は衆にすぐれた材能をそなへた人。○逸才。軼材。

*【逸事】ジツ 世に知られてゐない事がら。○軼事。

【一資半級】イツシハキウ 少しの祿やつまらぬ官。○一階半級。

【一隻眼】イツセキ 一かどの見識。衆人と異なる見識。

【逸足】イツツク ①足の早い馬。◎逸材。俊才。

【一知半解】イツチハケン なまもの知り。なまかじり。○半可通。

【一丁字】イチテイジ 一箇の文字。一字。

*【一天四海】イツテン (一天の下、四海の内の意) 天下。○海内。宇内。

*【一抔土】イツバツ 片手ですくふほどのわづかの土。

*【一般】イツパン ①同様。一樣。◎通常。△特殊の對。

*【一斑】イツパン (豹の毛皮の一つのまだら) 一部分。

*【一臂】イツベツ (かたうで) わづかばかりの助力。

*【溢美】イツビ ほめすぎるること。
*【逸品】イツピン すぐれた品格。書畫などの特にすぐ

れたるものにいふ。

【逸民】イミン 世をのがれ、心にまかせて暮す人。

【乙夜之覽】イフヤノラン 天子の御書見。(乙夜は今の午後十時頃、政務に御多忙な天子はその頃に至つて始めて讀書遊ばされたから。)

【夷狄】イテキ ①東方の蠻族と北方の蠻族。②野蠻人。えびす。

【異圖】イト むほんの企。

【異同】イドウ 同は帶字。①異なるものと同じもの。②ちがひ。

【悲望】ハイボウ 怒りうらむ。○悲恨

【意馬心猿】イバシンエン (意は馬の如く馳せ、心は猿の如く騒ぐ意。)心が物慾の爲に馳せ騒いで、制し難いこと。

【倚馬之才】イバノサイ 馬によりかゝつて待つ間に、千萬言の文章を作る程のすぐれた才能。

【夷蠻戎狄】イユワンテキ 四方の野蠻國。○東夷西戎

南蠻北狄。

【萎靡】ヒキ 衰へて振はないさま。

【畏伏】ワイフク おそれしたがふ。○畏服。

【以聞】イケン 天子に申し上げる。上聞に違する。

【挈家】ケツカ 家族を殘らず引き連れること。

【夷滅】イメイ 平らげほろぼす。

【畏友】ワイユウ 尊敬する友。

【怡樂】イラク よろこび楽しむこと。

【倚閭】イリョ (里門に倚る意。)母が他國にあるわが子の歸るのを待ちわぶること。○倚門之望。

【彝倫】イリン 人の常に踐み行ふべき道。(彝は常、倫は理又は道の意。)

【漪漣】イリン さざなみ。○漣漪。漪漣。

【已往】イワウ ①それより前。今より前。既往。②これから後。向後。以後。○「以往」とも書く。

【依違】イワイ (依るとも違ふとも決し兼ねる意)

心のしかと決しないさま。どつちつかずの状態。

○首鼠兩端。

【異域鬼】イキキ 外國で死んだ者。

【隱逸】イン 世をのがれて暮すこと、又さうして居る人。○隱者。隱士。隱君子。

【殷殷】イン ①憂ふるさま。②物事の盛んなさま。③音の盛んなさま。④支那の一時代の名、商ともいふ。

【淫雨】ウイン ながあめ。○霖雨(ウイン)

【陰翳】イン うす闇く茂つたかげ。

【因縁】エン つゞき、たより。

【殷鑑】カン 他人の失敗の例。例「殷鑑不遠」カラ

□殷は支那古代の國名。鑑は戒となすべき事例の意。

【殷勤】ギン れんごろなること。丁寧。○「殷勤」とも書く。

【引決】ケイツ 責を引いて自殺すること。

【引見】ケイン 人をひき入れて對面すること。○引接。延見。

【因襲】イン 従來のならばし。しきたり。○因習

【因循】イン ①従來のしきたりによりしたがふ。②思ひ切りがわるく、ぐづ／＼すること。

【殷賑】イン 盛にしてにぎはふこと。

【允當】ウン 「適當」に同じ。

【隱匿】イン かくす。かくまふ。

【隱忍】イン 心に秘めてこらへしのぶこと。つらいのを我慢すること。

【隱微】イン かくす。かすかで見にくいさま。

【淫靡】ビン みだらなこと。風儀の正しくないこと。

【殷阜】イン (阜は大の意。)盛大なるさま。

【允文允武】インブン 天子が文武の兩道に秀でたまふことに申し上げる語。(まことに文、まことに

に武の意。

【湮没】ボイン うづまつてわからなくなること。

【湮滅】マイン さえうせる。○埋滅(マイン)

【因由】ユイン もと。おこり。

う

*【烏有】イウ (いづくんぞ有らんやの義) 跡かたのなくなること。例「大廈高樓歸^{セリ}烏有^ニ」

【紆鬱】ウツ 氣の結ばれてのびないさま。

【于役】エキ 君命を奉じて他國へ使すること。又遠く出征すること。(于はユク、役は職務・戦争などの意)

*【烏合之衆】シウガウノ 烏の集まつたやうな規律も訓練もないよりあつまり。

【紆曲】キョク 曲りくねつてゐること。

*【羽化】ウワ 仙人となること。例「羽化登仙。」

【鳥啄】クワイ (鳥のやうな嘴) 怒の深い人相。

*【迂濶】クワツ 事情にうといさま。

【羽檄】グキ 至急の意を表す爲に、鳥の羽をつけた回し文。○飛檄。羽書。

【雨師】ウシ 雨を降らせるといふ神。

*【丑刻】ウシノ 今の午前二時頃。

*【羽觴】ウヤウ 支那で雀の形に似せて作つたといふさかづき。

*【迂儒】ジュ 書物の上の學問ばかりをして、世の中の事情に通じない儒者。

【胡散】サン 怪しく疑はしいこと。○胡亂(ウロ)

【胡亂】ロン (字の廣東音) かりそめなること。間にあはせであること。○怪しく疑はしいこと。合點のゆかないこと。

*【宇内】ウイ 天下。世界中。

*【有頂天】ウチヤウ 物事に熱中して他の事を忘れること。夢中。

【鬱憂】イウ 心が結ばれて憂のあるさま。

【鬱鬱】ウツ 草木のしげつてゐるさま。○氣分の寒がるさま。

【鬱蒼】ウツ 草木の青々としげるさま。

*【鬱勃】ボツ 盛に起り立つさま。

*【烏兔】トウ (日輪には鳥が居り、月輪には兔が居るといふ) 日見のこと。用例「烏兔匆匆」(ウトサウサウ) 月日のたつことの早いこと。○金鳥玉兔。

【紆餘】ヨウ ①まがりくねること。②まはりど

ほいこと。③露骨に物事をしないこと。例「紆餘曲折」彼にわたり此にわたつて直接でないこと。

【雨潦】ラウ 雨が降つた爲に生ずる水たまり。にはたづみ。○行潦。

【禹域】ウキ 支那のこと。(禹は支那の古代の帝王の名)

【迂遠】ユエン 實地の役に立たないこと。世事にう

といふこと。

*【蘊奥】アウ 學問技藝などの奥深いところ。

*【雲漢】カン あまのがは。○天漢。銀河。

【雲霓】イ 雲とにじ。

【雲根】コン 石の異名。(雲は石に觸れて生ずるといふから) 例「积水瀾^ス雲根[」]

【雲際】サイ 雲のあたり。

【雲集】シウ 雲の如く多く集まること。例「四夷雲集」○雲衆。雲屯。

【醞藉】ウシヤ(チヤ) 心が廣くおだやかなこと。

【醞釀】ウシヤウ ①酒をかもすこと。②天地が萬物を造ること。

【耘鋤】ジュン ①くさざりすく。②平定する。

【雲濤】タウ 遠く天際に見えるなみ。

*【蘊蓄】ウツ ①積みたくはへたもの。②深く修養を積むこと。

【雲梯】ウン (雲へと行くほどの長い梯)古、城を攻める時に用いた梯。

【雲帆】ウン 遠く雲間に見える船。

【雲表】ウン 雲のおもて。雲の上。例「富嶽巍然 雲表。」

【云爲】ウン 言行。言論と行爲。

え

【楹】エイ 圓くて大きい柱。例「碧瓦丹楹」みどり色の瓦とあかいほしら。

【瘞】エイ 死骸をなされた處。ほか。例「發瘞」

【銳意】エイ 心をげまじつとめること。専念すること。例「銳意圖治。」

【營營】エイ ①しげく往來するさま。②利を求め

【翳翳】エイ かげつて明らかでないさま。例「景翳」

【榮耀榮華】エイ 栄耀。はで。おごり。

【瀛海】カイ 大海。大洋。(瀛だけに大海の意がある。)

【嬰孩】ガイ 二三歳の子ども。○嬰兒○幼孩

【盈虧】キイ みちかけ。(主として月についていふ。)

【影響】キイ ①かげとひびき。例「天之應人」

【郢曲】キヨク ①卑俗な音曲。流行の俗曲。(楚の都なる郢の人の歌ふ音曲の意。)

【永訣】ケツ ながの別れ。死別。

【穎悟】エイ 秀でてさといこと。非常にかしこいこと。例「幼而穎悟。」

【永劫】ゴウ 極めてながい年月。(劫は佛教で極

めて長い時間ないふ。)

【叡才】エイ すぐれてさといはたらき。

【瘞藏】ザイ うづめをさめる。

【叡旨】エイ 天子の仰。勅旨。△叡慮・叡算等の意をも類推せよ。

【英資】エイ 人にすぐれた生まれつき。

【嬰守】エイ 城を嬰つて固く守ること。(嬰はカ、ルと訓み、めぐるの意。)

【榮辱】エイ さかえとほづかしめ。名譽と恥辱。

【叡聖】エイ 天皇のすぐれておかししくいらせられること。

【裔孫】エイ 遠い子孫。(裔は衣の裾、末の意となる。)

【瑩澤】エイ 玉のやうに美しい色つや。

【榮達】エイ 身分がよくなり榮えること。立身出世。

【穎脱】エイ (囊中の錐の先がぬけ出る意。) 才

智の衆にぬきんで現はれること。

【英斷】ダン すぐれた決斷。

【叡智】エイ すぐれてさとい智慧。(叡は深くあきらかなる意。)

【裔胄】エイ 遠い子孫。(裔は衣服のすそのこと。)

【銳鋒】エイ ①するどいほこさき。②あたり難い勢。

【英邁】メイ 才智の人より超えすぐれてあること。

【贏餘】エイ あまり。○餘贏。剩餘。

【叡覽】エイ 天子の御覽になること。○天覽。あまし得た利益。まうけ。

【瑩曳】エイ ①ゆらくと動き引くこと。例「白雲瑩曳。」

②音楽などの餘韻の長くひくさま。例「孤琴又瑩曳。」

【徭役】 エキ 義務によつて政府の工事に使役されること。

【搖撼】 カン ウ うごく。うごかす。

【妖怪】 クワイ イ ばけもの。

【要撃】 ダキ キ 途中にまちぶせをして撃つこと。○遊撃。

【要訣】 ケツ フ かなめである奥義、又それを説いた書物。

【妖祥】 シヤウ リ わざはひのきざし。

【徭戍】 ジエウ シ 邊地國境を守るに使はれる兵。

【天壽】 ジエウ シウ 短命と長命。

【要衝】 ショウ ショウ 肝要な所。

【要人】 ジエウ ジン 顯要の地位にある人。

【夭折】 ヤツ セツ わかじに。○天死。夭逝。

【幼沖】 チュウ シウ いとけないさま。(沖もいとけなき意) 例「幼沖天子。」

【窈窕】 テウ テウ しづかでしとやかなさま。 例「窈窕淑女」

【妖冶】 ヤウ テウ なまめかしく美しいさま。○艶冶。

【搖籃】 ラン ラン ①ゆりかご。②嬰兒時代。 故郷を「搖籃の地」といふ。

【要路】 ロウ ロウ ①肝要な道筋。②顯要な官。

【役役】 エキ エキ 力を勞するさま。 例「終身役役而不可見其功。」

【奕葉】 エキ エキ 世を重ねること。(奕は重ねる意) ○代々。累代。累葉。奕世。

【釋騷】 シヤウ サウ 人馬のうちつゞいてさわがしいこと。

【易簣】 ヤク サク 賢人の死ぬこと。□曾參が病が篤くなつた時、その數いてゐた簣(臥床に敷くむしろ、この時の簣は曾參が曾て季孫氏から貰つた大夫用の物であつた)を身分不相應だといつて、取りかへさせて死んだといふ故事から出た語。

【驛亭】 テイ テイ 宿場。

【役夫】 フキ 人足。人夫。

【掖門】 モン モン 大門のわきにある小門。

【疫癘】 レイ イ ばやりやまひ。○疫病。

【驛路】 ロキ ロキ 宿場々々を通つてゐる路。うまやち。

【依怙】 コエ コエ ①たよる。力とたのむ。②父母。

△國語としては偏頗の意に用ひて「依怙最負」といふ。

【悦服】 プエツ フ 心から喜び従ふ。心服する。

【悅豫】 ヨエツ ヨ よろこび楽しむ。○悅樂。

【奄有】 エン ヨウ (おほひたもつ意) 盡く占有する。 例「奄有天下。」

【讌飲】 エン イン さかもり。○宴飲。燕飲。

【簷宇】 ウエン ウ のき下。○檐宇。

【煙雨】 ウエン ウ 曇りあめ。細雨。例「多少、樓臺煙雨中。」

【演繹】 エン イン 意義をたづねのべること。敷衍して

のべること。△論理學上では、一般の原理から特殊の事理を推定すること。「歸納」の對。

【奄奄】 エン エン 息のたえ／＼なさま。例「氣息奄奄。」

【蜿蜒】 エン エン うね／＼と長くつゞくさま。○蜿蜒。

【煙霞】 カン カン ①煙と霞。もや。かすみ。②山水の風景。 例「煙霞癖」旅行して山水の風景を賞することをおむ癖。

【演義】 エン イン 事實を引きのばして面白く詳しく述べること。

【宴居】 エン イン 何もすることがなく、ひまで居ること。家でくつろいでゐること。○燕居。

【燕居】 エン イン 安息して家に居ること。(燕は安んずる意)。

【掩擊】 ダケン 敵の不意を襲ひうつこと。

【偃月刀】 タンゲツ ナギなた。(刀身が偃月(半月に達しない月)に似てゐるから)

【延見】 ケン ケン 呼びよせて對面する。引入れて會ふ

○引見。

【**偃蹇**】ケン ①驕り高ぶるさま。例「彼皆偃蹇、將^レ棄^ニ子^ノ命^ト。」②岩石の奇怪なさま。例「偃蹇雲根」(雲根は一三頁を見よ)

【**淵源**】ゲン 事の本源。みなもと。

【**簷際**】サイ のきぎは。

【**鉛槧**】ゼン ①鉛は文字を書き、又は消すに用ひる鉛粉、槧は紙の代りに用ひた板。②筆と紙。③文筆の業。

【**燕席**】セン さまもりの席。○宴席。

【**燕石**】セン 眞價の無いものの喩に用ひる語。

□燕山から出る石は玉に似てゐるので、宋の或愚人が之を眞の玉と信じて世の物笑となつたといふ故事から出た語。

【**嫣然**】ゼン につこりと笑ふさま。

【**淵然**】ゼン 深くしづかなるさま。○淵乎。

【**淵叢**】ゼン (魚の集まる淵と虫の集まるくさむら)

ら)物の多く集まる所。○淵叢。

【**煙波**】エン もやのたちこめた波の上。

【**演武**】エン 武藝を稽古すること。

【**偃武**】エン (武をなさめる意。) 戦もなく天下泰平なこと。○偃戈(クワ)

【**淵默**】モン 静かで物を言はないこと。

【**艶冶**】エン なまめかしく美しいこと。

【**淹留**】エン 久しく滞在すること。

【**簷溜**】エン のきのしづく。あまだれ。例「共聽簷溜滴。」

【**炎涼**】エン ①あつさとすゞしさ。②人情の厚いことと薄いこと。例「榮枯異^ニ炎涼。」

お

【**蓊鬱**】ウツ 草木のこんもり茂るさま。

【**謳歌**】ウタ ①衆人が聲を揃へてよるこびうたふ。②天子の徳を有難がつてほめうたふ。

【**應酬**】ウウ むくいる。返禮する。○應答。

【**毆打**】ウウ 人をなぐりうつこと。

【**嘔吐**】ウウ へどをはくこと。あげること。

【**鷹揚**】ウウ ①鷹の空に飛び揚つてゐるやうに武勇を奮ふこと。②日本では、寛大で細事に拘らぬこと。おほまか。○大様。

【**臆說**】ウウ 確かな根拠もなく立てた説。あて推量の意見。(臆は自分の胸、自分の心の意。)

【**臆測**】ウウ 自分一存でおしはかること。あて推量。○臆見。

【**臆度**】ウウ (度ははかる意)おしはかる。臆測の判断。自己の胸で推測つてと

【**億兆**】ウウ ①億の數と兆の數。②限なく多い數。③萬民。衆庶。例「億兆一心。」

【**乙夜之覽**】ウウ 天子の御書見。天子の御讀書。○「イツヤノラン」を見よ。

【**淤泥**】ウイ どろ。どろつち。○汙泥

【**解頤**】ウイ (あごをはづす意。) ①談話が巧妙なので、感歎のあまり覺えず口をあいて茫然自失すること。②大いに笑ふこと。

【**枉己**】ウイ 自分の主義・主張をすてて他人に従ふこと。○屈己。

【**直己**】ウイ 自分を正しくする。正直にする。胸中を空虚にする。即ち私心を去つて人のいふことをまろけ入れること。

【**恩顧**】オン 恵を施しかへりみること。ひいき。

【**恩典**】オン なさげのある處置。

か

【**艾安**】ガイ 治まつて安らかなこと。(艾はなさをる意。)

【**介意**】カイ 氣にかけること。心にとめること。

【解頤】カイ 「オトガヒナトク」を見よ。

【皚皚】ガイ 霜や雪などの白いさま。例「涉シ積ツキ雪之皚皚」。

【諧謔】ガイ おどけ。じやうだん。

【開襟】カイ (着物の襟をひろげる意) 心中をうちあける。うちとける。

【開豁】カイ 眼をさへきるものがなく、眺望の開けてゐること。心が廣くゆつたりとしてゐること。

【戒嚴】ガイ 敵の來攻する虞ある時、きびしく警戒すること。戦時又は事變により、全國又は一地方を限り、兵備を以て警戒すること。

【開眼】ガイ 新に出來た佛像を神聖にするため、僧を招いて行ふ式。

【邂逅】カイ めぐりあふ。圖らず出遇ふ。

【介在】カイ はさまつて居る。中間に在る。

【睚眦】ガイ 目をみはつて見ること。例「睚眦

之怨」ちよつと睨まれた位のわづかな遺恨。

【開鑿】カイ 新道をきり開くこと。堀割などを作ること。

【改竄】ガイ 改めかへる。

【海市】カイ 蜃氣樓。

【涯涘】ガイ みぎは。かぎり。はて。

【鎧仗】ガイ 兵器。○兵仗。

【介錯】ガイ 切腹の時、附添うてその人の首を斬る役。附添うて世話する人。

【海若】ガイ 海の神。

【戒心】ガイ 非常に備へる心。心に油斷しないこと。例「當ル在レ薛也、予有ニ戒心。」○用心。警戒。

【害心】ガイ 人を傷つけたり殺さうとしたりする悪い心。

【慨世】ガイ 世の態をなげき憂ふること。

【海澨】ガイ (澨はミギハ、水邊の地。) 海岸。

【蓋世之才】ガイ 一世を歴する程のはたらき

【剗切】ガイ よくあてはまる。○適切。

【介然】ゼン 物がはさまつて氣にかゝるさま。○孤立のさま。固く守つて變ぜざるさま。○しば

らくの間。驚いたさま。

【駭然】ゼン 驚いたさま。

【階前萬里】ガイ 君主が極めて下情に通じ給ふことなどの喩。(萬里の遠い所も手近のきざは

しの前にあるやうによくわかるといふ意。)

【拐帶】カイ 人から委託された物品を持ち逃げすること。

【芥蒂】カイ ①あくたと小さいとげ。②僅かなさし

しはり。鎖細なもの。③鎖細なもの。おこたる。なまける。

【懈怠】カイ (四海の内の意。) 國內。天下。

【該當】ガイ あてはまる。(該もあたる意。)

【開拓】カイ 荒地を新に開くこと。○開墾。

【街談巷説】ガイ 街巷につたはるうはさ。世間の評判。

【戒飭】カイ いましめる。慎ませる。

【介冑之士】ガイ 鎧兜で身を固めた武士。

【開陳】ガイ 申しのべる。(陳はならべる意。)

【階梯】ガイ 階段。端緒。手引。入門。

【孩提】ガイ (やつと笑ひ抱きかゝへる位の年頃の子供。二三歳位の子供。○孩兒。幼孩。孩嬰。

の) 子供。二三歳位の子供。○孩兒。幼孩。孩嬰。

【諧調】ガイ 滑らかに心地よく聴覺に感ずるやうに調べた音。読んで調子のよい語句。

【艾年】ガイ 五十歳。(艾はよもぎ。髪の色の蒼白なの喩へる。)

【介抱】ガイ ①たすけいやく。②病者又は負傷者の世話をすること。看病する。

【該博】ガイ 學問のひろいこと。(該は兼ね備へる意。)

【開闢】ガイ 世界のひらけはじめ。

【借老同穴】ドカイラウ 夫婦の契。(生きては共に

老い、死しては墓穴を同じくして葬られるの意。)

【借樂】ラカイ 衆人と共に楽しむこと。

【解纜】ラン ともづなをとく。○出帆。拔錨。ハバツベウ)

【薤露】ロカイ (へらつきよの上の露の意。)

○人生のほかないことの喩。○送葬の時、柩をひく者のうたふ歌。○挽歌。

【諧和】ワイ やはらぎあふ。融和する。

【膏雨】カウ 萬物をうるほして發育を助ける雨。○滋雨。

【衡宇】ウウ ①木を横たへた軒。粗末な家。

②かぶき門と家の屋根。③かぶき門。例「乃_ナ乃_ナ乃_ナ衡宇_ウ一載欣載奔_{ベン}」

【耕耘】ウツ たがやし草ぎる。田畑の手入れをする。

【行雲流水】リウスイ (浮んでゐる雲と流れ行く

水。物に應じ事に従つて行動することの喩。○行脚僧のことを「雲水」といふのは、これから来たのである。

【交易】エキ 物品の交換。

【耿介】カウ 堅く操を守ること。

【慷慨】カウ 國家社會の爲になげき憤ること。

【梗概】ガイ あらまし。大略。○梗概とも書く。

【耿耿】カウ 心に存して忘れ得ないさま。

【行客】カウ 旅人。

【塊确】カク 石の多いやせた土地。○塊塹(カウ)

例「燕地塊确」

【老覈】カク 考へしらべる。○考査。

【狡黠】カク わるがしこくするいこと。

【好下物】カク 善いさかな。

【好漢】カン 役に立つよい男。よい人物。丈夫。

【浩瀚】カン ①廣大なさま。②書物の多いこと。

書物の紙数の多いことにもいふ。

【厚顔】カウ あつかましいこと。恥を知らないこと。

【亢顔】ガン えらさうな顔をする。傍若無人

のさま。例「亢顔談_ズ」○抗顔とも書く。

【傲岸】ガン 氣を高く構へて言行のかどだつてゐること。例「崔生何傲岸_{ソル}」

【灑氣】カウ 天地の氣。大氣。空氣。

【綱紀肅正】カウキ 國家を治める規則や社會を

秩序だてる道徳などを引締め正しくすること。

【香魚】キョウ 鮎。鮎アサギ

【康衢】カウ 大通り。大道。(五達を康といひ、

四達を衢といふ。)

【高臥】カウ 世を避けて隠れ居ること。

【狡獪】カウイ わるがしこいこと。

【膏肓】カウ 體内で針藥の力の及ばない所。偶

「病入膏肓」

【交驩】カウ 交際して歡心を得ること。ともく

楽しむこと。○交歡とも書く。

【狡譎】ケツ わるがしこく嘘をつくこと。

【纈纈】ケツ しぼり染。古語では「ゆはた」といふ。

【阜月】グツ 陰曆五月の稱。さつき。

【巧言令色】カウゲン 言をたくみにし、顔色をよ

くして、媚びへつらふこと。例「巧言令色鮮矣仁」

【江湖】カウ (河とみづうみ) 世の中。世間。

【硬骨】コウ (かたい骨) 權勢などに屈しない意

【好在】ザイ 無事で暮すこと。健在。

【行藏】ザウ 進んで事を行ふことを行といひ、退

いてかくれることを藏といふ。○出處。進退。

【高士】カウ ①徳の高い人。②志を高尙にして官

に仕へない人。

【嗚矢】シカウ 事のはじめ。おこり。(昔、戦争を開始する前に發射した一種の矢。かぶら矢。) ○
濫觴(シヤウ)

【更始一新】イウシン 舊いものをすつかりあらためて、新しく始める。○革新。

【好事家】ジカウ (スカ) 奇異な物事に深く興味を持つて心を寄せる人。ものすきな人。

【行尸走肉】ソウニク (歩く死骸や走る肉) 無能遊食の徒。

【膠漆】シカウ (にかはとうるし。何れも物を固着するもの。) 人の相親しむことの深きに喩へる。
例「膠漆之交。」

【好尚】シヤウ 好みたつとぶもの。このみ。

【浩湯】シヤウ 水の廣く流れるさま。各語を重ねて浩浩湯湯ともいふ。例「浩浩湯湯 横無際涯。」

【翱翔】シヤウ 鳥が空を飛びかけること。

【綱常】シカウ (三綱五常の略) 人の守るべき大きな道徳。

【行人】シカウ ①路を行きかふ人。 ②旅人。 ③取次の人。

【交綏】スカ (綏は退軍の意。) 敵味方が互に軍を引きあげること。例「晋楚乃皆出 職交綏。」

【更生】セウ よみがへる。○蘇生。

【高世之行】オコセイノ 一世にすぐれたよい行。

【交睫】セウ (上下のまつげをかはす意。) 眼を閉ぢること。眠ること。

【浩然之氣】カウゼン ①道徳的意志を決行する心の勢力。「正大之氣」を参照せよ。 ②愉快なこころもち。

【高足】ソク 弟子中のすぐれた者。○高弟。逸足。

【梗塞】ソク ふさがる。 へらす。なくする。 ①廣々したさま。浩洋ともいふ。

【耗損】ソク

【浩蕩】カウ ①廣々したさま。浩洋ともいふ。

【行李】リカウ ①旅行に携へる荷物。 ②使者。

【毫釐】リカウ 極めて僅かな分量(釐は一分の十分の一、毫は釐の十分の一。) 例「毫釐の失。」

【膏粱之子弟】シカウリヤウノ 富貴の家の子弟。(膏粱はあぶらぎつた肉と美穀、轉じて美食。)

【綱領】リカウ 物事の大局目。おほもと。 ①二本の柱に一本の横木をわたした門。かぶき門。

【宏謨】ボカウ 大きなばかりこと。○宏猷。

【抗辯】ベン 張り合つてする議論。○抗言。抗論。

【考妣】ヒカウ 死んだ父母。亡父母。

【糠粃】ヒカウ (ぬかとしひな) 粗末な食物。

【剛愎】ガク 剛情でかたくななこと。かたいぢ。 ①天上にのぼりつめた龍。例「亢龍有悔。」 ②尊貴を極めたものは、謹慎しなければ敗亡の悔があるといふことの喩。

に仕へない人。

【嗚矢】シカウ 事のはじめ。おこり。(昔、戦争を開始する前に發射した一種の矢。かぶら矢。) ○
濫觴(シヤウ)

【更始一新】イウシン 舊いものをすつかりあらためて、新しく始める。○革新。

【好事家】ジカウ (スカ) 奇異な物事に深く興味を持つて心を寄せる人。ものすきな人。

【行尸走肉】ソウニク (歩く死骸や走る肉) 無能遊食の徒。

【膠漆】シカウ (にかはとうるし。何れも物を固着するもの。) 人の相親しむことの深きに喩へる。
例「膠漆之交。」

【好尚】シヤウ 好みたつとぶもの。このみ。

【浩湯】シヤウ 水の廣く流れるさま。各語を重ねて浩浩湯湯ともいふ。例「浩浩湯湯 横無際涯。」

【翱翔】シヤウ 鳥が空を飛びかけること。

【綱常】シカウ (三綱五常の略) 人の守るべき大きな道徳。

【行人】シカウ ①路を行きかふ人。 ②旅人。 ③取次の人。

【交綏】スカ (綏は退軍の意。) 敵味方が互に軍を引きあげること。例「晋楚乃皆出 職交綏。」

【更生】セウ よみがへる。○蘇生。

【高世之行】オコセイノ 一世にすぐれたよい行。

【交睫】セウ (上下のまつげをかはす意。) 眼を閉ぢること。眠ること。

【浩然之氣】カウゼン ①道徳的意志を決行する心の勢力。「正大之氣」を参照せよ。 ②愉快なこころもち。

【高足】ソク 弟子中のすぐれた者。○高弟。逸足。

【梗塞】ソク ふさがる。 へらす。なくする。 ①廣々したさま。浩洋ともいふ。

【耗損】ソク

【浩蕩】カウ ①廣々したさま。浩洋ともいふ。

【行李】リカウ ①旅行に携へる荷物。 ②使者。

【毫釐】リカウ 極めて僅かな分量(釐は一分の十分の一、毫は釐の十分の一。) 例「毫釐の失。」

【膏粱之子弟】シカウリヤウノ 富貴の家の子弟。(膏粱はあぶらぎつた肉と美穀、轉じて美食。)

【綱領】リカウ 物事の大局目。おほもと。 ①二本の柱に一本の横木をわたした門。かぶき門。

【宏謨】ボカウ 大きなばかりこと。○宏猷。

【抗辯】ベン 張り合つてする議論。○抗言。抗論。

【考妣】ヒカウ 死んだ父母。亡父母。

【糠粃】ヒカウ (ぬかとしひな) 粗末な食物。

【剛愎】ガク 剛情でかたくななこと。かたいぢ。 ①天上にのぼりつめた龍。例「亢龍有悔。」 ②尊貴を極めたものは、謹慎しなければ敗亡の悔があるといふことの喩。

【伉儷】^{カウ} つれあひ。配偶。

【行路】^{カウ} ①道を行くこと。②道を行く人。
●世渡り。例「行路難、不_レ在_レ水、不_レ在_レ山、只在_二人情覆_一間。」

【網維】^{カウ} (大づなの意) 國家を治める大もとの法規。

【好惡】^{カウ} このむこととにくむこと。△惡をテとよむ時はにくむの意となり、アクとよむ時はわるしの意となる。

【牙營】^{エイ} 本陣。本營。(牙は竿頭に象牙の裝飾ある天子の旗、又は將軍の旗である。)

【荷葉】^{エフ} ①蓮の葉。②蓮の葉の霜がれた形に石のしわを畫く法。

【賀筵】^{エン} 祝の酒もり。○祝宴。

【嘉肴】^{カウ} よいさかな。○嘉殺。佳肴。

【牙旗】^{キガ} 大將軍の旗。

【家居】^{キヨ} ①外出せず家に引籠つてゐること。

と。●仕官せずに家に居ること。

【瑕瑾】^{キン} ①玉のきず。②きず。缺點。

【赫耀】^{エウ} かゞやかしいさま。

【赫奕】^{エウ} 光りかゞやくさま。

【呵呵】^{カカ} から／＼と笑ふ。例「呵呵大笑。」

【峨峨】^{ガガ} 山の高くけはしいさま。

【娥娥】^{ガガ} 美人の形容。容貌のよいさま。

【下學上達】^{シカウ} ①下は人事を學び、上は天理に達すること。②卑近な所から學んで高遠な理に達すること。

【下瞰】^{カン} 高い所から見おろす。○俯瞰。

【河漢之言】^{カカン} とりとめのない言葉。(河漢は天の河のこと。)

【赫赫】^{カク} ①太陽のきら／＼とかゞやくさま。②功名などの耀くさま。

【譎譎】^{ガク} 是非を直言するさま。例「千人諾諾不_レ如_二一士之譎譎_一。」

【客氣】^{キカク} 激しやすい盛んな氣。一時のはやり氣。血氣。

【恪勤】^{キカク} つゝしみつとめること。例「朝夕恪勤、守_二以_三惇篤_一。」

【架空】^{カウ} ①空中にかけたすこと。②據所のないこと。例「架空の論。」

【雅懷】^{カウ} たゞしく美しいおもひ。風流な心。

【加冠】^{カウ} 男子が二十歳に達した時、始めて冠を着けること。又その儀式をいふ。○元服。

【家君】^{カウ} 父。○家殿。

【客作】^{カク} 人にやとはれて働くこと。例「匡衡乃_二與_レ人客作_一。」

【拮殺】^{サツ} 手でうち殺す。

【客愁】^{シウ} 旅のうれへ。旅先でのものさびしい思。○旅愁。客恨。

【確執】^{シツ} ①固く自説を主張して曲げないこと。②雙方の間が不和になること。

【學匠】^{シヤウ} 學者。師匠。

【鶴首】^{シユ} 首を長くのばして待つ。甚だしく待つ。○翹首(ゲウシユ)。

【學殖】^{シヨク} 學問の素養。

【隔世】^{セカイ} 時代を異にすること。例「隔世の感」

【赫然】^{ゼン} ①くわつと怒るさま。例「赫然發憤。」②あらはれて盛んなさま。

【愕然】^{ゼン} 驚くさま。

【愕眙】^{チガク} 驚いて目をみはること。

【角逐】^{チカク} ①おひかけあふ。②せりあふ。競走する。

【角抵】^{ナカク} すまふ。○角力。相撲。

【赫怒】^{ドカク} くわつと怒る。ひどく腹を立てる。

【拮闘】^{トウ} つかみあふ。くみうちする。「格闘」
とも書く。(筆をさしおく意)書くことを止め

る。○「開筆」とも書く。

【岳父】フツ 妻の父。「嶽父」とも書く。○岳翁。

【格物致知】カクブツ 事物の理をききはめて極處にいたり、かくして自分の知を増し明かにしてゆくこと。大學「致知在格物。」

【革命】カクメイ (天の命のあらたまる意。) 一國の王統のかはること。

【閣老】カクラウ 唐代では中書舍人、又は給事中。明代では宰相。△日本では、徳川時代の老中。

【客臘】カクラク 去年の十二月。昨年の冬。○舊冬。

【攪亂】カクラン かきみだす。

【鶴唳】カクレイ 鶴の鳴聲。例「風聲鶴唳」おちけづいたものが一寸した事にもおちけおそれること。

【罅隙】カクキ すきま。

【雅健】カクケン 上品でカブよいこと。

【雅言】カクゲン 正しい言葉。△「俗言」の對。

○常にいふ言葉。

【苛酷】カクコウ きびしいこと。無慈悲。

【俄國】カクコク ロシヤ國。(俄魯西の略)

【霞彩】カクサイ 朝やけ夕やけの色どり。

【苛察】カクサツ きびしく目をつける。こまかい點まで目をつけてほじくる。

【加餐】カクサン (食物を加へる意。) 養生すること。衛生を重んじること。

【呵止】カクシ しっかりとめる。○訶止。

【家慈】カクジ 母親。△「家嚴」の對。

【遐邇】カクヱ 遠いことと近いこと。なちこち。○遠近。

【家什】カクジツ 家の日常の道具。家具。

【我執】カクシツ 固く我をはること。かたいぢ。

【下春】カクシュウ 日没の頃。日暮。

【下乘】カクゲン やくざ馬。○駕馬。△國語としては

「ゲシヨウ」とよんで、乗物から下りる意。

【家乘】カクゲン 家の記録。

【牙城】カクシヤウ 城の本丸。

【假借】カクカク ①暫し見のがすこと。②漢字の六書の一。或文字の代りにそれと同音の文字を借り用ひること。例「十有五年」これは有な又の義に借用したのである。

【呵責】カクサツ (セキ) しっかりとせめる。ひどくしかる。きびしくせめる。○苛責。

【雅馴】カクジュン 文章の用語が正しくてよくこなれてあること。

【賀頌】カクショウ ほめたへる言葉。

【稼穡】カクサク 農作。農事。(稼は作物を植ふつけること、穡は刈り入れること。)

【佳辰】カクシン よい日。よい時。○佳日。吉辰。

【遐陬】カクソウ かたゐるな。へんびな土地。○邊陲。

【苛政】カクセイ きびしい政治。人民をしへたげ苦しめる政治。例「苛政猛於虎。」

める政治。例「苛政猛於虎。」

【牙船】カクセン 大将の乗つてゐる船。

【雅致】カクシツ 上品な趣。○雅趣。

【牙籌】カクシュウ 象牙のかすと。計算器。

【割愛】カクアイ (愛着の心をさく意。) 惜しいと思ふものをあらきめて見はなす。思ひ切る。

【恰好】カクコウ ①ちやうどよいこと。②すがた。状態。③代價が割合に安いこと。

【渴仰】カクコウ 甚だしく信仰すること。

【葛裘】カクキウ (夏のかたびらと冬の皮ごころも) 夏と冬。一箇年。○裘葛。例「在都茲三裘葛。」

【黠獯】カクシュウ わるがしこいこと。

【褊寬博】カクケンパク (賤しい者の着る服) 賤者。

【黠慧】カクケイ わるがしこいぢ。

【憂然】カクゼン ①金石のうち合ふ聲の形容。②堅い物の相觸れあふ音。③樂器を軽くうつ音の形容。

○憂憂(カフ)

【合従】(カフ) (縦に合はせる意。) 支那の戦国時代に、蘇秦が山東の六國即ち韓・魏・趙・燕・楚・齊を南北に合はせて秦に當らせようとした策略。△連衡の對。

【恰當】(カフ) 丁度よくあてはまること。○適應。

【葛藤】(カフ) (くすねふち) ことごとく。もめ。

【喝破】(カフ) ①大聲で叱りつける。②邪説を排して眞理を明らかにすること。

【渴望】(カフ) 渴する者が水を欲するやうに望む。ひどくほしがらる。

【葛藟】(カフ) (くすの類のつる草) 一身にまつはる困難にたとへる。

【家僮】(カフ) しもべ。○家僕。

【蛾眉】(カフ) ①蛾の觸角のやうなよい形の眉。美人の眉の形容。②美人。

【溢焉】(カフ) にはかなるさま。(多くは人の死去)

する場合に用ひる。例「溢焉長逝。」

【閭下】(カフ) 高貴の人の名の下に添へて敬意を表はす語。

【閭國】(カフ) 一國残らず。○全國。舉國。(圖は全部の意。)

【下物】(カフ) 酒のさかな。

【甲兵】(カフ) (よろひと武器) ①武装した兵士。②戦争。

【餓殍】(カフ) 餓死した人。○餓殍。

【伽藍】(カフ) 佛道修行所。寺院。○精舎。

【雅量】(カフ) 度量の大きいこと。○大度。

【迦陵頻伽】(カフ) 極樂淨土に居るといふ鳥の名。野音鳥・妙聲鳥・妙音鳥などと譯す。

【苛斂】(カフ) きびしく租税をとりたてる。

【夏爐冬扇】(カフ) (夏日の火鉢と冬日の扇の義) 無益の才論言論に喩へる語。

【甘雨】(カフ) 春のよいしめり。養花の雨。○膏雨。

【簡閱】(カフ) ①えらぶ。②しらべる。例「簡閱點呼。」

【轆轤】(カフ) ①車のゆきなやむこと。②志を得ずして不遇なるさま。○「坎坷」とも書く。例「轆轤不遇」

【瞰下】(カフ) 上から見おろすこと。○瞰視。下瞰。

【閑雅】(カフ) みやびやか。しづかでしとやかなこと。落ち着いて品のあること。○嫺雅。間雅。

【感慨淋漓】(カフ) 深く物事に感じなげくこと。(淋漓はあふれた、るさま)

【間行】(カフ) しのびあるき。

【勘校】(カフ) 照らし合はせてしらべる。

【雁行】(カフ) 人と人とが斜に並びゆくこと。少し後れて殆ど並び進むこと。(自分よりも目上の人と道を歩く時の作法である。)

【扞格】(カフ) さほりさからふ。物事に逆らひ反對する。例「扞格而不レ勝。」

【奸黠】(カフ) わるがしこいこと。

【姦黠】(カフ) 心がねちけてわるがしこい。○奸黠。

【侃侃】(カフ) 剛直で節をまげないさま。

【侃侃諤諤】(カフ) 恐れ憚らず飽くまで思ふ所を述べて直言すること。○侃諤

【銜泣】(カフ) 聲をふくんで泣くこと。しのびなき。

【寒郷】(カフ) さびしい村里。○寒村。

【閑却】(カフ) なほざりにする。氣をとめずじうち捨て置く。

【間居】(カフ) ①ひまでしづかに家にあること。靜かな住居。○閑居。

【寒墟】(カフ) さびしい城あと。

【看經】(カフ) 佛敎の經典をよむこと。○讀經。

【涵煦】(カフ) (ひたしあたる意) 恵を施して養ふ。

【干戈】(カフ) (たてとほこ) ①武器。②戦争。

【間關】クワン ①路がけはしくて行きなやむこと。

②人が屢々困難にあふことになとへる。

【監軍】カン いくさの目付役。

【寒檠】ケイン さびしい燈火。例「對_{シテ}寒檠_ニ而坐_ス。」

【感激】ガンキ 心に感じ氣の振ふこと。深く感じる

こと。

【間歇】ケツ 一定時間を隔てて起ること。

【奸譎】ケツ よこしまで偽が多いこと。○奸詐_!

【巖穴之士】ガンケツノ 世を遁れて山中に住む高

士。

【寒暄】ケン ①寒暖。時候。②寒暑の挨拶。

【甘言】ガン 人の氣に入るやうな言葉。例「以_ニ

甘言_ヲ誘_フ人_ヲ。」

【扞護】ゴカン 防ぎまもる。例「扞_ニ護_ス王室_ヲ。」

【箝口】カン(ケン) 口をつぐんで言はないこと。○

箝黙。箝語。

【緘口】カン 口を閉ぢること。何も言はないこと。

の宛名の下に添へて尊敬の意を表はす語。

【雁書】ガン 手紙。たより。(漢の蘇武が匈奴に

囚はれてゐた時、書信を雁の足に結びつけて放つ

た處が、それが漢の武帝の許に届いたといふ故

事。)○雁信。雁帛(ガン)

【盦食】シヨク (夜おそく食事をなさる意) 天子が

御政務においそしみ遊ばすことの形容。「宵衣盦

食」と熟す。

【甘心】カン ①思ふまゝにすること。思ふ存分に

すること。②心に満足すること。心に不平のない

こと。

【寒心】カン 心に恐を抱いてぞつとすること。

【函人】フアン 鎧をつくる人。

【汗青】カン 記録。書籍。史書。(支那の太古に

まだ紙のない頃、竹を火であぶり汗をかゝせてそ

の青色をとつて、それに記録したことに基く。)○汗簡。

【澗聲】カン 谷川の水の音。

【眼采炯炯】ガンサイケイ 目だまの光がきら／＼して

あること。

【贗造】ザウ にせてこしらへること。

【簡策】カン 書物。

【干支】カンシ 十干十二支の略稱。(十干とは甲乙

丙丁戊己庚辛壬癸をいひ、十二支とは子丑寅卯辰

巳午未申酉戌亥をいふ。)

【寒士】カン まづしい士。

【含羞】ガン はにかむ。はづかしがる。

【間者】カン ①このころ。②ジャン まはしも

の。間諜者。

【閑日月】カンゲツ ひまな月日。物にこせつかない

心。例「英雄有_ニ閑日月_一。」

【干城】カン (たてとしる) 國を守る武士や軍人

をいふ。

【函丈】カンヤウ (師の席と自分の席との間に一丈の

餘地をのこす義) ①師の尊稱。②師に呈する手紙

【盦聲】カン いびきのころ。

【喊聲】カン ときのころ。

【陷穽】カン おとし穴。○陷阱。坎阱。

【檻穽】カン たりとおとし穴。

【干涉】カン 立ち入つてその事に關係すること。

【簡捷】カン 手軽ですばやいこと。

【間然】カン (間はすさまの意。) かれこれと非難

する。例「吾無_ニ間然_一矣。」

【欲然】カン 心に満足しないさま。例「其_レ自_ラ

視_ル欲然。」

【寒素】カン 甚だしく貧しいこと。すかんびん。

例「舉_ニ清能_一、拔_ニ寒素_一。」

【諫疏】カン 天子をおいさめする上書。

【諫諍】カン いさめあらそふ。

【含嗽】カン うがひすること。

【間道】カン ぬげみち。かくれ道。

【寒柝】タカ 寒夜、警戒のためにうつ拍子木。

【揀擇】タカ 多くの中からえらびとること。

【奸智】カン わるぢふ。よこしまなちふ。

【含蓄】カン ①ふくみもつこと。②含まれてゐる意味の深いこと。

【戡定】カン 戦に勝つて亂を定めること。

【撼動】カン ゆりうごかす。

【簡牘】カン 手紙。

【奸佞】カン 心がよこしまで口先のうまいこと。

【堪能】カン オのはたらきがあつて物事に巧みであること。上手。

【看破】カン みやぶる。みぬく。

【悍馬】カン あらい馬。○驛馬。

【感佩】カン 受けた恩を有難く思ひ、深く心に留めて忘れないこと。○感銘。

【銜枚】カン (枚をふくむ意。)馬の口に枚(箸のやうな木片)なくはへさせて嘶くのを防ぐこと。

例「河亂三軍聲」代「銜枚」。

【早魃】バツ ひでり。

【簡拔】バツ えらびぬく。

【感孚】フ まごころを感じること。

【翰墨】ボク ①筆と墨。②文筆。

【緘黙】モク 口を閉ちて物をいばないこと。

【涵養】ヤウ (ひたしやしなふ) 漸次に養ひそだてる。

【坎壞】カン ①行きなやむこと。②不遇にして志を得ないこと。○坎坎。轆轤。例「坎壞兮貧士。」

【姦吏】リ 心のねぢけたわるい役人。

【翰林】リン ①翰林院。(唐の玄宗の時に出来た官署で詔書や著述の起草をした所) ②文學者の社會。○文苑。文壇。

【函嶺】リン 箱根山の異稱。

【旱路】ラン 陸路。例「却是水路、全無旱路。」

【干祿】カン (祿を干める意。)仕へて俸祿を得んことを求めること。仕官を求めること。

【敢爲】カン 物事をおし切つて行ふこと。

【几案】アン つくゑ。

【杞憂】イ 無用の心配。とりこし苦勞。(杞國の人が天が落ちばせぬかと心配してゐたといふ故事から起る。) ○杞人之憂。

【氣宇】ウ きぐらゐ。きもち。

【牛飲馬食】ギウイン 大いに酒を飲み大いに肴を食ふこと。(牛馬の如く飲食するの意。)

【舊雨之感】キウウ 舊友を懐ふ感。(雨は友と音が通じる。)

【裘葛】キウ (裘はかほころも、葛はかたびら。)一年のこと。○星霜。春秋。例「三裘葛」三年の意。

【糾合】キウ よせあつめる。あつめあはせる。

【九合】キウ あつめあはせる。○糾合。

【舊誼】キウ 古いよしみ。○舊好。

【九牛之一毛】キウ (九頭の牛の毛の中の一本の毛。) 多数の中の極めて一少部なること。

【九原】クワン よみぢ。○黄泉。冥土。(支那春秋時代に、晉の卿大夫の墓地であつた地名から出た語。)

【九五之尊】キウ 天子の位。(九は陽の最高の數。易の乾の卦で、下からかぞへて五つ目の陽交を君位に配する所から出た語。)

【救濟】キウ たすけすくふこと。

【九死一生】キウ (死ぬべき割合が九で、生くべき割合が一である意。) 殆ど死にかゝつて、僅かに命の助かるやうな場。

【救恤】キウ 物を恵んですくふこと。

【九春】キウ 春。(春は九十日、即ち九旬ある所からかういふ。)

△九夏・九秋・九冬も推して知れ。

【舊套】古い事をうけつぐこと。

【九重】天の最高所。宮中。例「一封朝奏九重天。」

【九天】中央と八方の天。○九重の天。

天の最高所。○宮中。○九昊(ビョウ) 九霄(セウ) 九蒼(サウ) 九空(クウ)

【休戚】よるこびとうれへ。

【糺弾】罪状をしらべて弾劾すること。とりたゞすこと。

【鳩杖】頭に鳩の飾のある杖。昔支那で宮庭から七十歳以上の老人に賜はつたもの。いとづゑ

【九鼎大呂】國の寶器。○重い地位。名望などにたとへていふ。(九鼎は禹の時に鑄造させた鼎。大呂は周廟の大鐘。何れも國の寶であつた。)

【究竟】終局。

【休光】立派ないさを。(休は大の義。)

【久瀾】久しくあはぬこと。久しく無沙汰すること。例「謝三久瀾。」

【丘阜】をかこやま。○丘陵。

【糾紛】もつれみだれる。○山川の重なりめぐるさま。

【窮民】貧乏人。貧民。

【糾明】罪状をたゞしあきらかにすること。

【糺問】罪状をしらべたゞすこと。

【休明】大いに明らかなること。(休は大の意。)

【舊臘】去年の十二月。(臘は十二月に行はれた祭の名。)

【歸依】信仰してたのみすがること。

【氣焰】意氣の盛なること。

【虧盈】みちかけ。

【義捐】慈善等に金品を寄附すること。

【氣概】意氣のつよいこと。するどい氣象。

【紀綱】國家を治めるのり。おきて。○綱紀

【揮毫】(筆をふるふ) 書畫をかくこと。○揮灑(サイ)

【度閣】戸棚。たな。

【祁寒】厳しい寒さ。

【規諫】他人の非行をたゞし諫めること。

【龜鑑】手本。模範。

□龜甲を焼き、それに生ずる裂目によつて吉凶を占ひ、鑑で物を辨別するから、龜鑑を上記のやうな意味に用ひる。

【麾下】直接に大將の指揮を受ける部下。はたもと。

【忌諱】いみきらふこと。○君主若しくは官府からいみきらはれること。○人の氣にさはること。

【騏驥】すぐれたよい馬。

【機宜】場合を見はからつてなす臨機應變の

處置。

【巍巍】高くて大きいさま。山などのそびえらさま。

【擬疑】危みて躊躇すること。

【箕裘之業】父祖の業をつぐこと。

□列子に、「弓作りの子は父が弓を作るのを見て、枝を曲げて箕を作り、鍛冶屋の子は父が鍋や釜を修繕するのを見て、皮を綴り合はせて姿を作る。」といふ意味の文句がある。

【箕踞】兩足を前方へなげ出して坐ること。

【崎嶇】山路のげはしいさま。○世渡りの困難なことの喩として用ひる。

【危急存亡之秋】存在するか滅亡するかといふ危い場合。

【疑懼】疑ひおそれる。○疑懼。

【起居】(たつこととすわること) おきふし。日常のやうす。

【鞠育】イキク もりたてそだてる。養ひ育てる。○鞠養。

【鞠躬】キキウ 慎み畏まつて身を折りかゞめること。例「鞠躬如。」

【寄寓】グキウ かりすまひ。○寓居。僑居。僑寓。

【鞞寓】グキウ 旅のやどり。△「鞞情」も類推せよ。

【麴蘖】グキウ ①かうぢ。②さけ。

【規矩準繩】ジキョクジュウ ①ぶんまはし。②さしがね。みづもり。すみなはし。規則。標準。

【鞫問】モク 罪人などを問ひたゞすこと。罪状をしらべたづれること。○「鞫問」とも書く。

【奇禍】クワ 思ひもよらぬ災難。

【奇警】ケイ いちじるしくすぐれてゐること。平凡でないこと。○奇拔。

【畸形】ケイ 普通の形に異なること。不具。かたは。

【詭計】ケイ いつもの計略。○詭策。詭謀。

【奇矯】ケキウ 強ひて普通人とはかばつた言行なすこと。

【詭激】ゲキ 言行が甚だしく中正を失してゐること。

【期月】ゲツ 満一箇月。○朞月。△「朞年」をも考察せよ。

【危言】ゲン ①危は高の意。高尙な言。又言を高尙にして俗に随はぬこと。

【旗鼓】コキ 戦に用ひる旗と太鼓。例「見_二旗鼓之間_一」敵味方となつて戦場で相見ること。

【綺語】キキ ①面白い言葉。②十惡の一。巧みに飾り立てた言葉。

【義故】コギ 嘗て恩を受け縁故のある者。

【氣骨】コキ 人に屈伏しない氣象。

【騎虎之勢】イキホヒ ①虎に乗つて走つてゐる勢の意。中途で下ることが出来ない。物事のゆきがかり上、中止しがたいことに喩へる。

【危坐】ヂキ 正しく坐る。○端坐。

【跪坐】ヂキ ①ひざまづいて坐る。②正しくする。かしこまる。

【箕坐】ヂキ 兩足をなげ出して箕のやうな形にする。わること。○踞箕。

【揮灑】サイ ①筆をふるひ墨汁をそゞぐ意。②書畫をかくこと。○揮染。揮毫。

【箕帚之妾】キソウノセツ ①塵取と帚とを持つて働く妾の意。妻自身の謙稱。

【棄市】シキ 支那の刑法。罪人を殺してその死骸を市中にさらすこと。

【旗幟】シキ ①はた。のぼり。②はたじるし。③敵

たるか味方たるかの標度。例「旗幟鮮明。」

【喜字之齡】ヨハヒ 七十七歳のこと。(喜の字の草書「喜」から來たもの。)

【喜捨】シヤ 心から進んで佛に物を供へ、又は貧乏人に物を施すこと。

乏人に物を施すこと。

【饋餉】シヤウ ①食物をおくり與へること。②糧物。○餽餉(シヤウ)。

【起請】シヤウ 約束に偽のないことを神佛にかけて誓ひ、そのしるしに認めた證書。起請文(モシヤウ)。

【耆宿】シキウ ①老人。②德行や學問のすぐれた人。

【起承轉結】キシヨウテンケツ 七言絶句の詩の組織についていふ語。第一句を起、第二句を承、第三句を轉、第四句を結といふ。

【畸人】ジン 奇行の多い人。

【歸趨】スウ ①おもむくこと。②歸向する方向。傾向。

【奇瑞】ズキ めでたい前兆。不思議な前兆。

【擬勢】セイ 軍勢を實數以上に見せかけること。

【犠牲】セイ ①神に供へる生きた動物。いけに

へ。②或目的の爲に自分の利益又は身命をすてること。

【氣節】セツ 心に守る所があつて、容易に屈しない意氣。氣概。節操。

【奇蹟】セキ 自然法にはあり得ないやうな不思議な現象。

【喟然】ゼン 感じてためいきをつくさま。歎息するさま。

【熙然】ゼン ①光りがややくさま。②よろこぶさま。

【驥足】ソク (すぐれたよい馬)すぐれた才能。

【寄託】タク 預けたのむこと。

【詭道】ダウ いつぱりの仕方。

【碁時】ヂキ ①いしが碁盤の上に散らばつてゐるやうに、各處に刺據すること。②碁時(ヂキ)

【機軸】ヂキ ①物事のはたらきの起る中心。②國の政。③工夫。方法。

【儀仗】ヂキ ①儀式用の武器。(仗は劍戟の總名。)②警衛。護衛兵。

【機杼】ヂキ (機を織る時に、糸を巻いた管を取付けて右往左往させる具。はたのひ)糸を繰出して布帛を織るやうな一流の工夫。○新機軸。例「文章須下自由機杼一成一家風骨。」

【規飭】チキ いましめたす。○戒飭

【乞丐】ガイ 乞食。

【頡頏】カウ ①鳥が飛んで上下すること。②互に張り合つて相下らないこと。例「勢力頡頏。」

【拮据】キョ 忙しく働くこと。骨折ること。例「拮据經營」事業を營むにいろ／＼苦心すること。

【佶屈聱牙】キツクツ 固くろしく聞きにくいこと。主としてむづかしい文章の形容として用ひる。

【寄托】タク 預けたのむこと。

【忌憚】タン ①いみはゞかること。②さしひかへること。遠慮すること。

【愧恥】チキ はぢ。はぢる。

【機智】チキ よくはたらく智恵。

【喫驚】キヤウ びつくりすること。○吃驚。

【吉左右】サウ ①善惡のたより。とかくの通知。②よいたより。吉報。

【詰旦】タツ ①あくるあさ。②早朝。○詰朝。

【旗亭】チキ 酒屋。(旗を立てて目標とする所からいふ。)

【軌轍】テツ ①車の輪のあと。②法則。

【蟻垤】テギ ありづか。蟻の巢。例「至頂附殿山川城郭小如蟻垤。」

【畿甸】ケン 天子に直隸する地。王城の周圍五百里以内の地。○畿内。

【忌日】ニチ その人の死んだ日と同じ日。命日。

【暮年】ネン 満一箇年。○期年。

【跋望】バク 足をつまだてて遠きを望むこと。

【既望】バク (昨夜が望月であつたの意。)陰曆十六日の夜。いさよひ。例「壬戌之秋、七月既望、蘇子與客泛舟、遊赤壁之下。」

【氣魄】ハク たましひ。氣力。○氣魂。

【耆婆・扁鵲】ヘンジャク 何れも佛經中に見える名醫の名。

【軌範】ハン 手本。法式。模範。

【羈絆】ハン (ほだし。きづな)行動の自由を束縛するもの。

【羈絆】ハン きづな。ほだし。

【儀範】ハン のり。手本。○儀表。

【熹微】ビキ 太陽の光のかすかなるさま。例「恨晨光之熹微。」

【機微】ビキ かすかなきざし。

【季父】フキ 最も年の少ないなち。

【岌岌】キツ 危いさま。例「天下殆哉岌岌乎。」

【汲汲】キツ 一心につとめあげむさま。例「不汲汲於富貴、不戚戚於貧賤。」

【急遽】キツ いそぐこと。あわてること。

【翕然】 キツン 一つにより合ふさま。

【奇兵】 ヘイ 敵の不意を襲ふ兵。

【儀表】 ヘイ 正法にして則るべきもの。手本。模範。

【欺騙】 ヘン だますこと。あざむくこと。○欺罔(マウ)

【詭辯】 ベン 理を非にまげ、非を理として人をまどはす辯論。

【規模】 ボキ ①たゞしい例。手本。②かまへしくみ。

【龜卜】 ボク 龜の甲をやき、その裂目を見てする占。かめうら。うらなひ。

【欺罔】 マウ (マウ) あざむくこと。だますこと。○欺騙(ヘン)

【匡救】 キヤウ 悪をたゞしすくふ。○匡濟。

【郷貫】 キヤウ ①國元の戸籍。②國元。故郷。

【郷關】 キヤウ 故郷。くにもと。

【覬覦】 ユキ 身分不相應な事を得ようとしてうかゞひねらふこと。非望を企てること。例「覬覦帝位」

【宮闕】 ケツ 皇居。

【穹蒼】 サウ 大空。天空。

【躬行】 カウ 心によしと思つたことや、口にいつたことを自ら實行すること。

【窮措大】 クツ 貧乏學生。

【窮達】 クツ 困窮と榮達。零落と出世。○窮通。例「窮達有命、吉凶由人」

【穹窿】 リウ ①天空の弧形。②中だかなること。蒲鋒形。

【矜育】 イク あはれみ育てる。

【胸臆】 キョウ 胸。心。

【蹙音】 キョウ 足音。

【恐喝】 カフ おどかさすこと。

【恟恟】 キョウ おそれるさま。例「人心恟恟」

【狂狷】 キヤウ 中庸の道に合はぬ行。○狂は常規なはづれて志の高いこと。狷は並はづれて義理固いこと。

【向後】 コウ この後。以後。

【郷愿】 キヤウ 郷中で謹行の人と呼ばれてゐる者。(愿はつゝしみ深いこと)

【匡正】 キヤウ 正すこと。

【郷黨】 キヤウ むらの仲間。むらびと。○郷曲。

【杏壇】 キヤウ 學問を教へ授ける所。講堂。例「孔子休坐於杏壇之上。弟子讀書、孔子絃歌鼓琴」

【筐底】 キヤウ はこの底。はこの中。

【享年】 キヤウ (年をうける意) 生存してゐた年齢。○行年(キヤウ)

【樞樞】 キヤウ おしめ。むつき。

【杏林】 キヤウ 醫者仲間の稱。

【逆睹】 キヤウ (豫めみる意) 未然にその物事を推知すること。例「形勢不可逆睹」

【兢兢】 キョウ ①いましめおそれるさま。②戒めつゝしんで自ら安んじないさま。○戰戰兢兢。

【胸懷洞然】 キョウ 心中の明らかなさま。心のさばくして氣持のよいさま。

【恐慌】 キョウ 或事の打撃を受けて、不振不安の狀態をあらはすこと。

【兢兢】 キョウ おそれつとめること。

【鞏固】 コウ (鞏も固の意) かたいこと。しつかりしてゐること。○堅固。牢固。

【凶歲】 キョウ 五穀のみのらない年。○凶年。

【拱手】 キョウ ①禮法の一。両手の拇指と拇指とを相さへ、他の四指を組み合はせてする。②力を用ひないこと。腕組をすること。

【矜恤】 キョウ あはれみめぐむ。

【矜式】 キョウ つゝしみのつとる。例「使諸大夫國人皆有所矜式」

【拱把】 コウ 両手でかこむ程の太さと、片手で握

る程の太さ。例「拱把之桐杵。」

【洶湧】ヨウウツ 水がわきあがるさま。波の立ち騒ぐさま。例「見波洶湧。」○洶涌。

【倨傲鮮腆】キョウガウ センテン 自ら尊大ぶつて、人を輕蔑すること。(鮮は善、腆は厚の意。故に鮮腆は自ら尊大にすること。)

【炬眼】ガン あきらかな眼。物事を鑑識する能力。

【獻秋】キョウ すすりなき。例「獻秋涕泣。」

【醵金】キョク 或目的の爲に金銭を出しあふこと。

【曲學阿世】キョクガク アセイ 學問を曲げ、強ひて世の人の氣に入るやうな説を立てること。(阿はおもれる意。)

【玉碎】サイ 玉となつて碎ける。立派な事の爲に死ぬこと。「瓦全」の對。例「大丈夫寧可玉碎。何能瓦全。」

【跼蹐】キョクキョク 甚だしく恐れて身の置き處もないさま。○跼蹐地(キョクキョクチン)ま。

【虚心坦懷】キョウシンタンワイ 心に何等の考を起さず、極めて落着いた氣持であること。○虚心平氣。

【居然】ゼン ①そのまま。②物に動かされな

いさま。坐して動かされな

【擧措】キョ ①事をあげ行ふことと置きて止めること。②たちあふるまひ。○進退。

【御史】シヨ 百官の罪惡を糾正することを掌る官。

【擧族】ゾク 一族のこらず。○閭族(カフ)

【巖立】リツ 高くぬきんで立つこと。例「願望三金剛山巖立雲際。」

【巨刹】キョツ 大きな寺。

【玉樓】ロウ 立派な高殿。金殿。

【毀譽歡戚】クワンセキ それりとほまれと。よろこびとかなしみと。

【毀譽褒貶】ハウヘン ほめることとそしること。

□天は高いのに身をかがめ、地は堅固であるのに音を立てないやうに足をあげて歩む意。國語では「天にせぐくまり地にぬきあしす。」といふゆきの状態。

【玉斗】トウ 玉のさかづき。

【炬火】クワ たいまつ

【渠魁】クワイ 悪者のかしら。○頭目。渠帥。

【居恒】コウ つね。平生。○居常。

【虛構】コウ いつはりこと。無根の事柄をかまへこしらへること。

【玉章】シヨウ 他人の手紙の敬稱。たまづさ。

【去就】シウ 去ることと止まること。背くことと従ふこと。例「不決去就。」

【居諸】シヨ (詩經に日居月諸とあるに基く) 月日。歲月。例「五年の居諸を經たり。」

【遮色】シヨク あわてた顔色。

【虛誕】キョ うそ。あとかたもないこと。

【巨擘】ハク (おほゆび。おやゆび) 多くの人の中ですぐれてゐるもの。○泰斗。

【禦侮之臣】ノシン ①敵の侮をふせぎとめる臣。②武臣。

【綺羅】ラキ 美しい衣服。

【器量】リヤウ ①才能。②人格。③かほかたち。容色。

【伎倆】リヤウ うでまへ。○伎倆。

【羈旅】リキョ たび。旅路。

□他國にあつて仕へてゐる臣を「羈旅之臣」といふ。

【麒麟兒】キリン 才能のすぐれた少年。

□麒麟は一日に千里を走るといふ馬。傑出した人物に喩へる。

【龜裂】レツ ひびり。さげめ。

【熙和】ワキ やはらぐこと。

【金烏玉兔】

（日輪の中には三本足の鳥がゐる、月輪の中には兔が棲んでゐるといふ傳説に基く語。）太陽と月。日月。○月日の早くたつことを「烏兔匆匆」といふ。

【禁掖】

ニキ 内裏。御所。宮中。○禁裏。禁闕。

【緊要】

エウ 極めて大切なこと。少しも猶豫の出來ないこと。○肝要。

【金甌無缺】

ムケツウ (黄金のかめにきずのないこと。) 國體の立派なことの喩として用ひる語。

【銀河】

ガ 天の川。○天漢。天河。

【均衡】

カウ つりあひ。

【金革】

カク (金は刀劍の類、革は甲冑の類。何れも兵器。) 戦争の意に用ひる。

【禁諱】

キン いみはゞかる。

【緊急】

キン ①樂器の絃音のきびしく鳴ること。②必要にさしせまること。

【蒼窮】

キユウ きばまりくるしむ。

【欽仰】

ギンウ うやまひあふぐ。

【狺狺】

ギン 犬の吼える聲の形容。

【金科玉條】

ギンクワヂョウ 最も貴重な法律又は訓戒。○金言。金誡。

【巾幗】

キンケツ (婦人の髪かさざり。) 婦人のこと。□巾幗は一説に婦人の喪中にかぶる冠ともいふ。

【覺隙】

グキキ (すさま) 仲たがひ。不和。

【欽差】

キンサ 天子の御使。勅使。

【金枝玉葉】

ギンシエフ 皇族。

【覺鐘】

シヤウ 鐘にいけにへの血をぬること。

【金城湯池】

キンシヤウ (金鐵の城と熱湯をたゝへた外濠。) 極めて堅固な城。○金城鐵壁。

【錦心繡腸】

キンシンシウチヤウ (錦繡のやうに美しい心腸。) うつくしい思想感情。詩文の才のすぐれた形容として用ひられる。

【金聲玉振】

ギンセイキョクシン 物事を集めて大成すること。智徳の完備してゐること。(八音を合奏する時には)

先づ鐘(金)をうち、最後に磬(玉)をうつて樂を終はる所からいふ語。)

【欣戚】

セキ よろこびとうれへ。

【欣然】

ゼン よろこぶさま。

【覺端】

タン 不和になる糸口。例「開覺端。」

【欽定】

テイ 天子がおきめになること、又は天子のおきめになつた物事。例「欽定史記」

【均霑】

テン (ひとしくうるほふ。) 生物が一律に雨露の恵をうけるやうに、各人が同等の利益を得ること。

【襟度】

ドキン むれのうち。○襟懷。

【金帛】

パン 黄金ときぬ。

【欣慕】

ボキ よろこびしたふ。

【煦嫗】

ウク あたゝめそだてる。(煦育。)

【寓居】

グウ かりずまひ。○僑居。

【寓言】

ダク 物に假して或意味をほめかした言

【空谷跫音】

クウコクオン (空谷に訪問者の足音の聞える意) ①淋しい所へ人の訪れて來た喜、又は孤獨を感じてゐる時、同情者を得た喜に喩へる。②非常に珍しいことの喩。

【偶作】

サク ふと心に浮かんだまゝを作つたもの。主に作詩の場合にいふ。③偶成。

【耦刺】

シク (セキ) さしちがへて死ぬこと、即ち兩人が互に刃を相手の身體に刺しあつて死ぬこと。○交刺

【空翠】

クウスイ ①空に聳えた山のみどり。②みどり色をなす山氣。

【空中樓閣】

クウチュウロウカク ①空中に築いた樓閣。蜃氣樓。②空想によつて描いたたよりない事物。

【寓目】

グク 視線をそゞぐ。注目する。

【空明】

クウメイ 月光が水に映つてゐるさま。例「空明一合派流光。」

【空明一合派流光】

「空明一合派流光。」

【愚駭】 ガイ おろかなこと。(駭もおろかの意。)

*【詡詡】 クク こびへつらふさま。

*【區區】 クク ①まぢくであるさま。②小さいさま。

【駒隙】 ダキ (「白駒過隙」より出た語。)人生のはかないこと。月日の早くたつこと。

【結草】 ムササ ①草庵を作ること。②死後なほ報恩を心掛けること。例「生當限首、死當結草。」

*【瞿然】 ゼン ①恐れるさま。②おどろき怪しむさま。

*【驅馳】 チカ ①馬をかけ走らす。②人の爲にかけまはる。○奔走。

*【崛起】 キツ ①山などのむつくりと聳えてゐること。②俄に起りたつこと。

【屈竟】 クツ ①つまり。結局。②甚だすぐれて強いこと。

*【屈辱】 シツク 屈服して恥をかゝせられること。

【苦肉之計】 ケイノ 計が盡きて苦しませられに考へた、最後の常ならざる計畫。(苦肉は自分の身を苦しめて、敵を欺くこと。)

*【愚昧】 マイ おろかで事理に暗いこと。

【禍殃】 アウ わざはひ。○禍患。

*【恢宏】 カウイ ①ひろいさま。②ひろめる。ひろまる。○恢弘。

*【魁岸】 ガンイ 身體が大きくかどばつて逞しいさま。

【槐棘】 キョク 「三槐九棘」の略。三公九卿のこと。

□周の代に朝廷に三株の槐を植ゑて三公の座位とし、その右に三株、左に六株、合計九株の棘を植ゑて九卿の座位としたことによる。○槐門棘路。

【恢恢】 カウイ ①大きくつゝみいれるさま。例「天網恢恢、疎而不漏。」②ゆつくりしてゐるさま。

*【恢廓】 カウイ ①廣く大きくする。例「陛下恢廓。」

祖業。①心が廣くて大きい。例「性度恢廓」

*【挂冠】 カウイ(ケウイ) (冠を脱いで柱などにかける意)官を辭すること。○掛冠。挂冕(ケイベン)

【潰決】 カツイ 岸や堤などがくづれられること。

*【魁梧】 カウイ 體格の大きくたくましいこと。

*【潰散】 サウイ つひえて兵がちりちりになること。

【外史】 グウイ ①史官でなくて私に事を記録する者。例「外史氏」②前記の者の手で書かれた記録。例「日本外史」

*【懷柔】 シウイ てなづけること。

【晦澁】 シウイ 意味がすらくと通らないこと。行文がしづつて、文意が明らかでないこと。

*【膾炙】 シヤイ (なますとあぶりにく。)物事の廣く流行して人々の口にのぼること。

*【會心】 シウイ 心になふこと。氣に入ること。満足すること。例「會心の作品」△意氣の投合した友を「會心之友」といふ。

*【灰燼】 シウイ ①灰ともえのこり。②全く亡びること。例「歸灰燼」

*【外戚】 セキイ 母方の親戚。

【塊然】 ゼンイ 獨りあるさま。

【壞頽】 タイイ やぶれくづれる。

【回天】 タウイ ①衰へた國運をひきもどすこと。②君の御心を正道にひきもどすこと。○廻天。

【悔冥】 マイイ まつくらなこと。くらやみ。

【傀儡】 ラウイ あやつり人形。

【乖離】 リウイ 心がそむきはなれる。

*【乖戾】 レウイ そむきもとる。

*【回祿】 ロクイ ①火の神。②火事。火災。○祝融(ユウウ)

*【魁偉】 カウイ 大きく立派な體格。

*【皇猷】 イウイ 帝王の國を治めたまふ御はかりごと。

*【皇考】 カウウ ①天皇の御亡父。②亡父を尊んで

いふ語。△「皇妣」の對。

【廣居】クワウ (廣い居どころの意) 仁ないふ。

【曠懷偉度】クワウクワイ ひろい心。

*【遑遑】クワウ 心が落着かずうろくするさま。い

そがはしいさま。

【廣言】クワウ 口にませて大言を吐くこと。ほらな

ふくこと。

*【曠古】クワウ 前例が無い。○未曾有。空前。

【黃口】クワウ (羅の嘴の黄色なる意。) 年が若くて

經驗に乏しい者。

*【恍惚】クワウ 心をうばはれてうつとりするさま。

*【黃昏】クワウ 夕暮。たそがれ。

【悅然】クワウ ①我を忘れて眺め入るさま。 例

一使二人 悅然 如_レ造_ニ異境_ニ。

【曠達】クワウ 度量が廣くてさ、はりのないこと。

【皇儲】クワウ 皇太子。まうけのきみ。

【廣長舌】クワウ 辯舌のすぐれてゐること。す

ぐれた辯舌。

【皇天后土】クワウテン 天地の神々。

【曠廢】クワウ 爲すべき事をおろそかにすること。

*【黃袍】クワウ (黄色の袍) 天子の服。

【皇妣】クワウ ①天皇の御亡母。 ②亡母を尊んで

いふ語。△「皇考」の對。

*【皇謨】クワウ 帝王の國を治めたまふ御はかりごと

○皇猷。

【廣袤】クワウ 横の廣さと縦の廣さ。ひろさ。

【黃門】クワウ ①(支那) 禁門内にあつて侍従の出

仕する役所。 ②(日本) 中納言の唐名。例「水戸黃

門」

*【荒涼】クワウ ①景色の荒れはててものすこいこ

と。 ②心根の荒く不行届なこと。

【荒寥】クワウ 荒れはててものさびしいこと。

【花英】クワウ はな。はなぶさ。はなびら。

【課役】クワウ ①わりあてて仕事に使役すること。

○課税と賦役。

【華夏】クワ 支那人が自國を誇稱していふ語。○

中夏。

*【畫架】クワ 西洋畫を描くべき布・板などを立て

掛けて置く臺。

【瓦解】クワ めちやくにこぼれる。

【火急】クワ 火のついたやうに急なこと。極めて

とりにそぐこと。

【科擧】クワ 官吏登用試験。

【畫策】クワ 計畫を立てること。

*【嬰鏢】クワ 老年になつても壯健で元氣のよいこ

と。

【廓清】クワ ほらひ清める。

【劃然】クワ はつきりと區別のあるさま。

【若然】クワ 骨と皮とが離れる聲の形容。

*【瓦解】クワ 物事の崩壊するのを瓦の碎け散るさ

まに喩へていふ。

【廓寥】クワ 廣い大空。○寥廓。

【寡君】クワ (徳の少ない君の意。) 他國人に對し

て、自分の國の君のことを謙稱する語。

【嘩譟】クワ やかましくさわがしいこと。

【貨殖】クワ 資産をふやすこと。

*【華燭之典】クワ 結婚の儀式。

【禍心】クワ 惡計をたくらむ心。

*【寡人】クワ (徳の少ない人の意。) 王侯が自分を

指す時の謙稱。

【瓦甑】クワ かばら。(甑もかばら。)

【瓦全】クワ 徒に生きながらへてゐること。○

「玉碎」の對。(例は玉碎の部を見よ。)

【華胄】クワ 門地の高い家柄。貴族。

【活眼】クワ 理を見るに明らかな眼識。

【豁然】クワ ①ほがらかにうち開けたさま。から

りと。 ②迷や疑などの解けたさま。

【夔屈】クワツ 尺とり蟲の屈するやうに人が一時屈すること。

【闊歩】クワツ ①大またに歩く。鷹揚な歩き方。②他を眼下に見て行動するさま。例「横行闊歩」

【刮目】クワツ ①目をこする意。注意して見る事。②活路

【活路】クワツ ①いきのびる路。命の助かる路。②苦境からのがれ出る路。○血路。

【畫餅】クワツ ①繪にかいてある餅。②實用にならぬことの喩。③無効。無益。徒勞。例「屬畫餅」

【華表】クワツ ①(支那)宮城、陵墓などの前に立てる圓形若しくは八角形の石で造つた標柱。②(日本)神社の前に立てる鳥居。

【花幔】クワツ ①花模様のある引幕。②花が盛に咲いて、引幕をひいたやうに見えるさま。

【寡黙】クワツ ①口をつぐんでだまつてゐること。②臥龍

【臥龍】クワツ ①ふしわだかまつてゐる龍。②英雄が

【觀光】クワツ ①その國の文物、制度等を觀に行くこと。②風景を觀に行くこと。

【棺槨】クワツ ①ひつぎ。(槨は外部の棺) ②鰥寡孤獨

【鰥寡孤獨】クワツ ①たよりのないあはれな者。(鰥は老いて妻のない者、男やもめ。寡は老いて夫のない者、やもめ。孤は幼くして父の無いもの、みなし子。獨は老いて子のない者、ひとりもの) ②宦官

【宦官】クワツ ①宮中の奥向に仕へる小吏。②還啓

【還啓】クワツ ①三后・皇太子及び同妃が行啓先からおかへりになること。(三后とは太皇太后・皇太后及び皇后をいふ) ②管見

【管見】クワツ ①管の穴からのぞき見る意。②狭い見識。③款語

【款語】クワツ ①うちとけて語り合ふ。○款語。款話。④歡娛

【歡娛】クワツ ①よろこび楽しむこと。⑤寬弘

【寬弘】クワツ ①心がひろいこと。○寬宏。

【寬厚】クワツ ①心が廣く手あついこと。⑥顚骨

【顚骨】クワツ ①ほ、ぼれ。⑦莞爾

【莞爾】クワツ ①につこり笑ふさま。○莞然。⑧寬恕

【寬恕】クワツ ①心が廣くて思ひやりが深いこと。⑨歡心

【歡心】クワツ ①よろこぶ心。氣に入ること。⑩款誠

【款誠】クワツ ①まごころ。⑪環繞

【環繞】クワツ ①四方をとりまくこと。⑫歡戚

【歡戚】クワツ ①よろこびと悲しみ。⑬冠絶

【冠絶】クワツ ①最もすぐれてゐること。⑭貫穿

【貫穿】クワツ ①つらぬき-through。⑮渙然

【渙然】クワツ ①さらりと解けてしまふさま。⑯純素

【純素】クワツ ①白いれり絹。例「雪如ニ純素、煙如レ柄、白扇倒懸東海天。」⑰盛嗽

【盛嗽】クワツ ①手をあらひ口をすくぐること。⑱款待

【款待】クワツ ①親切なもてなし。

未だ時を得ずして、潛んでゐることに喩へる。例「諸葛孔明臥龍也。」

【瓦礫】クワツ ①瓦と小石。②れうちのないつまらぬ物。

【寰宇】クワツ ①世界。③官家

【官家】クワツ ①朝廷。皇室。④天皇。天子。例「官家恩宥。」

【官衙】クワツ ①役所。官廳。⑤還幸

【還幸】クワツ ①天子が行幸先からおかへり遊ばすこと。⑥撰甲

【撰甲】クワツ ①よろひを著ること。△衷甲を見よ。⑦歡狎

【歡狎】クワツ ①よろこんで狎れたしむ。⑧緩急

【緩急】クワツ ①急に事のさしせまつた場合。危急。⑨環境

【環境】クワツ ①(四方の境界の意)人身の周圍の事情。⑩頑愚

【頑愚】クワツ ①剛情で愚かなこと。物の道理がわか

【濯濯】 タクワン すゝぎあらふこと。

【宦達】 タクワン 官に仕へて榮達すること。

【卷帙】 タクワン (巻物と綴本のおほひの意) 書物のこと。

【勸懲】 チョウワン (勸善懲惡の義) 善をすゝめ、惡をこらしむこと。

【環堵】 トクワン (まはりのかきれ) 家の内。

【艸童】 トクワン 髪をあげまさ(つのがみ)に結つた子供。幼童、○あげまさのことを「卵角」「鰓角」などといふ。

【煥發】 バツワン 明らかに天下に發布すること。「煥發」とも書く。例「大詔煥發」。

【完璧】 バクワン (きずのないたま) 指摘すべき缺點のないこと。完全無缺。

【冠冕】 カンワン ①かんむり。②上位に在る者。第一位。

【頑冥】 ゲンメイ かくたくなで道理に暗いこと。○頑迷

【軍旅】 リンリョウ ①軍隊。②戦争。

け

【磬】 ケイ 古代の樂器の名。石又は銅でへ形に造り吊りさげて打ち鳴らす。

【磬折】 ケイセツ (身體を磬のやうな形に折り曲げる意) 立ちながら身體を前方に折り曲げる敬禮。最敬禮ほどはかゞめない。

【京尹】 ケイイン 京師の守護職。(日本では京都所司代のことといふ。)

【鯨飲】 ケイイン 酒を深山飲むこと。

【奎運】 ケイイン (奎は文運を司る星宿だといふ) 學問の氣運。文運。例「奎運大興」。

【卿雲】 ケイウン めでたいししがしの雲。○景雲。慶雲。瑞雲。

【輕銳】 ケイエイ 身輕に支度をした強い兵士。

【經營】 ケイエイ (繩ばりをして建築物をつくるこ

【還曆】 レンリキ (干支がもとへかへる義) 六十一歳の稱。ほんげがへり。

【訓詁】 コンコ 古文の字句の意義を解きあかすこと。

【腐至】 シン 群り至ること。腐は樂とも書く。性最も臆病で自分の影を見ても怖れ走るといふ動物。従つて常に群をなして來るのである。

【群青】 シン 青色のふのぐ。紺青よりやうすい。

【葦酒】 シン 葦と酒。(葦はねぎ・にら・んにくなどのやうに臭氣の強烈な野菜) 例「不許葦酒入山門」。

【拮据】 セクキョ ひろひとること。

【薰陶】 タン ①火を以て物をくゆらし、土をこれて陶器を作ること。感化して人物を養成すること。教育。

【薰風】 フン 南風。夏の風。△「朔風」は冬の風。

【訓蒙】 コンモン 子供に教へること。例「訓蒙日本外史」。

と。①規模を定め基礎を立てて物事を營むこと。②經濟を持続する爲に設定した作業上の組織。

【經筵】 ケン ①經書講演の席。②天子が經書の講義を聴き給ふ御席。

【輕舸】 ケイカク 輕快に走る舟。早ふね。○走舸。飛舸。

【警效】 ケイキョウ 「警咳」に同じ。①せきばらひ。②面會する人の音容。例「接警效」面會すること。

【傾蓋】 ケイガイ (衣笠を傾げる意) 途中で會つて立ち談ずること。例「傾蓋如舊」一會つたばかりで舊知のやうに親しいといふ意。

【計較】 ケイカウ ばかりくらべる。例「計較禍福」而權利。

【景仰】 ケイエイ その人の徳を敬ひ慕ふこと。

【景行】 ケイカウ ①大なる道。②高明なる德行。

【圭角】 ケイカク (かど) ①才氣又は見識が發露して他人よりもよく目だつこと。②言語又は舉動がか

どだつて他と融和しないこと。

【契合】カフイ わりふを合はせるやうにびつたりと合ふこと。

【迎合】ガフイ 他人の意向を察して諂ひ従ふこと。

【炯眼】ガン 物事をよく見ぬくまなこ。鋭い眼力。

【啓籠】ガン 佛像の安置してある厨子の扉を開いて参詣者にその佛像を拜ませること。○開帳。

【京畿】キキ 王城の周圍五百里以内の地。帝都附近の土地。○王畿。畿内。畿甸(キニ)

【輕騎】キキ 輕装した騎兵。

【輕裘】キウ 輕くてあたゝかい革製の衣服。上等の着物。例「輕裘肥馬」輕いかはごろもと肥えた馬。富貴の人の形容として用ひる。

【輕肥】ヒキ (輕裘肥馬の略) 輕くて暖い衣服を着、肥えて乗り心地のよい馬に跨ること。富貴の人の形容。

【荆棘】キキョク ①いばら。②戦亂。紛擾。例「披荆棘」

荆棘一定ラムニ關中カウ。

【挂冠】ケイ (タワン) 職を辭すること。辭職。例「蓬明が冠を脱ぎこれを城門に掛けて去つたといふ故事による。」

【炯炯】ケイ 「炯炯」とも書く。あきらかなさま。例「眼光炯炯射人。」

【敬虔】ケイ 敬ひつゝしむこと。

【稽古】ケイ ①古の道を考へること。②學問。△國語としては練習の意に用ひられる。

【霓虹】ゲイ にじ。

【頃刻】ケイ しばらく。少時。

【經國之才】ケイコクノサイ 國家を經營する才智。

【經國之大業】ケイコクノダイゴフ (國家を經營する上の大事業) 主として文章のことをいふ。

【稽顙】ケイ 額を地につけて敬禮を行ふこと(稽は首を地につける意、顙はヒメヒ)。

【輕躁】ケイ 落着かずしてさわがしいこと。

事。

【螢窓雪案】セウソウ 苦學すること。(螢光に照らされた窓と、雪の光をうけてゐる机の意。)

【聳捷】セフ さといこと。すばしいこと。

【傾倒】ケイ ①傾けて内部にある物を悉く出す。②心を寄せ従ふこと。

【輕煖】ケイ 輕くてあたゝかい衣服。

【傾聽】ケイ 耳を傾けて聴く。熱心にきく。

【勁直】ケイ つよく正しいこと。剛直。

【逕庭】ケイ 「徑庭」とも書く。非常にかけはなれてゐること。大差。

【慶兆】ケイ めでたい前兆。

【輕佻】ケイ 輕々しいこと。淺はかなこと。

【奚童】ケイ 子供の召使。丁稚。小僧。(奚はしもべの意。)

【箚獨】ケイ たよる所のないひとり者。ひとりぼっち。

【螢雪之功】
□晋の車胤が螢をあつめてその光で書を読み、孫康が雪を集めて、その光で書を読んだといふ故

【經世】ケイ 世を治めること。○經國。

【螢雪】セウ 辛苦して學問すること。苦學。例「螢雪之功」

【形勝之國】ケイシヨウノクニ 形勢のすぐれた位置を占めてゐる國。

【形神】シネイ 形體と精神。かたちとこゝろ。

【鷄人】ジネイ ①(支那)周代に禁中を護衛し夜を警めた役人。②(日本)古昔、宮中に於て時刻を奏した役人。

【經書】シヨ 支那の聖人が人の道を書いた本、即ち四書・五經を總稱していふ。○經籍。

【稽首】シユ 額を地につけて敬禮すること。

【卿相】シヤウ 公卿大臣。(卿は參議及び三位以上の人々。相は大臣。)

【閨秀】シウ 才學のすぐれた婦人。例「閨秀畫家」

【啓發】ハツイ ①知能を開き進めること。②知見を導き開いてやること。

【警拔】ハツイ ぬけ出てすぐれてゐること。

【警蹕】ヒツイ さきばらひ。

【系譜】フキ 系圖。

【輕侮】フキ 輕んじあなどること。
○輕蔑。輕慢。輕易。

【惠風】フウイ ①恩惠を施す風。②君の惠にたとへる語。③春の風。④夏の風を薰風、秋の風を金風、冬の風を朔風といふ。

【景福】フクイ 大いなるさいはひ。(景は大の意。)

【傾覆】フクイ 傾きくつがへる。○轉覆。

【刑辟】ヘキ つみ。しおき。

【啓蒙】モウイ ①愚な者の智を導き開いてやること。②子供に教へること。

【啓沃】ヨクイ 忠言を君主の耳に入れること。(我が心をひらいて君主の胸にそゝぎ入れし意。)

【警邏】フキ 非常を戒める爲にめぐつて歩くこと。又はその人。

【經略】レイク はかりをさめること。

【經綸】ケイン 國家をなすめとのへること。すべてかさどること。又その方策。例「君子以經綸。」

「上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ。」

【係累】ルキ ①ほだし。わづらひ。②妻子眷屬。

【徑路】ロキ ①こみち。ちかみち。②(日本)經來つたみちすぢ。經路。

【鷄肋】ケイ (鷄のあばら骨。) 役には立たぬが、捨てるには惜しい物。

【希有】ケ 「稀有」に同じ。例のまれなこと。滅多にないこと。

【梟雄】ウウ 悪人のかしら。○梟帥。

【僥倖】カウ まぐれさいわひ。

【校合】カウ(カウ) 讀み合はせて異同を調べること。

【澆季】キウ 道德風俗等の輕薄になつた末の世。

現代の世がさうである。

【翹企】ケウ 首をあげ、足をつまだてて望み見ること。

【驕矜】キョウ たかぶりほこること。例「驕矜之志」

【僑寓】ケウ かりすまひ。○寓居。僑居。

【教化】ケウ 教へてよい方に導くこと。

【皎皎】ケウ ①白く清らかなさま。②明らかにして曇のないさま。例「月色皎皎。」

【矯激】ケウ 中庸を失してげいしいこと。

【教唆】ケウ 教へそゝのかす。煽動する。

【轎車】ケウ 支那北方で旅行に用ひる轎の一種。馬車の形に似てゐる。

【梟首】シユ 斬罪に處せられた者の首をさらすこと。獄門。

【矯飾】シユク うはべを偽りがざること。

【矯正】ケウ ためたゞすこと。

【趨捷】セウ 身輕ですばやいこと。

【翹楚】ツウ 高く衆にぬきんでた者。(翹は高いこと。楚は雜草中の高く延びてゐるもの。)

【翹望】バウ (首をあげて望む) 切に望み待つこと。

【轎夫】フウ かこかき。○輿丁。

【輜輿】ユウ 人を乗せてかつぎ行く爲の小さい輿。

【矯風】フウ 悪い風俗をためなほすこと。

【驕慢】マウ おごりあなどること。(驕はたかぶる意。奢は贅澤をする意。)

【梟雄】ユウ あら／＼しくつよいこと。(梟はふくろふといふ荒々しい鳥。)

【激昂】カウ 心の激したかぶること。

【擊壤之民】ノタミ 太平を樂しむ民。(擊壤は地面をうちたゞいて太平を謳歌すること。)

【劇職】シユク いそがしい役目。

【閑寂】セキ ひつそりとして靜かなさま。しんと

して淋しいこと。

【缺舌】ゼツキ (百舌のやうに囁る意。) 外国人の言

葉をいやしめていふ。

【撃柝】ゲツキ 夜番。極めて賤しい役。(拍子

木をたゞいて夜まはりをする意。)

【激湍】ゲツキ 早瀬。

【逆旅】リゲキ やどや。旅館。(逆は旅人をむかへ

る意。)

【逆鱗】ゲキ 天子のお怒。(龍の喉の下にさかさ

鱗があつて、それに觸れると怒るといふ。これを

以て天子の怒にたとへる。)

【闕下】ケツ (宮闕の下の意。) 朝廷。

【傑鷲】ゲツ わるづよいこと。

【蹶起】ケツ はね起きること。

【決潰】ケツ 堤防がきれて河水のあふれ出るこ

と。腐つた物がやぶれつづれること。

【才子】ケツ (ダツ) 孤立するさま。特にぬけ出て

あるさま。

【結構】コウ くみたて。△國語としては、立派な

こと。

【譎詐】ケツ いつはること。○譎欺

【血食】ケツ 祭の時の生贄を神様が召上ること

○神を祭ること。例「不血食」御祭が絶える

意で、子孫の断絶又は國の滅亡すること。

【血戰】ケツ 身命をなげうつて烈しく戦ふこと。

【蹶然】ケツ 急ぎ驚き立つさま。

【月旦】ゲツ 月のついたち。一日。○人物の批

評。○月旦評。

□後漢の時、汝南で、毎月郷黨の批評をした故事

による。

【挈提】ケツ 物を携へてゐること。

【訣別】ケツ いとまごひ。告別。

【月齋之差】ゲツ 兩者の間に非常に差異のあ

ること。(月齋は月とすつぼんの意。)

【血路】ケツ 包んでゐる敵を切り開いてにげる

路。○困難な場合を切りぬける手段。

【狹隘】ケツ せまくて窮屈なこと。

【協商】ケツ 協議してとりはからふこと。話しあ

ふこと。

【協心戮力】ケツ 心をあはせ力をあはせるこ

と。

【怯懦】ケツ 物事によくおちおそれること。臆病。

【筐底】ケツ はこのそこ。はこの中。

【協調】ケツ 相互に心をあはせて調和すること。

【怯掠】ケツ おびやかしかすめとる。おどかして

とる。○劫略。劫奪。

【脅威】ケツ おびやかしかすこと。○脅嚇。

【涓埃】ケツ (しづくごみ) 極めてすくないこと。

【兼愛】ケツ (墨子の唱へた主義) 自他親疎の別

なく一様に人を愛すること。△楊子の自愛説に對

する語。

【元惡】ゲン 悪者の親玉。○元兇。

【懸案】ケン 談判中又は研究中で、まだ解決され

てゐない問題。

【險易】ケン げばしいことと平らかなこと。○

むつかしいこととやさしいこと。

【眩暈】ケン めまひ。

【眩耀】ケン 目がくらむほどかまやくこと。

【街燿】ケン 自分の才學を人にもりやかに示す

こと。てらひほこること。

【慊焉】ケン あきたらず思ふさま。○満足に思

ふさま。

【狷介】ケン 操を守つて孤立すること。志が堅く

て他と和合しないこと。かたいぢ。

【懸崖】ケン きりたつたやうなげばしいがけ。

【軒昂】ケン 意氣の高まること。

【權衡】ケン つりあひ。平均。例「權衡を保つ。」

【檢覈】ケン とりしらべること。

【懸隔】ケンカク かけへだたりのあること。かけはなれてあること。

【玄間】ケンカン 空中。大空。例「飛翔窮玄間」

【嫌忌】ケンキ いみきらふこと。

【權貴】ケンキ 權威があつて身分の高い人。

【街氣】ケンキ てらふ氣風。

【牽強附會】ケンキヤウフクワイ 道理でないことを道理らしくこじけること。

【獻芹】ケンケン 人に物を贈ることの謙辭。

【喧聒】ケンワツ やかましいこと。

【懸軍】ケンケン 後方との聯絡なく遠く陣地に侵入してある軍隊。例「懸軍萬里」

【元勳】ケンケン 大きな手柄。○君主輔佐の功勞者。

【眷眷】ケンケン れんごろに厚く思ふさま。物事を思ひ慕ふさま。

【蹇蹇】ケンケン なやみくるしむさま。例「王臣蹇蹇」

【元元】ケンケン 人民。○庶民。黎民。蒼生。黔首。億兆。

【眷顧】ケンケン 情をかけること。かばいがりめぐむこと。ひいきすること。

【箝口】ケンコウ 口を閉ぢて物を言はせないこと。言論を禁じること。

【乾坤】ケンケン 天地。○いぬぬの方角とひつじさるの方角、即ち西北と西南。

【賢佐】ケンサ 賢良な輔佐。

【歎歲】ケンサイ 不作の年。ききん年。○凶歲。

【舷窓】ケンサウ 船のまど。○蓬窓。

【研鑽】ケンゼン 物事の道理をきほめしらべること。

【妍醜】ケンシウ 顔の美しいこととみにくいこと。

【獻酬】ケンシウ さかづきをやりとりすること。

【軒車】ケンシャ 貴人の乗る車。例「華軒香車」

【元首】ケンシユ 天皇。君主。

【黔首】ケンシユ (黒いあたまを持つ者の意。) 人民。○蒼生。黎民。庶民。元元。億兆。

【涓人】ケンジン いさぎよい人。廉潔な人。

【牽掣】ケンセツ 「牽制」とも書く。引きとめて自由にさせないこと。例「牽掣首尾」

【言責】ケンセツ 一言論をつくすべき責任。○言つたことに對する責任。

【健羨】ケンケン 他人の幸福を非常にうらやましく思ふこと。

【泫然】ケンゼン 涙の流れるさま。はら〜と。

【儼然】ケンゼン おごそかなさま。

【眷族】ケンタク 家族。身うちの者。○家眷。

【權道】ケンダウ 方便のために行ふ手段。臨機應變のはかりごと。

【喧鬧】ケンノウ がや〜とさわがしいこと。○喧騒

【健啖】ケンタン 大食すること。○健啗・健噉なども書く。

【軒輊】ケンケン 上り下り。高下。○優劣。輕重。(軒は車の前が輊であがること。輊は車の前が重くてさがること。)

【言質】ケンシツ 後の證據になる言葉。口約束。

【蹇直之風】ケンチキョウ 直言する風。

【獻替】ケンケイ (ケイン) (善い事を申し上げ悪い事をやめさせる意。)よく君主を輔佐すること。

【玄鳥】ケンウ (くるい鳥の意。)つばめ。

【涓滴】ケンテツ 水のした〜り。しづ〜。

【權度】ケンタク ばかりとものさし。○のり。法則

【乾德】ケンタク 天子の御徳。△皇后の御徳を坤徳と

いふに對する語。

【堅忍不拔】ケンニン 堅くたへしのんで心の動かないこと。非常にがまんづよいこと。

【健忘】ケンワウ 記憶力の弱いこと。わすれっぽいこと。

【犬馬之齡】ケンバノレイ 自分の年齢の謙稱。

【犬馬之勞】ケンバノロウ 君主又は他人に對して骨折をすることの謙稱。

【權柄】ケンヘイ 權力。權勢。

【見兵】ケンヘイ (現兵の意。) 現在手許にある兵。

【甄別】ケンベツ 優劣を明らかに差別すること。

【軒冕】ケンメン 貴人のかぶる高い冠。①高位高官

【權變】ケンベン 變に應じて事を處すること。

【吠畝】ヘイク ①田のみぞとうれ。②田畑。③田舎

例「舞起於吠畝之中。」

【權謀術數】ケンボウジュツ 巧に人をあざむくばかりのこと。

【遣悶】センモン うさはらし。

【犬羊狐鼠之賊】ケンヤウコウソウノタク つまらぬ獸にひとしい逆賊。

【鍵鑰】ケンゲツ ①かぎとちやう。②内部に入る要所。

【權輿】ケンイ ①はじめ。おこり。②權ははかりのお

もり。輿は車の底。はかりを作るには權を最初に

作り、車を作るには輿を先に作る。故に權輿を物のはじめの意に用ひる。③嚆矢。濫觴。

【絢爛】ケンラン ①目のちらつくほど美しいこと。②

詩歌文章の字句のうつくしいことの形容。

【玄理】ケンリ 奥深い道理。

【按劍】ケンケン 劍の柄に手をかけて抜かうとする

こと。

【權威】ケンイ ①權力と威勢。②最高の標準となる

もの。泰斗。オーソリティー

【苟安】コウアン ①一時の氣やすめ、②一時のがれ。

○偷安 (トウアン)

【後胤】コウイン 血統の末。子孫。○後裔。苗裔。

【鴻益】コウエキ 大きな利益。(鴻は大の意。)

【鴻恩】コウオン 大きな恩。○洪恩。

【鴻號】コウゴウ 大きな號令。天子の御稜威。例「抑

正閭雖殊、卒歸於一、能熙鴻號於無窮。」

【鴻緒】コウシヨ 大いなる事業。

【紅於】コウウ ①もみぢの異稱。

□霜葉紅ニ於二月花の詩句から出た語。

【姪娥】シゴ 月の異名。

【溝壑】コウコク みぞ。たに。

【後學】コウガク 後進の學生。

【苟合】コウカフ かりそめの一致。その場だけの一致。

【弘毅】コウキ 度量がひろくて意志の強いこと。

【貢舉】コウキョ 進士の試験。

【溝渠】コウキョ ①みぞ。②へだたり。

【控御】コウコウ ①馬を奔逸しないやうに巧にあつか

ふこと。②巧に人をあやつり扱ふこと。

【攻玉】コウヨク 玉をみがきをさめること。

【攻苦】コウク 苦を極めること。

【功過】コウカ 功績と過失。

【鴻荒】コウワウ 大昔。太古。

【肯綮】ケンキョウ (筋肉の結締されてある所。すぢのつ

けれ。) 物事の急所。例「肯綮にあたる。」

【虹霓】コウイ ①にじ。②霓虹。

【拘牽】コウケン なづみひかれること。

【貢獻】コウケン (みつぎものを奉る意。) 力を致すこ

と。つくすこと。

【後言】コウゴン かげでそしること。例「汝無三面從

退有後言。」

【巧言】コウゴン 言葉をかざつて巧に言ふこと。例

「巧言令色」言葉を巧にいひなし、顔色をつくる
つて人の歡心なもとめること。

【後顧】コウ あとの心配。

【鴻鵠之志】コウコウシノ 偉大な志。(鴻も鵠も大きな鳥。)

【後昆】コウ 後の世の人。子孫。例「傳_ニ之後昆_ニ」

【恒産】コウ 一定の生業。一定の財産。例「無_ニ恒産_ニ者無_ニ恒心_ニ」

【貢士】コウ 地方から選抜して官府に出す人士。

△明治維新後、諸藩から選抜し、公議所に出仕せしめて議事に參與させた人。

【後事】コウ 將來又は死後の事。例「欲_ス三屬_ニ以_ニ後事_ニ」

【口耳之學】カウジノ 耳から聞き入れてそのまゝ口に説くだけで、自己の智徳には何等の影響もない淺はかな學問。

【苟且】コウ なほざり。かりそめなこと。一時の

ら出た語。他の草木が霜雪にしばむ時にもしばまぬ松柏の意から艱苦に屈せぬ節操に喩へる。

【鴻圖】コウ 大きなばかりこと。○雄圖。

【叩頭】コウ (頭で地面をたたく意。)丁寧におじぎをすること。○叩首。

【苟儉】コウ 一時のがれ。一時の安らかさを得ること。

【功伐】コウ てがら。いさを。

【口碑】コウ いひつたへ。傳説。

【口吻】コウ 口さき。ことばつき。口ぶり。

【洪謨】コウ (大きなばかりことの意。)帝王のはかりこと。

【鴻毛】コウ (大鳥の毛の意。)極めて軽いもの喩として用ひられる。例「義、泰山、死、鴻毛。」

【路馬】コウ (大なる馬の意。)主君の馬の尊稱。

【功利】コウ 功名と利益。

【寇掠】コウ 他國に侵入して盜賊すること。

まにあはせ。

【恒心】コウ 一定不變の心。人の常々に有する善心。用例は「恒産」の部を見よ。

【厚生】コウ 生計をゆたかにすること。例「利用厚生」世の便利と生活上の利益とをばはかること。

【後生】コウ 年若い者。例「後生可_レ畏_ル」年若い者は侮るべからざるものだといふ意。

【巷説】コウ 世上のうはさ。

【倥偬】コウ いそがしいさま。例「兵馬倥偬。」

【控除】コウ さしひくこと。

【扛鼎】コウ (重い鼎を持ち上げる意。)非常に力のすくれてゐること。

【肯定】コウ さうだときめること。許容すること。△否定の對。

【拘泥】コウ かゝはりなづむこと。

【後凋之節】コウ 堅固な節操。□論語に「歲寒、然後知_ニ松柏_ノ後_ニ凋_ル」か

【五更】コウ 今の午前四時頃に當る昔の時刻名。(一夜を五つに區分し、今の午後八時頃を初更としそれから今の二時間位を經過する毎に二更・三更と進み五更に至つて終るのである。)

【互角】コウ 力量に於て互に優劣のないこと。

【五嶽】コウ 支那の五つの名山。即ち泰山・華山・衡山・恒山・嵩山をいふ。

【沍寒】コウ きびしい寒さ。

【古稀】コウ 七十歳。(杜甫の句に「人生七十古來稀」とあるに基く。)

【狐疑】コウ 疑ふかくて容易に事を決しないこと。

【狐裘】コウ 狐の腋の下の白毛で作つた皮衣。古から支那では珍重したものである。例「一狐裘三十年。」

【故舊】コウ 昔なじみ。○舊知。故人。

【五經】コウ 五つの經書。即ち詩經・書經・易經・春秋・禮記をいふ。

【五行】^{ギヤウ} 支那でいふ萬物發生の要素即木・火・土・金・水をいふ。これを四時・方位・人生等に配して占法に用ひる。

【刻意】^{イカク} 意を苦しめること。苦心。

【極意】^{イク} 奥の手。

【刻下】^{カク} 目下。現今。

【告歸】^{キョク} 官吏が暇を乞うて家にかへること。

【剋期】^{キョク} 期限を定めること。

【國士】^{シヨク} 一國中に數へる程しかないやうなすぐれた人物。天下にすぐれた人物。

【黒子】^{シヨク} ほくろ。例「彈丸黒子之地」極めて狭小な土地。

【酷肖】^{セウ} 非常によく似てゐること。○酷似。

【國手】^{シヨク} ①名醫。②國碁の名人。

【國是】^{シヨク} 國民全體が是と認めた施政の方針。

【殼鯨】^{ソウ} 死を恐れるさま。

【告天子】^{チョウ} ひばり。

【國蠹】^{トク} 國家の蠹賊。國家を害する者。

【國帑】^{ドク} 國家の貨財。例「緩國帑急」

【酷薄】^{ハク} 極めて薄情なこと。例「殘忍酷薄」

【克復】^{フク} 戦に克つて以前の狀態にもどること。例「平和克復」

【國歩】^{ホク} 國の運命。例「國歩艱難」

【國母】^{ボク} ①天皇の御母。②皇太后。

【國老】^{ラウ} 大名の家老。藩主を輔佐する臣。

【告老】^{ラウ} 官吏が老年の故を以て辭職を乞ふこと。(老を告ぐるの意)。

【刻漏】^{ロク} 水時計。○漏刻。

【沽券】^{ケン} (地所の賣却を證する手形) ①賣値の記してある書附。②れうち。品位。例「沽券に關はる」

【呱呱】^コ 赤ん坊の泣く聲の形容。例「揚呱呱聲」

【五常】^{ゴヤウ} ①人と人との間に於ける關係を五種に區別したもの。君臣・父子・夫婦・長幼・朋友をいふ。(父・母・兄・弟・子といふ説もある) ②この關係の間の教を五教又は五典といふ。③人の常に身に備ふべき大事な五つの徳、即ち仁・義・禮・智・信をいふ。

【屬從】^{ジュウ} 貴人の側に侍すること、又その人。

【故人】^{コジン} ①舊友。例「三五夜中新月色、二千里外故人心」②死亡した人。

【鼓吹】^{コキ} (太鼓をたき笛を吹くこと) ①勢を付けてやること。ばげますこと。②或議論を主張すること。○鼓舞。

【虎嘯】^{セウ} (虎のうなること) 英雄が活躍する狀にたとへていふ。

【賈船】^{ケン} あきなひ船。

【湖壖】^{セン} 湖の岸。○湖畔。例「湖壖有二三祠」

【狐鼠】^コ 小盗人。例「犬羊狐鼠之賊」

【姑息】^{コク} 一時のがれ。まにあはせ。

【股肱】^{コウ} (もゝとひぢ) たのみとすべき家來。

【糊口】^{コウ} 「糊口」とも書く。口すぎ。生活。

【虎口】^{コウ} 非常に危険な場合。又は場所。例「遁虎口」

【胡坐】^ゴ あぐま。あぐら。

【五采】^ゴ 赤・青・黄・白・黒の五つの色どり。○五彩。五色。

【怙恃】^コ 父母。(詩經に「無怙恃」) 怙、無恃。母何恃。とあるに基く。怙も恃もタノムと訓む

【噤爾】^シ 舌うちをして叱ること。

【互市】^シ 貿易。交易。

【痼疾】^シ 久しく病んでなほらない病氣。○宿病(シユク)

【胡床】^{シヤウ} こしかけ。○床几(シヤウ)

【孤城】^{シヤウ} 一つだけかけはなれて援兵もない城。例「孤城落日」援兵のない孤城を落日が照らしてゐる光景、心細いさまにたとへる。

【胡孫】 コン 猿のこと。

【誇大】 ダイ 實際よりも大きくいふこと。○誇張。

【忽焉】 ニョ たちまち。ふと。

【骨鯁】 カウ 忠直にして富貴權勢におもれられないこと。例「直言骨鯁之臣。」

【矻矻】 コツ 勤勞するさま。例「勞筋苦骨終日矻矻。」

【忽諸】 ショ 盡くるさま。諸は助字。△國語としては、なほざり、ゆるがせなどの意。

【骨董】 トウ 種々雑多な古道具。○雅に出來てゐる古道具。

【骨肉之親】 ノシニク 親子兄弟をいふ。

【忽微】 ビョ 極めてわづかなこと。

【枯凋】 テウ 枯れしむ。○物事の衰へること。

【糊塗】 トコ ①はつきりしないさま。例「彼爲人糊塗。」②事を曖昧にする。こまかす。例「彼

小事 糊塗、スルモ 大事、不糊塗。」

【食言】 ヲハム 約束を履行しないこと。

【五斗米】 ベイ 僅かばかりの扶持米。薄給。

【顧望】 バウ ①ふりむいて見る。②猶豫して決しないこと。

【寤寐】 ビョ ねむることとさめてゐること。

【誤謬】 ビョウ あやまり。

【庶幾】 ネガフ 願ひ望む。○それにちかい。殆んど……である。

【辜負】 フコ そむくこと。○孤負。

【鼓舞】 フコ ①鼓を打つて舞ふ意。②勵ますこと。○獎勵。

【五服】 フク 支那の上代に、王畿を中心として、五百里毎に次を追うて定めた五種の區域。即ち甸服・侯服・綏服・要服・荒服。

刻を五更（又は戌夜）といふ。

【虎狼】 ラウ 殘忍無道な者の喩。例「是以羔犢之弱、而扞虎狼、敵也。」

【股栗】 リツ 恐れて足がふるへること。「股慄」とも書く。

【顧慮】 リョ 後の事を心配すること。

【五倫】 リン 人の守るべき五つの大なる道。○五

典。□孟子に「父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信。」

【五禮】 ゴイ 吉（祭祀）・凶（喪祭）・賓（賓客）・軍（軍旅）・嘉（冠婚）。

【固陋】 コウ 見聞がせまくて頑固なこと。むやみに舊弊を守つて改めないこと。

【古往今來】 コウライ 昔から今までの間、無限の時間。

【孤影】 コイ ひとりぼつちの身。例「孤影蕭然」

＝たゞひとりぼつちでさびしいさま。



【業火】 カウ ばげしい怒。「劫火」とも書く。

□怒のばげしいことを火に喩へた語。

【顧眄】 ベン ふりかへつて見る。○回視。

【虎賁】 ホン ①虎の如く走る意。勇士。例「虎賁三千人。」②「虎奔」とも書く。

【五味】 ゴ 五つの味、即ち甘・鹹・辛・酸・苦をいふ。

【五夜】 ヤ 古代の時刻の名。一夜を五つに分け、戌の時を初更（又は甲夜）といひ、亥の刻を二更（又は乙夜）といひ、子の刻を三更（又は丙夜）といひ、丑の刻を四更（又は丁夜）といひ、寅の

【吳越】ゴツ (吳の國と越の國。仇敵の間柄にあつ

た。仲のわるい間柄の喩。例「吳越同舟」仲の悪い同志が、同一の境遇にならび立つてゐること。

【衰衣】イコ 天皇の御服。

【渾淆】カウ 「混淆」とも書く。いりまじること。○錯雜。

【閩外之任】ノニツツイ 將軍の職。(閩外はしきみの

外の意、即ち國外に出征する臣の意。)

【滾滾】コン 水の盛に流れるさま。「混混」に

同じ。●物のころ／＼とこころがり落ちるさま。

【昏昏】コン 暗いさま。

【闇者】シヤ 門番。

【渾身】シン からだぢゆう。全身。例「渾身之力」

(ノチカラ)

【渾然】ゼン 分別又は差別のないさま。●圭角

又は缺陷なきさま。●のこらす。すべて。

【濁濁】クツ にごること。例「澆季濁濁之世」

【昆弟】クニ 兄弟。例「意合 則胡越 爲昆弟」

【根柢】ネン もと。土臺。

【坤德】クン 皇后の御徳。(坤は地のこと、皇后に

たとへる。)△天皇の御徳のことを乾徳といふ。

【混沌】トン 「渾沌」とも書く。●開闢のはじめ

まだ天地・陰陽の分れない時の状態。●物事の區

別の判然しないさま。

【困憊】クン つかれること。疲勞。

【渾融】ユウ 物がよくとけ合ふこと。

【坤輿】コン 大地。世界。

【衰龍】リョウ 天子の御服。●天子。

さ

【災異】サイ (天災地變の略。)常ならぬ天地の災

變。

【采邑】サイ 領地。地行所。○采地。

【座右銘】サイメイ 常に自分の訓戒とする文句。

【齋戒】サイ 飲食・動作を慎んで、清淨・謹慎を守

ること。ものいみすること。

【際涯】サイ かし。はて。

【細行】サイ 一寸した行爲。

【賽客】サイ 参詣人。○賽者。

【材幹】サイ はたらき。才能。

【猜忌】サイ それみきらふこと。

【債鬼】サイ 借金取。

【猜疑】サイ それみうたがふこと。

【細謹】サイ 微細なつゝし。例「大行不レ顧ニ

細謹」

【際遇】サイ 相違ふこと。●君主に認められて

その信任を得ること。

【歲華】サイ 年月。○年華。

【崔嵬】クワイ 土山の石を戴くもの。例「陟ニ彼

崔嵬我馬虺隤」●高大なさま。例「高堯崔嵬」

□一説に崔嵬は石山の土を戴くものだといふ。

【細君】サイ 諸侯の夫人の稱。小君。●他人の

妻の稱。△東方朔は戯れて自分の妻のことを言つ

た。

【才藻】サイ 詩歌・文章を作る思想に富んでゐる

こと。

【洒掃】サイ ふきさうち。

【祭菜】サイ 祭の時、神に供へるもの。

【叢爾】ジュイ 小さいさま。例「叢爾山嶺、不レ容レ有

水」

【宰執】サイ 宰相と執政者。

【宰相】サイ 君主を輔佐して大政を總理するもの。

丞相。△わが國では參議のことを宰相といつた。

【采色】サイ 目を喜ばせる美しい色。

【菜色】サイ (青菜のやうな顔色の義。)飢饉など

で人民の血色の悪いこと。

【載籍】サイ 書物。

【在昔】サイ むかし。○往昔。

【裁断】サイ ① たちきること。② 理非・善悪をわけ定めること。さばき。

【采地】サイ 領地。

【妻孥】サイ 妻子。

【儕輩】サイ なかま。ともがら。○朋輩。

【柴扉】サイ ① 小さな雑木を編んで作った扉。② 粗末な住居。

【淬勵】サイ つとめあげむこと。勉強すること。

【淬礪】サイ (淬は焼いた刃を水に入れること。礪はとぐこと。)人が智能をきたへみがくことに喻へる。

【解菜】サイ 精進料理をやめて肉食を始めること。精進落ち。

【創夷】サイ きりきす。○創夷。

【爭友】サイ 争ふまでに忠告する友。

【霜葉】サイ 霜がか、つて紅葉した葉。例「霜葉紅ニ於二月花。」

【爪牙】カウ 手先又はたのみになる部下。

【藻苕】カウ もとあさゞ。何れも水草の名。

【糟糠】カウ (ぬかとかす)粗食。例「糟糠之妻」

|| 貧しい時に娶つて苦を共にした妻。

【騷客】カウ 詩歌・俳句・文章などを作る風流な人。風流人。○騷人。

【蚤起】カウ 朝早く起きること。○早起。晨起。(蚤は早に通じ用ひる。)

【蒼穹】キユウ あなぞら。大ぞら。○蒼空。蒼昊(カウ)蒼昊(ビシ)

【巢窟】カウ 悪徒などのかくれが。

【造化】カウ ① 天地間に於ける萬物の生死現滅しつゝ、無窮に傳はること。② 宇宙を經營する神。造物主。

【崢嶸】カウ ① 険しいさま。例「太行路崢嶸。」② 深くあぶないさま。例「經三峽之崢嶸。」

【蒼惶】カウ あわたゞしいさま。倉卒。○「倉黃」

【蒼蒼】カウ ① 物の老いたるさま。② 髪の白くなりかけたさま。③ 草木のあなく茂つてゐるさま。

【鏘鏘】カウ 金屬又は玉の音。高くてよい音聲。

【桑梓】カウ 故郷。

□昔、支那で、毎戸桑と梓(あづさ)とを牆下に植ふ、子孫に遺して、祭器用と器具用とに供した。

それで父母の植ふた桑梓のある所といふ意味で故郷の意となる。

【藻思】カウ 詩文の才。

【操守】カウ 心に堅く操り守つて動かないこと。

【操縱】カウ いろ／＼にあやつり動かすこと。

【爭臣】カウ 争ふまでに君の過を諫める臣。

【躁進】カウ 氣ぜはしく進むこと。

【蒼生】カウ 人民。あなひとぐさ。

【騷擾】カウ さわぎみだれること。

【愴然】カウ 悲しみいたむさま。

「蒼黃」なども書く。

【早計】ケイ 早まつた仕方。

【造詣】ケイ 學問技藝の深く進み達してゐること。(造も詣もいたるの意。)

【創業】ケイ 事を始め、基礎を定めること。△「守成」に對する語。

【創見】ケイ はじめての發見。又自己の發見。

【想見】ケイ おもひ見ること。考へて知ること。

【桑戸】カウ (桑の木でつくつた戸)貧者の住居。

【操觚者流】カウ 文士の仲間。文筆にたづさはる者ども。

□觚は方形の木札。古へ支那に紙のなかつた時代には、この木の札に文字を記したのである。

【草創】カウ ① 事業を起しはじめること。② 文書のしたがきを作ること。

【錚錚】カウ (よく鍛へた鐵などの鳴る音。)多くの者の中ですぐれてゐるさま。

【草賊】ソウタク ㊦おひげき。㊦小盗人。㊦亂民。
【倉卒】ソウソツ あわただしいこと。㊦にわかなこと。
㊦いそがしいこと。○草卒。

【掃蕩】ソウダウ ㊦はらひつくすこと。㊦盜賊などを平げ滅すこと。

【草堂】ソウダウ ㊦かやぶきの家。㊦自分の家の謙稱。
【掃殄】ソウテイ はらひ滅すこと。

【勦絶】ソウゼツ 滅し盡くすこと。○勦滅。
【勦殄】ソウテイ うちほろぼすこと。○勦滅。

【壯圖】ソウト すばらしいはかりごと。大きな企。
【蒼茫】ソウマウ あなくして廣々してゐるさま。

【想望】ソウボウ その人の徳を慕ひ仰ぐこと。
【糖粕】ソウハク かす。

【臧否】ソウヒ 善惡。善人悪人。
【贓品】ソウヒン まひない又は他の不正な手段によつて得た品物。○贓物。

卑賤な者と同一の取扱を受けて並び死ぬこと。

【草廬】ソウロ 草ぶきの小屋。○草庵。
【嵯峨】ソウガ 山の高く険しいさま。例「山岳嵯峨」
而連岡。

【榘枿】ソウゲツ 木の枝がかどだつて縦横に入り交るさま。○「榘枿」とも書く。

【錯簡】ソウカン 書物の文句又は頁數の入りちがつてゐること。

【錯誤】ソウゴ あやまち。まちがひ。例「時代錯誤」
口々にほめはやす聲。

【嘖嘖】ソウソウ 口々にほめはやす聲。
【錯節】ソウセツ 入り組んだ木の節。困難な事柄に喩へる。例「不遇盤根錯節、何以別利器乎」

【索然】ソウゼン 興味の盡きるさま。例「興味索然」
【錯綜】ソウソウ ㊦入りまじること。㊦色々組み合わせるさま。

【索寞】ソウバク さびしいさま。○索莫。索漠。寂寞

【朔風】ソウフウ 北風。例「朔風凜烈」

【雙璧】ソウヒツ (二つの玉。一對の玉。) 相並んで美しい物、又は優れた物をいふ。
【雙眸】ソウモウ 兩方のひとみ。兩眼。

【草昧】ソウマイ ㊦世の中が未開で、人智のくらくいと。㊦世のはじめ。天下統一の初期。

【草莽】ソウマウ ㊦くさむら。㊦民間。在野。例「草莽之臣」仕官せずして民間にある者

【滄溟】ソウメイ 青海原。大洋。

【桑門】ソウモン 僧侶。世捨人。○沙門。緇徒(シ)。浮屠氏。

【蒼蠅】ソウロウ ㊦あなばへ。㊦譏人・佞人などにたとへていふ。

【草萊】ソウライ 荒れてゐる地。

【滄浪】ソウロウ 足もとのよろ／＼するさま。

【卓擗】ソクペキ ㊦馬のかひばをけ。㊦うまや。

【槽擗】ソウペキ 馬のかひばをけ。(一説に擗は厩の踏板だといふ。) 例「駢死槽擗之間」大人物が

【策命】サクメイ 天子が臣下に下さる文書、辭令書。

【作俑】サクヨウ 悪例を始めること。
□俑は人形。人形を作つて葬に殉せしめ、遂に後世、人を以て殉死させる階梯をなした。故に悪例を始めることを俑を作るといふ。

【錯落】ソクラク 入りまじること。㊦たがひ亂れること。

【左券】サケン (二分した判符の左方の意) 證據のしるし。

【易簣】ヤクサイ 學徳のある人の死ぬこと。○易簣(ヤクサイ) □曾子が死に臨んで簣(す)のこなかへたといふ故事。

【渣滓】サシ 物のかす。糟粕。

【左證】サショウ 證據。○證左。

【坐食】サシヨク 何もせず食つてゐること。あそびぐい。

【左衽】ジシ ひとりまへ。(野蠻人の衣服の著方) ○「左衽」とも書く。

【左遷】セン 官位なげられること。(支那では右を上とし左を下とする。)

【蹉跎】ダサ ①つまづくさま。例「驢垂二兩耳一分、中阪蹉跎。」②時機を失つておちおちたこと。不運にして志を得ないこと。例「欲ニ自修ニ、而年已蹉跎。」

【左道】ダウ 邪道。不正な道。

【左袒】タン ①(左の肩をばたぬぐこと。)味方する。くみする。

【殺氣】キツ 殺伐の氣。あら／＼しい氣。

【颯爽】サツ 勇ましく氣持よさま。

【刷新】シツ 弊害を除いて舊態を一新すること。

【撒水】サン 水をまくこと。

【慚愧】サン 關係。五常は仁・義・禮・智・信。はぢること。

【鑽仰】ガン 學徳を仰ぎたふとぶこと。

【篡逆】サン 臣として君の位をうばふこと。

【三更】サン 今の午後十二時頃。眞夜中。

【三竿】サン ①朝日が竹竿を三本つぎ合はせた程の高さに昇つたこと。②朝日の大分高く昇つた頃。午前八時頃。

【三槐】サン 三公。○三臺。

【三流】サン ①支那の周代には、太師・太傅・太保。漢代では大司馬・大司徒・大司空。唐代では大尉・司徒・司空。わが國では太政大臣・左大臣・右大臣。

【三澆】サン 一箇月を三つに分けていふ上澆・中澆・下澆の總稱。即ち上旬・中旬・下旬をいふ。○三澆。

【三軍】サン ①支那の周代で、大諸侯の出す定めになつてゐた軍勢。(一軍は一萬二千五百人)②前

【雜踏】カツ 人のこみ合つてさわがしいこと。○雜沓。

【雜糅】カツ 入りまじつて區別のないこと。

【雜駁】カツ ①ごた／＼して統一のないこと。②粗末なこと。

【殺戮】リツ ころすこと。

【蹉跎】ダサ ①つまづくこと。②失敗。

【左府】フサ 左大臣の唐名。△「右府」「内府」をも考察せよ。

【挿秧】アウ ①苗を水田にさしはさむ意。②田植。

【遮莫】アモアラバ ①どうであらうとまよ。②どうなつてもかまはない。

【慚恚】ガン ①はぢていきどほること。②散佚。

【三綱五常】サンカウ 人たる者の常に身にまもるべき大事な道。

○三綱は人道の三大綱、即ち君臣・父子・夫婦の

鋒・中堅・後拒の三軍。③大軍。

【三元】ガン ①上元(正月十五日)・中元(七月十五日)・下元(十月十五日)の總稱。②正月一日の稱。

【懺悔】ガン 過去の罪惡を語つて改めること。

【讒言】ガン ありもしない事をこしらへ言つて、人を悪くいふこと。

【三公】コウ 「三槐」に同じ。

【三才】サイ 天・地・人。

【散策】サン 策をひいてそぞろあるきをすること。散歩。

【珊瑚】サン 腰におびた玉の鳴る音。

【三從】ジユウ 婦人の一生を三期に分けて、その従ふべき所を教へた語。即ち幼い間は親に従ひ、嫁しては夫に従ひ、老いては子に従ふ。

【三春】シユン 春三箇月間。春。○九春。九句之春。△三冬・九冬等も之に準じて知れ。

【蠶食】シヨク 蠶が桑の葉を片端から食つて行くや

うに、他人の土地を漸次にわが物としてゆくこと。

【斬新】 シン 思ひつきの新しいこと、新奇なこと。

【爨炊】 スキ 飯をたくこと。○炊爨。

【山水癖】 ヘキスキ 山水の景色を愛する癖。○煙霞癖

【三省】 セイン 日に幾度もわが身を顧みて過失のないやうに注意すること。

【刪正】 セイン 詩文などを削り正すこと。

【巉峭】 セウ 岩山などのけはしく峙つさま。

【三遷】 セン 孟子の母が孟子を教育する爲に三度居をかへたといふ故事。○三徙(チ)

【潜然】 セン 涙を流して泣くさま。さめくくと○泫然(セン)と間違へないやうにせよ。

【粲然】 セン 白い齒を出して笑ふさま。○さらさらと輝やいて美しいさま。例「光明粲然。」

【殘喘】 ゼン (死前のいき)死にかゝつてゐる命。餘命。

【三族】 シン 三つの親族關係。即ち父及び父の兄弟、己及び己の兄弟、それに己の子を加へたものをいふ。(一説には、父族・母族・妻族又は一説に、父母・兄弟・妻子だといふ。)

【三多】 タン 文章を學ぶ上に多くせねばならぬ三つの事柄。即ち看多(多く讀む)・做多(多く作る)・商量多(多く工夫する)。○做は作の俗字。

【三代】 タン 夏・殷・周。

【篡奪】 タン 君の位をうばふこと。

【慘澹】 タン ①物凄く薄暗いさま。例「慘澹天雲」②意を極めて思索する。例「意匠慘澹。」

【慘愴】 タン 心をいたため動かすさま。例「南方舊戰國、慘愴意猶存。」

【芟除】 チョ 草木をきりさること。○亂を平らげ世をしづめること。○芟鋤。

【竄匿】 タン にげかくれること。○竄伏。

【譏佞】 タン 人をあしざまに言つて長上へつら

ふこと、又はその人。

【譏謗】 バツ あしざまにそしること。

【酸鼻】 ビン すり泣くこと。悲しみ痛むこと。

【譏誣】 フン 無實のことを言ひ立ててそしること。

【三伏】 フク 夏の極暑の時節。

□庚(カ)の金氣の伏藏する日、即ち夏至後の第三の庚の日(初伏)と、第四の庚の日(中伏)と、立

秋後の第一の庚の日(末伏)とをいふ。

【散漫】 マン ばつとしてしまりのないこと。

【山門】 シン 寺院の門。

【三餘】 シン 讀書に適當だといはれてゐる三つの餘暇、即ち冬(年の餘)と夜(日の餘)と陰雨(時の餘)とである。

【三籟】 シン 天籟・地籟・人籟。

【燦爛】 シン きらびやかなさま。きら／＼するさま。

【竄流】 シン 島流しにすること。○流竄。

【三略】 シン 支那、漢の張良が黄石公から授つたといふ兵書。

【四阿】 シン 四本の柱だけで壁のない小屋。あづまや。

【四夷】 シン 四方の蠻族。即ち東夷・西戎・南蠻・北狄をいふ。

【徒倚】 シン たちもとほること。例「徒倚耽戀、不能回踵。」

【肆意】 シン 意をほしいまゝにすること。思ふ存分。

【緇衣】 シン (黒い衣)僧侶の衣。墨染の衣。

【時雨】 シン ほどよい時に降る雨。△國語としてハシケレとよんで、秋冬の頃一しきりづつ降り来る雨をいふ。

【驟雨】 シン にはか雨。○白雨。夕立。

【秋毫】(カウ) (秋の頃ぬけかはつた獸類の細毛の意。すこし。わづか。)

【秋官】(カウ) 支那で刑罰を掌る官をいつた。
□秋は草木を枯すやうに嚴正たる意。

【舟師】(シウ) 水軍。○水師。

【袖手】(シウ) 自分で手出しをしないこと。

【周章】(シウ) あわてふためく。うろたへる。○狼狽(バウ)

【蒐集】(シウ) あつめよせること。

【舟楫】(シウ) 「舟楫」とも書く。○舟とかぢ。○舟をがちで漕ぎやること。○天子を輔佐する臣。

【秋水】(シウ) 劍のこと。例「腰間秋水鐵可斷」

【周旋】(シウ) 事を行ふ爲に立ちまはるること。○とりもち。世話。

【鞦韆】(シウ) ぶらんこ。例「鞦韆院落夜沈沈」

【脩短】(シウ) 長短。(脩はながき意。)

【脩竹】(シウ) 丈高く成長した竹。

【四行】(カシ) 人の行ふべき四つの道即ち孝・悌・忠・信をいふ。

【四更】(カウ) 今の午前二時頃。

【神韻】(キン) 詩文などのすぐれた趣。

【嗜好】(カウ) たしなみ好むこと。すきこのみ。

【諡號】(ガウ) 死後に贈つた名。おくり名。

【時好】(カウ) 當時の流行。

【耳學】(ガウ) 實地について習つたのではなく、ただ聞いて覚えただけの學問。

【志學之年】(シガク) 十五歳。
□論語に「吾十有五、而志于學」とあるに基づく。

【指麾】(キシ) 軍扇や采配などを以て指揮すること。さしまれくこと。

【自欺】(キジ) 自分の良心にそむいた言行をなすこと。

【式微】(ビシキ) 甚だしく衰へること。(式は發語。)

【羞恥】(シウ) はぢること。

【舟筏】(バウ) 舟にいかだ。

【州牧】(シウ) 一州の長官。地方長官。(牧は民をやしなふ意。)

【聚落】(ラウ) 人家のあつまり。村里。

【收攬】(ラウ) 自分の方へとりこむ。あつめとること。例「收攬人心」

【蹂躪】(ジウ) 「蹂躪」は俗字。ふみにじる。

【收斂】(レウ) 過重の租税をとりたてること。○兼斂。

【羞惡】(シウ) 自分の不善をばぢ、他人の不善をばぢくむこと。

【祇役】(シキ) 君命を奉じて他所へ赴くこと。

【四恩】(オン) 吾々の蒙つてゐる四種の大恩。即ち天地の恩、國王の恩、父母の恩、衆生の恩である。

【紙魚】(キョ) 衣服や書籍などの中に生じて之を蝕ふ白色の蟲。しみ。○衣魚。○書物を讀むばかりで、使用の才のない者を嘲つていふ語。

【私曲】(シキョク) よこしま。まがつたこと。

【司空】(シクウ) 土地その他の民事を掌る官。

【詞華】(シワ) ことばのあや。立派な詩文。

【史官】(シカン) 記録を掌る官。

【自經】(ケイ) 自ら首をくつて死ぬこと。

【鴟梟】(ケウ) 鳥の名。ふくろふ。○暴惡の人に喩へる。

【刺戟】(シキキ) つゝきはげますこと。

【刺激】(シキキ) 刺戟して感激させること。

【言至】(ゲン) 道にかなつた極めてよい言葉。極めてもつともな言。

【耳言】(ガン) さゝやき。○耳語。

【指顧】(コシ) 指ざして見たること。○近くに見えること。

【枝梧】エ さからふこと。くひちがふこと。○

支吾

【祇候】コウ つゝしんで御側に奉仕すること。

【司寇】コウ 支那の上代に於ける司法警察の官。

【至公】コウ 極めて公平なこと。

【咨嗟】サ ためいきなつて嘆くこと。

【仔細】サイ こまかいわけ。事由。○「子細」とも書く。

【貨財】ザイ たから。○資財。貨財。

【自裁】ザイ 自殺。自害。自盡。自刃。

【兒曹】サウ 子供たち。○兒輩。

【爾曹】サウ 同輩以下に用ひる複数の二人稱。おまへたち。○汝曹。汝輩。卿等。

【思索】サク 理路をたどつて考をめぐらすこと。理由・方法を發見しようとして考へ求めること。

【志士】シ 國家又は社會の爲に身命をなげうつて盡くす人。例「志士仁人殺し身爲仁仁。」

人である。

【自若】ジヤク 物事に遇つても 平常と少しも變らぬさま。○自如。

【卮酒】シ さかづきについだ酒。(卮は四升入りの杯。)

【死守】シ 死を決して守ること。

【錙銖】シ 極めて僅かの量。

【自首】シ 自ら罪状を告げること。

【私淑】シ (ひそかに我が身をよくする意。) 直接に教を受けず内々その人を慕つてわが身を修めて行く上の師とすること。

【諮詢】シ はかりとふ。意見をたづねる。

【趙起】シ ためらつて進みかゝるさま。

【耳順】ジ 六十歳。

【史乘】シ 歴史。私人の著した歴史。史官が朝廷の命

【私乘】シ 私人の著した歴史。史官が朝廷の命

【史乘】シ 歴史。私人の著した歴史。史官が朝廷の命

【私乘】シ 歴史。私人の著した歴史。史官が朝廷の命

【私乘】シ 歴史。私人の著した歴史。史官が朝廷の命

【刺史】シ 支那の漢・唐時代の州の長官。○日本では國守のこと。

【孜孜】シ つとめて倦まざるさま。○斂々(コツ) 汲々(コツ)。

【孳茲】シ つとめて倦まざるさま。○斂々(シ) 斂々。

【恣肆】シ ほしきままなること。

【私讐】シ 私のあだ。個人のうらみ。

【獅子吼】シ 雄辯をふるつて高論・正義を説くこと。

【施從】シ 見えつ隠れつしてあとをつけ行くこと。

【辭讓之心】シ 自らへり下つて人にゆづる心。孟子の所謂「禮之端」である。

【梓匠輪輿】シ 木工と車工。○梓匠は梓人と匠人で木工のこと、棺槨を造る工

【司檝吏】シ 牧畜をつかさどる役人。

【耳食】シ (耳で食ふ意、即ち眞味を知らぬ意。) 他人の言ふことを單に耳に聞くばかりで、深くその是非を考へず、みだりに之に従ふこと。

【辭色】シ 言葉と顔色。

【四書五經】シ 四書とは大學・中庸・論語・孟子をいひ、五經とは詩經・書經・易經・春秋・禮記をいふ。

【指針】シ 磁石のはり。時計の針。○しるべ。手引。

【矢人】シ 矢を作ることを業とする者。

【至人】シ 道德の極致に達した人。

【漸盡】シ 水のとけるやうにほろびること。例「漸盡灰滅。」

【四陲】シ 四方の邊境。

野乘。

によつて著したものに對する語。○外史。野史。

野乘。

【司檝吏】シ 牧畜をつかさどる役人。

【耳食】シ (耳で食ふ意、即ち眞味を知らぬ意。) 他人の言ふことを單に耳に聞くばかりで、深くその是非を考へず、みだりに之に従ふこと。

【辭色】シ 言葉と顔色。

【四書五經】シ 四書とは大學・中庸・論語・孟子をいひ、五經とは詩經・書經・易經・春秋・禮記をいふ。

【指針】シ 磁石のはり。時計の針。○しるべ。手引。

【矢人】シ 矢を作ることを業とする者。

【至人】シ 道德の極致に達した人。

【漸盡】シ 水のとけるやうにほろびること。例「漸盡灰滅。」

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【四陲】シ 四方の邊境。

【市井】セイ 市。まち。

【四姓】セイ 日本では源・平・藤原・橘の四氏をいふ。

【至性】セイ 極めてよいうまれつき。

【熾盛】セイ 勢の盛なこと。

【市聲】セイ 市中のさわがしい聲。

【嗤笑】セウ あざけりわらふこと。

【矢石】セキ やだま。例「矢石之間」|| 矢玉の飛び来る所。

【咫尺之間】シセキ (八寸と一尺の意。) 極めて近い距離をいふ。例「不レ辨咫尺。」

【不レ齒】セズ 同列にあつかはない。

【緇素】ソウ 僧侶と俗人。

【駛走】ソウ はやく走る。

【使嗾】ソウ 指圖してそゝのかす。けしかけてつかふ。

【師宗】ソウ 先生としてたつとぶこと。先生。

【至尊】ソウ 此の上もなく尊い御方。天子。

【耳朶】ダ 耳たぶ。

【士大夫】タイフ 官職ある人。軍士將校。

【斯道】ダウ 仁義の道。この道。この學問。聖人の道。

仁義の道。

【掉舌】シタツ 辯舌を弄する。盛に論じる。

【捲舌】マクツ 非常に感心する。非常に驚き恐れる。

【四端】タン 仁・義・禮・智の發する端緒。即ち側隱(あはれみ)・羞惡(はづかしく思ふ心)・辭讓(へりくだること)・是非(よしあしの見分け)の四つをいふ。

【指彈】ダン つまはじき。不良の行爲あるものなみ嫌ふこと。

【四知】チ 物事は知れやすいといふことの喩。漢の楊震が賄賂を贈られた時「天知、神知、我

知、子知。」といつてそれを辭退したといふ故事。

【絲竹管絃】シヤクタン 絃楽器と管楽器。いとたけ。音楽。

【七情】シヤウ 喜・怒・哀・樂・愛・惡・欲。

【七書】シヤク 七種の兵書。即ち孫子・吳子・司馬法・尉繚子・三略・六韜・李衛公問對をいふ。

【鷗張】オウ ふくろふが翼を張るやうに、勢の猛烈なことをいふ。

【輜重】チヨウ 軍隊の荷物。旅人の荷物。(輜は衣車。重は重物を載せる車。)

【司直】チヨク 裁判を司ること、又それをする役人。

【失意】シツ 志を遂げずして不平なること。△「得意」の對。

【執拗】シツ 心がねらけて意地づよいこと。自分の意見を通してすなほに人に従はないこと。かた

【執銳】シツ 刃物を執ること。精兵。

【室家】シヤク 住居。家庭。

【十干】カン 甲乙丙丁戊己庚辛壬癸。

【失脚】シヤク 足をふみはずすこと。失敗。

【疾呼】キョウ あわたゞしく呼ぶこと。

【桎梏】キョク 足かせと手かせ。自由を束縛するもの。

【疾視】シツ 目をいからしてにらみ見ること。惡むこと。

【執贄】シツ(トル) 束脩をなさめて弟子となること。なかしさに堪へかけて覺えず笑ひ出すこと。ふきだすこと。

【失踪】ソウ 姿をかくすこと。行方不明になること。

【執奏】シツ 取次いで奏上すること。

【叱咤】チツ 怒つてしかること。大聲にどなりつけて號令すること。例「叱咤三軍。」

【失墜】ツキ うしなひおとすこと。

【十哲】^{テッ} 十人のすぐれた賢人。通常は孔子の高弟なる顔淵・閔子騫以下の十人、をいふ。

△我が國では俳人芭蕉の高弟板本其角・服部嵐雪・森川許六等十人をいふ。

【嫉妬】^{シツ} ねたみ。それみ。

【櫛比】^{ビツ} 人家などが櫛の齒のやうに立ち並んでゐること。

*【執柄】^{ベツ} 政權をとること。執政。

【蟋蟀】^{シツ} こほろぎ。

【嗤詆】^チ わらひのゝしる。

【鷺鳥】^{サウ} わし・たか等の猛禽をいふ。

*【緇徒】^ト (最染の衣を著る者) 僧侶。○浮屠氏。

【司徒】^{トシ} 支那の上代に教育を掌つた官。

【自得】^{トク} ①自らさとること。②自ら満足してゐること。例「悠悠自得。」

*【指南】^{タン} 師匠。教授。○「指南車」より來た語。

【指南車】^{シヤン} 支那上古に用ひた、方角を示す仕掛の出來てゐる車。

【司馬】^シ 周の六官の一。國家の軍政を掌つた官。

【資望】^シ ①財産と名望。②人が歸依するだけの實ある人望。

【駟馬】^シ ①一輛の車をひく四頭の馬。②四頭の馬でひく馬車。

【芝眉】^シ 人の頰を尊敬していふ語。○尊顔。

【紫微】^シ 天子の宮殿。

*【資稟】^シ うまれつき。

*【師傅】^{フシ} おもひやく。めのと。

【自負】^{フジ} 自ら恃む所があつて誇ること。

【什器】^{シツ} 日常使用する家具。

*【雌伏】^{フシ} 「雄飛」の對。①他のものに屈服してゐること。②才略を有しながら、時機を待つ爲に退きかくれてゐること。

*【集大成】^{セイ} 古からの物を集めて之を完全な一つのものにまとめること。集成。

*【執着】^{チツ} 深く思ひこんで離れないこと。

【什寶】^{ジツ} 家に藏する寶物。

【脂粉】^{フシ} ①べにとおしろい。②化粧。

【斯文】^{フシ} ①この學。②聖人の教。儒教。仁義の教。

【自刎】^{フシ} 自ら首をはれて死ぬこと。○自刎(ケイ)

【四表】^{ヘウ} 四方。天下。

*【相印】^{シヤウ} 宰相の印。

【觴詠】^{シヤウ} 酒を飲んで詩歌を詠むこと。

*【障礙】^{ガイ} さまたげ。邪魔。障礙(シヤウ)。

【上澣】^{カン} 月の一日から十日まで。○上旬。上澣(クワン)

【瘴氣】^{シヤウ} 熱病をおこす山川の毒氣。

【商議】^{シヤウ} 相はかること。相談すること。

【情偽】^{ジヤウ} 誠と偽。○眞偽。

【師表】^シ 手本。○師範。儀表。

【司牧】^シ ①人民を治めること。②人民を治める官職。地方長官。知事。

【揣摩】^{マシ} 自分の心で他の心をおしはかること。○忖度(ソク)。例「揣摩臆測。」

【四民】^シ 士・農・工・商。

【諮問】^シ ばかり問ふ。相談をかける。

*【攘夷】^{ジヤウ} 外人を逐ひばらうこと。

【子夜】^シ 夜半。○三更。丙夜。

【尚友】^{シヤウ} 上りて古人を友とすること。上代の賢人を友とすること。

【情誼】^{ジヤウ} よしみ。人情の義理。

【尙齒】^{シヤウ} (齒を尙ぶ意) 老人をたつとぶこと。

【相國】^{シヤウ} 天子を輔けて朝政を統べる者、即ち宰相。○丞相。國相。△わが國では太政大臣のこと。

と。例「入道相國。」

【上巳】ジヤウ 陰曆三月三日のこと。

【上梓】ジヤウ ①版木にほりつけること。②書籍を出版すること。

【情實】ジヤウ 事實の真相。

【將相】シヤウ 大將と宰相。

【將種】シヤウ 將軍の子孫。大將のちすぢ。

【庠序】シヤウ 學校のこと。

□郷校を周では庠といひ、殷では序といった。

【上乘】ジヤウ 最上。第一。△佛語としては最上の教法。

【將帥】シヤウ 軍隊を率ゐる者。

【上元】ジヤウ 陰曆正月十五日。○三元を参照せよ。

【商估】シヤウ あきんど。商人。(估はうるのこと)

【商賈】シヤウ あきんど。商人。(商品を持つて賣り歩くを商といひ、店を張つて賣るを賈といふ。)

【情悅】シヤウ 望を失ふこと。氣拔けすること。

【猖獗】ケツ 悪いものが勢を逞しくすること。

【上僊】セン (天にのぼつて仙人になる意。) 此の世を去ること。死ぬこと。○登仙。(僊は仙に同じ。)

【城塞】サイ ①城ととりで。②とりで。

【常算】サン 平凡な謀計。

【常套】タウ ありふれた普通のかたづけの仕方。

【上帝】テイ 天帝。天の神様。

【唱道】ダウ となへはじめ。先だつて主張する。

【尙武】シヤウ 武事をたつとぶこと。○右武。△「尙武」右文を考察せよ。

【昌平】シヤウ 國家がさかえて世が安穩であること。○泰平。昇平。太平。

【常平倉】サウ 昔、米價を平均させる爲に、官で米を買ひ入れて置いた倉庫。

【牆壁】キヤウ ①かきとかべ。②かこひとかべ。

【惹起】キヤク ひきおこす。

【借款】クワン ①負債を起すこと。②國際的の貸借契約。

【弱冠】クワン 男子二十歳の年齢。(禮記に「二十曰弱冠。」とあるに基づく。)

【綽々然】ゼン ゆつたりとして餘裕あるさま。

【釋然】ゼン 疑のとけるさま。

【爵秩】キツ 位と祿。○爵祿。爵位秩祿。

【弱年】ネン ①年の少ない者。②二十歳。

【借問】モン かりそめに問ふ。試に問ふ。

【雀羅】ラ 雀を捕へる網。例「門前張雀羅。」
|| 訪問客がなくて門前のさびしいこと。

【酌量】リヤク 事情をくみとつて適宜の手加減をすること。

【徜徉】ヤウ ぶらぶらさまよふこと。△「徜徉」とも書く。○逍遙。

【商量】リヤウ はかりかんがへること。

【商旅】リヤウ たびあきうど。

【瘴癘】レイ 風土・氣候の爲に起る熱病。マラリヤの類。

【車駕】ガ ①天子の行幸の時乗り給ふ御車。②天子。

【射倖】カウ 倖倖を得ようとすること。

【蔗境】キヤウ 佳境。おもしろいところ。例「漸入蔗境。」

【釋褐】カク 仕官すること。役人になること。(平民の常服を脱いで官服を著る意。)

【洒脫】サ さつぱりとして俗氣のないこと。

【這般】ハン これ。この。例「這般消息」|| これらの趣。この有様。

【遮蔽】ヘイ さへぎりおほふこと。

【沙彌】シヤ 佛門に入つて得度式を終へたばかりの少年僧。修業の未熟な初心僧。

【沙門】モシヤ 僧侶のこと。○桑門(モウ)。

【洒落】シヤ 深く物事に執著しないこと。あつさりしてわだかまりのないこと。△「シヤレ」と讀む時には別の意味となる。

【射利】シヤ 偶然の利益をねらふこと。手段をかまはず利を得ることのみを目的とする事。

【車裂】リツ 支那戦國時代に行はれた殘刑。車二輛に罪人の各片足を結びつけ、車を相異なる方向に轉じて、その肢體を引きさいたもの。

【戎夷】ジュウ 蠻族。

【奢侈】シヤ 物質上でおごること。贅ぜいたく澤。

【社稷】シヤク 國家。

【社稷之臣】シヤクノシノビ 國家を引受けて、その安危に任ずる臣。例へば蜀漢の諸葛孔明、宋の文天祥、

といふ説に基づく。

【首級】シユ 斬りとつた首。

【首級】シユ 支那戦國時代に秦の法として、戦争に敵の首を一つとれば、階級が一つ上つたところからいふ。

【宿痼】シユク 久しく治らない病氣。

【宿意】シユク ①年來の志。②遺恨。

【殊遇】シユウ 特別の待遇。

【宿學】シユク 多年學問を研究して深く道理に通じた人。○宿儒。

【殊勳】シユ 拔群のいさをし。

【倏忽】シユツ ①忽ち。②早くてとりとめがつかぬさま。③極めて短い時間。

【肅殺】シユツ 秋の氣の草木を枯らすこと。

【夙志】シユク 幼少の頃から志。

【宿儒】シユク 古くからの儒者。老儒。

【肅々】シユク おごそかで靜かなさま。

【宿昔】シユク 昔から。以前から。平生。○夙昔。

わが國の矯正成など。

【社鼠】シヤ (社に巣くふ鼠の意) 主君の側にゐる小人。

【洒脱】ダツ さつぱりとして俗氣のないこと。

【戎衣】ジュウ 軍服。戎服。

【戎軒】ジュウ 戦時に於ける乗用の車。

【聚落】ジュウ 村里。村落。

【終焉】ジュウ 命の終る時。○臨終。

【終歲】ジュウ 一年中。

【蠡斯】シユウ きりくす。いなご。

【衆辱】ジュウ 大ぜいの人の中で恥をかゝせること。

【聚斂】ジュウ 重い税をとりたてること。

【輸贏】シュウ 勝敗。かちまげ。○雌雄。

【趣向】シュウ ①意匠。②意向。こゝろもち。

【首丘】シュウ その本を忘れないことの喩。

【首丘】シュウ 狐は死ぬ時に、首をもと住んでゐた丘に向ける

【宿憤】シュウ 古くからの憤。

【夙夜】シュウ 朝早くから夜おそくまで。

【祝融】シュウ 火を司る神。○祝融之災 火災。

【首功】シュウ ①戦場で敵の首を取つた功名。②第一の功名。

【首肯】シュウ うなづく。承諾する。

【殊死】シュウ ①死物ぐるひになること。必死になること。②斬罪。きりころすこと。

【孺子】ジュウ ①子供。②未熟な者を賤めていふ語。

【豎子】ジュウ ①召使ふ小童。②人をいやしめて呼ぶ語。こやつ。小僧。

【守株】シュウ (シユクヒゼを) 舊習に拘泥して變通の見識が無いこと。

【侏儒】シュウ 「朱儒」とも書く。①一寸法師。丈の

低い者。①見識の無い者を嘲つていふ語。

【殊勝】シヨウ ①最もすぐれてゐること。②感心すべしと。神妙。奇特。

【儒臣】ジュ 孔孟の學を以てつかへる臣。

【守成】セイ 創業のあとを受けて、之をかため守ること。

【鬚髯】シュ あごひげと口ひげ。

【呪咀】ソ まじなひのろふこと。のろひ。

【趣致】シュ おもむき。風情。

【述懐】シュ 自分の思をのべること。

【入魂】ジュ 懇意なこと。○昵懇(ジュ)

【出處】シュ 出でて官に仕へることと退いて家に居ること。(處は居るの意。)

【術數】ジュ はかりごと。例「權謀術數。」

【忱惕】チ おそれて心の安くないこと。

【出藍】シュ 弟子が先生よりも勝つてゐること。

□「青出ニ于藍ニ而青ニ于藍」に基づく語。

【首途】シュ かどで。

【須臾】シュ しばらくの間。

【修羅之巷】シュ 戰場。

【儒林】ジュ 儒者のなかま。

【首魁】シュ かしら。張本人。

【竣功】シュ 工事の出来上ること、「竣工」とも書く。

【葦菜】サイ 水草の名。ぬなば。

【巡錫】シュ 僧侶が各地を巡つて教をひろめること。

【遵守】シュ したがひまもる。

【巡狩】シュ 天子が各地をめぐつて、その有様を御覽になること。諸侯の任地を天子が視察なさること。○「巡守」とも書く。

【逡巡】シュ 次第にあとにさがる。しりこみする。例「九國逡巡西征府。」

【恂恂】ジュン ①おごそかに謹むさま。②うやくしく聲やかなさま。

【諄諄】ジュン 懇に説くさま。

【準繩】ジュン ①水準器とすみなば。②規則。

【潤色】ジュン つくろひかざること。

【浚渫】ジュン 水底のどろをさらつて深くすること。

【馴致】ジュン ①なれさせること。②段々とさういふ状態にならせること。

【蠢動】ジュン ①蟲がうごめくこと。②力が無くて騒ぎ立てる意に用ひる語。

【潤筆】ジュン (筆をぬらす意) 書畫等を書くこと

例「潤筆料」書畫・文章を書いた報酬。

【淳朴】ジュン すなほで飾氣のないこと。人情が厚くいつぱりのないこと。○醇朴。

【俊邁】ジュン 多くの人にまさつてすぐれてゐること。又はその人。

【循吏】ジュン 規則に従つて、忠實に職務をつとめる役人。

る役人。

【巡邏】ジュン みまはること。又は見まはりの役人。

【醇醴】ジュン 清酒と甘酒。

【峻烈】ジュン きびしくはげしいこと。

【勝槩】ガイ すぐれたおもむき。

【憧憬】ケイ あこがれること。

【冗語贅説】ジュン 不必要な言説。

【證左】ジュン ①證據。②證人。

【丞相】ジュン 天子をたすけて國政を執り行ふ最高官。○宰相。

【悚然】ジュン ぞつとするさま。○悚然。

【稱道】ダウ たゞへいふ。

【唱道】ダウ 自ら先に立つて唱へること。(道はいふの意。)

【乘田】ヂョウ 牧場の畜類を飼ふ役人。

【聳動】ドウ ①おそれ動く。②驚かす。

【頌徳】 トシヨウ 功德をほめたゝへること。

【冗費】 ヒシヨウ むだな費用。

【繩墨】 バシヨウ ①すみなは。②標準。

【從客】 シヨウ 落ちついてゆつたりしてゐるさま。

【愆愆】 シヨウ 傍からいざなひすゝめること。例

「縦令公老童發^{シタ}事、子等何^シ不^シ匡救^セ、乃^チ愆^ニ酒^{スル}之^ヤ也。」

【嗜慾】 ヨシ たしなみ好む心。

【食邑】 シヨク 知行所。采邑。

【蜀江錦】 シヨクカウ ノニシキ 蜀の地から織り出す美しい錦。

【食客】 シヨク ①客分としてかゝへおく臣。②居候。

【食頃】 ケイ 食事をする間。わづかの間。

【食言】 シヨク 言を食はむ意。うそをいふこと。

約束をたがへること。

【蜀魂】 シヨク ほととぎす。時鳥。○杜鵑。杜宇。

子規。不如歸。

【贖罪】 シヨク 財物を出して罪過をあがなふこと。

【食指動】 シヨク ①餐にあづかる前兆。②物を欲

し求める意志のあること。

【溽暑】 シヨク むしあついこと。

【蓐食】 シヨク 早朝にねどこで食事をする事。例

「蓐食而發。」早朝に出發すること。

【辱知】 シヨク 知を辱くする意。その人と知合で

あることの謙稱。例「辱知諸君。」

【處士】 シヨク 仕官せずして家になる士。

【沮洳】 シヨク 土地が低くてじめ／＼してゐる

ところ。

【絮說】 シヨク くはしく説くこと。

【所詮】 シヨク つまる所。畢竟。

【所天】 シヨク 仰ぎいたゞく所。臣よりは君をい

ひ、妻よりは夫をいふ。

【書牘】 シヨク 手紙。○簡牘。

【處方】 ハウ 病氣に應じて調劑すること。

【松籟】 シヨウ 松風の音。○松濤(シヨウ)。

【所勞】 シヨウ わづらひ。病氣。

【而立之年】 シヨウ 三十歳。

□論語に「三十而立」とあるに基づく。

【師旅】 シヨウ 軍隊。

【砥礪】 シヨウ ①といし。②とぎみがく。

【辭令】 シヨウ 應對の言葉。

【熾烈】 シヨウ 光や熱などの烈しいこと。

【四維】 シヨウ ①四隅・即ち東北・東南・西南・西北を

いふ。②四徳即ち禮・廉・恥をいふ。

【市尹】 シヨウ 市長。

【致仕】 シヨウ 職を辭すること。○挂冠(ケイ)。

【通刺】 シヨウ 名刺を出して取次をこふこと。

【瞋恚】 シヨウ いかりうらむこと。

【宸憂】 シヨウ 天子の御心配。

【震撼】 シヨク ふるひ動かすこと。

【森閑】 シヨク 物音が聞えず、ひっそりとしてゐる

さま。

【神鑑】 シヨク 神のお見わけなさること。神のみそ

なはすこと。

【宸翰】 シヨク 天子の御書翰。

【銘心肝】 シヨク 心にきざみつけて永く忘れ

ないこと。

【心眼】 シヨク 物事を觀察し、又は見わけける心の作

用。無形のものを見わけける心のはたらき。

【眞贋】 シヨク ほんものにとせもの。

【心機】 シヨク 心のはたらき。

【晨起】 シヨク 朝早く起きること。

【宸襟】 シヨク 天子の御心。△「宸筆」「宸翰」「宸

應」等の意をも考察せよ。

【呻吟】 シヨク うめくこと。うなること。

【人寰】 シヨク 人の住んでゐる所。世の中。

【任侠】ジンケン 強い者を推し、弱い者をたすけることを己の任とする人。なとこだて。

【箴言】ジンゴン いましめの言葉。

【振古】ジンコ おほむかし。太古。

【仁厚】ジンウ なさけがあつて手あつていこと。

【神采】ジンサイ ①すぐれた風采。②精神と風采。

【神算】ジンサン 靈妙なばかりこと。

【辛酸】ジンサン (からい味とすい味。) 艱難。辛苦。

【進士】ジンシ 支那で郷から選ばれて中央政府の官吏登用試験に及第した者。(最初は登用試験の科目であつたが、後に合格者をいふやうになつたのである。)

【参差】ジンシ ①長短がそろはないさま。②互に入りまじつてあるさま。

【真摯】ジンシ まじめなこと。

【進止】ジンシ ①たちゝ振舞。②進退の命令。さしづ。

【人日】ジンニツ 五節句の一、正月七日。

【盡日】ジンニツ ①はての日。②一月又は一年の最終日。みそか。おほみそか。

【親炙】シンシヤク 親しく交つて教を受けること。(炙はあぶり肉、肉が火力にこがされて行くやうに感化を受けてゆく。)

【斟酌】シンヤク (水又は飲料などを汲みわけること。①彼此参照して取捨すること。②程よく取計らふこと。

【人爵】ジンヤク 官位・爵祿などのやうに人の定めた榮譽。(人身に自然に備はつてたふとまれるもの、即ち徳を天爵といふに對する語。)

【心術】シンユツ こゝろだて。

【賑恤】ジンユツ 「賑郵」とも書く。恵み救ふこと。

【神色】シンシキ ①精神と顔色。②顔色。例「神色自若。」

【津々】ジンジン 溢れこぼれるさま。内部からとんど

人湧き出るさま。

【森々】シンシン 樹木の並んで茂つてゐるさま。樹木の高く聳えてゐるさま。

【駸々】シンシン ①馬の行くさま。物事の早く進歩するさま。

【措紳】シユン 「措紳」とも書く。(笏を紳に措む者の意。) 公卿。高貴の人。

【心酔】シンソウ 深く心を傾けて欽慕すること。みとれてうつとりすること。

【盡瘁】ジンソウ 盡力すること。

【枉席】セキ 「枉席」とも書く。①敷物、しとれ。②寢床。

【震慑】セツペン ふるひおそれること。

【荏苒】ジンジン だん／＼月日の長びくこと。のびひ／＼になること。

【真率】ツツン 天真のまゝで飾らぬこと。

【震蕩】タウワン 「震盪」とも書く。ふるひ動かすこと。

【震旦】ダン 支那のこと。

【親昵】チンニツ 「親昵」とも書く。親しみなじむこと。近しい仲。

【慎重】チンウ つゝしみぶかく重々しいこと。

【進陟】チンシキ 官位などをすゝめのぼすこと。

【齟齬】ソゴ 七八歳の幼児。(齟は齒の抜けかばること。髻はたれがみ。○齟齬。

【震怒】ドン 天子の御怒。○逆鱗。

【慎獨】シンドク (獨りをつゝしむ。) 人の見てゐない所でも、自ら慎んで、物事を妄りにしないこと。

【軫念】チンニエン ①天子の御心。②天子が御心をお痛めになること。

【神祕】シンヒ ①人智ではかり知られない秘密。②普通の理論・認識の外に超越した事柄。

【信憑】シンビョウ 信用してたのみとすること。信頼。

【鍼砭】チンペン 人を戒めてその過を匡正すること。(鍼は金の針、砭は石の針。共に身體を刺して病

を治するもの。

【人牧】ボク 上に立つて人を治める者。

【訊問】モン しらべたゞすこと。とりしらべること。

【人籟】サイ 人の吹き鳴らす鳴物の聲。即ち笛尺八等の音。すべて人のたてる物音。△風の音等を天籟といふに對する語。

【辛辣】ラン (味の甚だしくからいこと。) 極めてきびしいこと。

【森羅万象】バンシヤウ 天地間に存在するすべての物。

【斟量】リン おしはかること。

【津梁】リン ①渡しと橋。②物事の手引。たよりとなる人。

【人倫】リン ①人のふみ行ふべき道。②人類。例「人倫之變」親子兄弟などの死ないう。

【畛域】シン 境界。物事のへだて。

す

【樞要】エウ かなめ。大切な所。

【趨向】カウ おもむき。趣向。

【樞機】キウ ①中心の大切な所。②政治の大もと。不仕合せ。不遇。○國語の數寄(ス

【數奇】スウ キ)はものすき。風流・茶の湯の技などの意に用ひられる。混同しないやうに注意せよ。

【芻言】ダウ 賤しい者の言。(芻は草刈。いやしい者。)

【趨舍】シュ おもむくことと止まること。○進退。向背。去就。

【趨勢】セウ おもむき向ふいきほひ。なりゆき。傾向。

【芻蕘】ダウ (芻は草を刈ること。蕘は薪をとること。) 草刈や樵夫のやうな賤しい者。山がつ。

【樞軸】シュ ①運轉又は活動の中心となる部分。

肝要な個所。③権力又は政治の中心。

【陬遠】エウ 遠い田舎。片田舎。

【推移】イ おしうつること。うつりかへること。

【隨一】イチ 第一。さきがけ。

【誰何】カ 誰だと聲をかけて名を問ふこと。呼びとがめること。

【推敲】カウ 詩文の字句をさまざまに考へ練ること。

□唐の詩人賈島が「僧敲月下門」の句を得て後、敲の字を推にしようかしまいかと考へたといふ故事。

【推舉】キョ 人をすゝめあげること。

【吹嘘】キョ ①息をふきかけること。②他人をあげすゝめること。即ち推薦すること。○推舉。吹舉。

【垂拱】キョウ (衣の袖を垂れ、手を拱く意) 何事をもなさず他のなすがまゝにまかせおくこと。

【水魚之交】スイギョノトモナリ 交情の親密なさまを水と魚との關係に比していふ。

【翠鬢】スイワン ①みどりのわけ。美人の髪形容。②山の青々としたさまに喩へる。

【推轂】クキョ (人の爲に車の轂を推す意。) ①人を推しすゝめることの謙稱。例「推轂趙箱」爲は御史大夫。②人を助けて事を成就させることの謙稱。例「推轂高帝」就は大業。

【瑞相】ズイ めでたいしるし。○吉兆。

【炊爨】スイ 飲をたくこと。にたき。

【衰殘】スイ おとろへそこなはれること。よわりはてること。(かういふ場合の殘はソコナハレルのである意。)

【水師】スイ 海軍。○水軍。

【出師】シュ 軍隊をくり出すこと。出兵。

【垂死】シュ 死するになんんとすること。死にさうになつてゐること。○瀕死(インシ)。

【翠嶂】シヤウ みどり色の連山。

【推獎】シヤウ ほめたてること。

【瑞祥】シヤウ めでたい事のある前兆。よいきざし

○瑞兆。瑞徴。

【水手】シユ 船子。かこ。

【惴惴】ズヰ おそれるさま。びく／＼して。

【彗星】セイ はうき星。

【萃然】ゼン むらがりあつまるさま。

【垂涎】ビシ (よだれを垂らす意。)或物を慕ひほ

しがる情の切實なること。

【衰頹】ハシ おとろへくづれること。

【翠黛】タイ みどりのまゆずみ。あをぐろい色

で描いた眉。◎遠山をあを黒い色の形容。

【出納】ツウ ◎出し入れ。◎金銭又は物品の收入

と支出と。

【墜道】ダウ トンネル。

【垂髫】チウ ◎子供の垂髪。おさげ。◎幼時。幼

年。

【水伯】ハク 水の神。

【推輓】バン (前から輓き、後から推す意。)人をよ

い地位に推しすすめること。○推薦。

【翠微】ビシ ◎山のみどり色のもや。◎山の八合

目。

【隨筆】ズヒ 筆の進むまゝに何くれとなく記した

もの。○漫録。

【綏撫】フキ 安んじなでること。なぐさめやすん

ずること。

【翠巒】ラン みどり色の峰。あを／＼した山。

【寸陰】イン 一寸の光陰。わづかの時間。

【寸楮】チユ 短い手紙。○寸簡。寸書。(楮はか

うそのことで、紙の意に用ひる。)

せ

【征衣】テイ ◎旅衣。◎出征の軍服。

【贅疣】ゼイ ◎こぶといば。◎無用のもの。

【青雲】ウシ ◎青い空。◎高位高官にたてへてい

ふ。例「青雲之志」「青雲之士」

【聲援】セイ ◎いひふらしなどして力を添へ勢づ

かせること。◎聲をかけて助勢すること。

【聲價】セイ 評判。うはさ。

【生硬】カウ ◎固陋にして人情に通じないこと。

◎熱しないでこつ／＼してゐること。

【晴好雨奇】ウキ 晴天にも、雨天にも景色が

その趣を異にして眺のよいこと。

【精悍】カン 舉動がするどくて勇敢なること。

【聖鑑】カン 天子の御鑑識。

【青眼】ガン 親しい人に對する眼つき。人を喜び

迎へるめつき。△「白眼」の對。

【正氣】キ 至公・至正・至大なる天地の元氣。

【制馭】ギョ 抑へつけて自分が自由にあつかふこ

と。支配すること。○制御。

【青衿】キョウ 「青襟」とも書く。學生。(青色のえ

りの衣服。昔、支那の學生が着たもの。)

【成果】ケイ 成功の結果。

【清華】ケイ 貴い家柄。△日本では公卿の家格の

一。英雄家。

【齊桓晉文之事】セイケンブンノコト 霸業。

□齊の桓公と晉の文公とがやつた事業の意。

【生業】ゲイ 世渡りの爲にする職業。なりはひ。

【聲言】ゲイ いひふらすこと。○揚言。

【世故】コイ 世の中の事。

【贅語】ゴイ 餘計な言葉。無用な文句。○贅言。

【失正鵠】シツコク 要點をはずす。正鵠は的の

中央の黒星。

【星霜】セイウ 年月。年。○春秋。

【悽愴】サイウ いたましいこと。

【奉正朔】ホウジヤク その統治に服する。或王の

臣下となる。

□正朔はこよみ。支那の上古、王者が姓をかへて新に立つと、正朔を改めたといふ故事による。
 *【成算】サシ 成し遂げる見込み。かかれての心づもり。○成竹。

【悽慘】サシ いたましいこと。いたみ悲しむこと。

【世子】シイ 諸侯のあとをつぐべき子。△帝王の嗣子を「太子」といふ。

*【青史】シイ 歴史。

*【脆弱】ジヤク もろくて弱いこと。

【聖壽】ジユ 主上の御年齢。

【正閏】ジユン ①平年と閏年。②正統と閏統。正位と閏位。(閏はあまりもの、餘計なもの。)

【青春】シユン ①春。②青年時代。

【濟勝之具】ノグシヨウ (勝地を跋渉する具の意。健脚。たつしやな足。)

【聲色】シヨク 音聲と顔色。又淫聲と女色。

【星辰】シン 星。○星斗

【清晨】シン 清らかなあさ。

【正寢】シン 表座敷。正殿。

*【征人】ジン ①征伐に行く人。②旅人。○征夫。

【西睡】スキ 西のはづれ。我が國では九州のこと。

【精髓】ズキ 物事の眞の正味。

【萋々】サイ 草木の茂つてゐるさま。

*【噬臍】サイ (臍を喰むとも及ばぬの意。)後悔すること。

【井然】セン 物事の規則正しいさま。

【盛饌】セン 盛んな御馳走。

【清談】ダシ ①世事を離れた清淡な談話。②支那の三國・六朝の頃に、老莊の流を汲む者が、世間を超越した虚無・幽玄の理を語りあつたこと。清談の徒の著名なものに竹林の七賢、即ち阮籍・山濤・嵇康・阮咸・向秀・王戎・劉伶があつた。

【精緻】チセイ 極めて緻密なこと。

*【掣肘】チウ 傍から干渉して自由に行動させぬこと。

□宓子賤が二吏に字を書かせ、その肘(ヒ)を掣(ヒ)いて妨げたといふ故事に基づく。

【西疇】チウ ①西にある田地。②田地。例「農人告レ余以ニ春及ニ將レ有レ事ニ于西疇。」

【成竹】チク 事を行ふに當り、豫め心中に立てるもくろみ。例「胸中有ニ成竹。」○成算。

【征途】トイ ①征伐にゆくみち。②旅行にゆくみち。

*【齊東野人之語】ヤジトウノゴ 事理を解せぬ田舎者の愚説。

【征馬】バシ ①旅人の乗る馬。②出征の途にある馬。

【成敗】ハシ ①成功と失敗。②政事。しおき。斬罪に處すること。

【擠排】ハシ おしおとすこと。おしのけること。

【聲望】ハウ ほまれ。評判。

【脆美】ビイ 魚や肉などのやはらかでうまいこと。

【靜謐】ヒツ 世の中が靜かに治まつてゐること。

○太平。

【清貧】ヒン 貧乏ながらも行が清廉潔白であること。

*【聲聞】ソウ ほまれ。○名聞。

【旌表】ヘウ 人の徳行を世にあらはし示すこと。

【聖謨】ボウ 帝王のほかりごと。○皇謨。

【生民】セイ 人民。人類。

【濟民】ジ ①人民をすくふこと。②政事を行ふこと。

*【聲明】メイ 明言すること。公言すること。△佛語として「シヤウミヤウ」とよむ時は、梵唄(ボウ)の意。

*【生面】メイ ①新しい方面。②初対面。△「熟面」の對。

【静黙冥坐】セイモクメイザ 静かにだまりこみ、目をうつ

ぶつてすわること。深く思にふける時の所作。

【聲譽】セイゴ ほまれ。名譽。

【生靈】セイレイ ①生命。②生民。人民。

【清漣】セイレン 清らかなさざなみ。

【勢利之交】セイリノウチノカウ 權勢と利益との爲の交際。

【逍遙】セウヤウ さまよひあるくこと。

【照耀】セウヤウ てらしかゞやく。

【紹介】セウカイ なかだちとなつて或人を他の人に引合はせること。とりもち。

【宵肝】セウカン 〔宵衣盥食〕の略。天子が終日政治

に心を傾けて御精勵なさること。

□宵衣は朝早く正服をお召しになること。肝食は

夜晩く食事なさること。

【聲援】セイエン 傍から言葉をもへて勢づけること。

【媮生】セウセイ 志を屈して生存をばかること。命

をしさに生きながらへること。

【冒姓】マウセイ 他人の姓を名乗ること。

【消耗】セウコウ つひやしへらすこと。△今は誤つて

「セウモウ」と讀んでゐる。

【霄漢】セウカン 大空。天空。

【照鑑】セウカン 神佛があまりかに御覽になること。

【照會】セウクワイ 問ひ合はせること。かけあふこと。

△「紹介」と間違へないやうに注意せよ。

【消魂】セウコン ①驚き悲しんで元氣を失ふこと。②

我を忘れて物事に耽ること。○銷魂。

【笑殺】セウサイ 甚だしく笑ふこと。(この殺は助字。)

△「恨殺」の意をも考察せよ。

【焦躁】セウソウ いらだちさわぐこと。

【蕭颯】セウサク 物さびしく吹く風の聲の形容。

【笑止】セウシ ①笑ふべきこと。をかしいこと。②

他人が物笑になることを氣の毒に思ふこと。かた

【瀟洒】セウシャ あかぬげがしてさつぱりしてゐること。○蕭灑。瀟灑。

【蕭牆之憂】セウキヤウノウ 内部から起る憂。内亂。

(蕭牆は、君臣會見する所に立てる塙。)

【霄壤之差】セウジヤウノサ (天と地との差の意。) 物

事に甚だしい差のある形容。○雲泥之差。月窟之差。

【紹述】セウジュツ 前人のあとを承けついで述べること。

【峭峻】セウケン けはしいこと。

【憔悴】セウスイ やせ衰へること。やつれること。

【小成】セウセイ すこしばかりの成功、例「安小成」

【蕭々】セウソウ 物淋しいさま。○蕭然。蕭條。

【勦絶】セウゼツ つくしほろぼす。すつかりたやす。

【饒舌】ゼウゼツ おしやべり。○多辯。多言。

【消息】ソウシキ (消えることと生ずること) ①うつ

りかはり。②動靜。やうす。③おとづれ。手紙。

【昭代】セウダイ 太平の世。○聖代。

【消長】セウチャウ 盛んになることと衰へること。

【銷沈】セウシン 氣力の沈んで引立たぬこと。例「意

氣銷沈」

【蕭條】セウテウ 物さびしいさま。例「滿目蕭條」見

る物すべてがさびしい意。

【招牌】セウパウ 看板。

【椒房】セウパウ 皇后の御殿。(壁に山椒(セウ)の實

(ミ)のすりこんである室の意。山椒の實の數のや

うに御子孫の榮えまさんことを期するのである。)

【焦眉之急】セウビノキウ (まゆげが焼けるやうな危

急。) 甚だ切迫した急難。打捨て置けない急務。

【紹復】セウフク 前業をつぎ起すこと。

【召聘】セウペイ 禮を厚くしてまねきよぶこと。

【焦慮】セウリョ 思慮をなやますこと。

【刺客】セキカク 暗殺を行ふ者。

【碩學】セキガク 大學者。(碩は巨大の意。) ○碩儒。

鴻學。

【尺蠖】セキワク しやくとり虫。例「尺蠖之風 以求ムカシ信シン也。」人が一時身を屈するのは他日大いに發展する爲であるの意。

【尺縑】セキケン 備かばかりの繪絹。(縑は繪を描くための絹地。)

*【席卷】セキケン (席を片端から巻く意。) 天下を片端から征服すること。○席卷。

【斥候】セキコウ 物見の兵。みはりの兵。

【赤手】セキテ ①手に何物をも持たないこと。すて。②たのみになる部下もなく單獨であること。○空拳空手。徒手。

【積水】セキスイ あつまりたゝへた水。海。

【積翠】セキスイ かさなつた樹木のみどり。

【尺寸】セキシン 少しばかり。例「尺寸之功。」

【釋奠】セキテン 孔子を祭る禮。○舍奠。(釋も奠も舍も皆替くの意。供物を前にさげ置いて祭る意。)

【切所】セツショ 峠路などの要害の所の難所。

【接踵】セツシュウ (踵を接する意。) 人が相つゞいて往來すること。

*【折衝】セツシュウ ①敵が衝いて来るのを挫くこと。敵のほこさきをなくじくこと。②敵とかけひきをして、我が體面を全くすること。

【節制】セツセイ ほどよくきりもりすること。

【拙速】セツソク 物事をなすに下手ではあるが、速いこと。

【絶代】ダゼツ 一世に並ぶもののないこと。

【絶倒】ケツトウ 甚だしく笑ひくづれること。

*【折衷】セツチュウ 「折中」とも書く。彼と此とをとり合はせて適當のものをつくり出すこと。相反する意見の中程を取つて言説を結合・組織すること。

*【節度】セツド ①法度。さだめ。②ほどあひ。加減。③さしづ。下知。④天子が將帥に出征を命じた時、そのしるしとして賜はる太刀・旗・鈴などの類。

*【尺牘】セキダク 手紙のこと。○書牘。簡牘。書簡。尺牘。

【寂寞】セキヤク (マク) ものさびしいさま。

【浙瀝】セキレキ 雨や雪などの降る音。ばらばら。

【斥鹵之地】セキコ 鹽氣のある不毛の地。

*【世道】ダセウ この世に於て人の守るべき道。

【雪冤】セツエン 無實の罪をすくこと。(雪はすくことよむ。)

【攝行】セツカウ ①代つて事を取り行ふ。②兼ねて事をとり行ふ。

【折簡】セツカン 紙を二つ折にした短い手紙。

【折檻】セツカン 強く意見を加へること。せめこらすこと。

□漢の朱雲が殿樞を攀ちて之を折り、以て侯臣を懲らしめたといふ故事による。

*【切瑳琢磨】セツサ (玉や石などを切りみがくこと。道徳や學問などを勵んで身を修めて行く喻。)

【節旄】セツポウ 天子から使者に賜はつたしるしの旗。

【攝理】セツリ すべととのへること。

【絶倫】セツリン 同類に抜け出でること。○拔群。

【攝籙】セツロク (天子に代つて政を執る意。) 攝政の異稱。

【竊位】セツイ (位をぬすむ意。) 位にあつてその職をつくさないこと。

【絶域】セツキョク 遠く離れた地域。

*【是非之心】ゼヒシノココロ 善を善とし惡を惡とする心。善惡を辨別する本性。例「是非之心、義之端也。」

*【捷徑】セツケイ ①近道。②或事物に到達し得る簡易な方法。

*【潛伏】セツフク おそれてひれふすこと。おそれて屈服すること。○攝伏(セツフク)。

*【涉獵】セツリョウ (川をわたり、歌をあさる意。) ①あちこちとさぐり歩くこと。②普く群書に目を通す

こと。

【瞻依】イセン (仰ぎ尊んで親しみ依る意。) 父母の

こと。

【美溢】イセン あまりあふれる。

【單于】ウビン 支那の匈奴の君の稱。

【僭越】エツン 身分に過ぎた事をする事。

【先考】カウ 死亡した父。亡父。○先君。△「先

妣」の對。

【銓衡】カウ (ばかりの意) ①人の才能又は身分

等をばかりしらべること。②或事の當否を審査する

こと。

【纖芥】カイン (小さいこみ) ①小さいこと。②こ

まか。すこし。

【蘚崖】ガイン 苔のついてゐるがけ。

【僭號】ガウ ほしいまゝに帝王の名義などを自稱

すること。

【先覺】カウ 衆人より早く道を覺つた人。○先知

【遷客騷人】サウジン 罪せられて遠國に流された

者と、憂を抱いてゐる者。

【喘汗】カイン あへいで汗を流すこと。

【僉議】ギン 大勢集まつて評議すること。

【詮議】ギン ①評議して物事を明らかにすること。

②犯罪のとりしらべ。

【薦舉】キョ 人をすゝめあげること。○推舉。

【千金】キョ ①多額の金銭。非常に高價なこと。

②極めて大なる價值のあること。例「春宵一刻値千

金」。「千金之子」。

【千鈞】キョ 極めて重いことといふ語。例「千鈞

得レ船、則浮」。

【仙寰】カウ 仙人の住む土地。俗界をはなれた別

天地。○仙境。

【潺湲】カウ 水の流れるさま。又、水の流れる音

の形容。

【遷化】カウ 僧侶・隱老などの死ぬこと。

【漸進】シン 次第々々に進むこと。

【戰々兢兢】ケンケン 恐それふるへるさま。び

く／＼してゐるさま。

【踐祚】ケン 「踐阼」とも書く。天皇が皇位をおつ

ぎになること。○登極。△上古には踐祚と即位と

の區別がなかつたが、清和天皇の御時から區別が

あるやうになつた。

【選擇】ケン えらびとること。

【然諾】ケン ひきうげること。うべなふこと。○

承諾。例「重然諾」。「一度約束した事は、これを

重んじて破らないこと。

【先達】ケン 官位・學問などが自分よりも先に進

んだ人。先輩。△國語で「センダチ」とよむ時は、修

験者などの修行を積んで、峯入の先導となる者。

【蟬脱】ケン 蟬が皮をぬぐやうに、超然として世

外に脱すること。

【芟除】ケン (刈り除く意) 穢などをほろぼすこ

【先見】ケン 事に先だつて見込をたてること。

【嬋娟】ケン 女の姿のあでやかで美しいさま。○

嬋妍。

【宣言】ケン 世間に對し、表だつて告げること。

【扇殻】ケン 扇のかなめ。

【剪裁】ケン たち切ること。

【穿鑿】ケン (うがちほること) ①ほじくりさが

すこと。たづねもとめること。②みだりに臆測す

ること。

【先師】ケン 死亡した先生。

【善柔】ケン 内心にまごころなく外貌の柔和なる

こと。

【僭上】ケン 身分を越えて上の人の眞似をするこ

と。

【孱弱】ケン かよわいこと。○尪弱(ジャク)

【先蹤】ケン (古人のあしあとの意) 前人の事

蹟。

と。

【筌蹄】 ナイ (魚をとる爲のうけと兎をとる爲の

わな。) 或事をする爲につかはれる道具。

*【洗滌】 ゴキ あらひすゝぐ。

*【先哲】 テツ 古の賢者。

【剪屠】 トン ほふる。きりころす。

【仙洞】 ドセン (仙人の居所の意。) ①上皇の御所。

○仙洞御所。霞の洞。菟姑射の山。②上皇。

【煽動】 ドウ すすめおだてること。そののかすこ

と。

【潜匿】 トク ひとみかくれること。

【羨望】 セン うらやむこと。

【瞻望】 パン ①遙に望むこと。遠くを仰ぎ見るこ

と。②思ひ慕ふこと。

【阡陌】 パク 縦横の道路。(南北の通路を阡とい

ひ、東西の通路を陌といふ。)

【先妣】 ビン 死んだ母。△「先考」の對。

【餞別】 ベン 旅立つ人に贈る金銭・物品又は詩歌

など。

【全豹】 ベン 全体の模様。全体のありさま。

【著先鞭】 フツク 他人に先だつて事をする。

【闡明】 メン かくれてゐる道理を開き明らかにす

ること。

【穢滅】 マツ ほろぼしつくす。

【宣揚】 ヤウ ひろく世にあらはすこと。

【羨餘】 セン あまり。

【先容】 ヨウ (先づ之が容をかたち

裁をつくり飾る意。) 豫めその人を紹介して下地を

つくり置くこと。人をとりもつ爲に、豫め譽めす

ゝめること。

【戰慄】 リツ 「戰栗」とも書く。なののみふるへる

こと。

*【善隣】 リゼン よく隣國とよく親しみ交はること。①

【謏劣】 レツ 才が浅くて劣つてゐること。

【僭越】 エツ 身分に過ぎた事をする事。

【纖麗】 レイ しなやかでうるはしいこと。

*【先王】 ワン 古代の聖天子。

そ

【疎音】 イン 久しくたよりをしないこと。無沙汰。

【綜核】 カク 事の本末をすべて明らかにすること

○綜髮(ソウ)

【總角】 カク ①髮の結方の名稱。あげまき。②小

兒。○鼎童(ドウ)

【綜合】 ガフ 個々別々のものを集めまとめること

【湊合】 ガフ 一つによせ集めること。

【總括】 クワツ すべてをくまること。

*【聰慧】 ケイ さとくて智慧のあること。

【搜索】 サク さがしもとめること。

【宗師】 シウ 尊ぶべき師匠。

【宗祀】 シウ たふとびまつること。

【叢祠】 シウ 樹木のしげつた中にある神祠。

【宗室】 シウ ①先祖のおたまや。②一族の總本家。

○宗家。

*【宗社】 シヤ 國家。(宗廟社稷の略。)

【踪跡】 セキ あとかた。ゆくへ。

【淙々】 ソウ 水の流れるゝ音の形容。

【宗族】 ソク 一家親族。

【走卒】 ソウ 走りづかひする部下。

【忽卒】 ソウ いそがしいこと。あわただしいこと。

○忽忙。

*【曾孫】 ソウ 孫の子。ひまご。△玄孫は曾孫の子

やしやい。

【藪澤】 カク ①草の生えてゐる澤。②物の多く集

まつてゐる所。

【聰敏】 ビン さとりの早いこと。○聰悟。

【宗廟】ベツウ 祖宗の廟。先祖のおたまや。

【聰明】メイメイ 耳目のさといこと。賢明なこと。

【總攬】ソウラン すべまとめて收めとること。

【綜覽】ソウラン すべてに目を通すこと。一まとめにして見ること。

【憎惡】ソウオウ にくむこと。(惡を「テ」とよむことに注意。)

【菹醢】ソウカイ (菹は酢又は鹽につけた菜、醢は鹽づけにした肉。) 誅戮すること。○「菹醢」とも書く。例「菹醢之刑。」

【阻礙】ソウアイ さまたげること。邪魔すること。

【祖考】ソウコウ 死亡した祖父。

【阻隔】ソウカク さへ隔てること。

【側隱】ソウイン あはれみいたむこと。○「側隱之心」仁之端也。

【賊害】ソウガイ そこなふこと。

【即興】ソウキョウ ①即席の興味。②即席の口ずさみ。

○即吟。

【息災】ソクサイ 無事。無病。

【束脩】ソクシウ 入門の時の禮物。入門料。入學料。

【惻然】ソクゼン あはれみいたむさま。

【族黨】ソクドウ 一族徒黨。なかま。

【側隱之心】ソクインノシン いたみかなしむ心。

【促進】ソクジン せまること。

【族滅】ソクメツ 一族をみな滅ぼすこと。

【側目】ソクモク 目をそばめること。正視しないこと。

【素懷】ソクワイ 平素からの願。

【疎外】ソクガイ うとんすること。

【疎闊】ソククワン ①親しくしないこと。疎遠なこと。②まはり遠いこと。

【族隸】ソクレイ 臣下。一族郎黨。

【狙擊】ソクキキ ねらひうち。

【素絹】ソクケン ①白い絹。染めてない絹。②「素絹

の衣」の略。僧服の一種。

【齟齬】ソソゴ (商がそろはないこと。) 物事がくひちがふこと。豫期に反すること。

【狙公】ソソコウ 狙。

【蔬菜】ソサイ 野菜。青物。

【沮喪】ソソサウ 氣力がなくなること。例「意氣沮喪」

【塑像】ソゾゾウ 土で作つた像。

【素餐】ソソサン 祿ぬす人。○「尸位素餐」と熟す。何もせず居て食ふ意、功勞がなくて高位高官にゐること。

【鼠竄】ソソゼン 鼠が恐れて逃げかくれるやうに身をかくすこと。

【疏食】ソソシキ 粗末な食物。

【素志】ソソシ かねてからの志。○素意。

【措辭】ソソジ 詩文のことばの配置。ことばづかひ

【楚囚】ソソク 他國にとらはれた人。捕虜。

【咀嚼】ソソカク ①かみくだいて味はふこと。②よく

吟味する。十分に考へてよく了解する。

【祖述】ソソジュツ 或事に基づいて述べること。

【沮洳】ソソジュヨ (シヨ) 低くしてじめじめしてゐる土地

【疏水】ソソスイ 地を切り開いて水路を通すること。

【蘇生】ソソサイ よみがへること。いきかへること。

【踪跡】ソソソウキ ①あつさりとして趣あるさま。②いゆくへ。

【楚々】ソソソ ばら等の群がり生えてゐるさま。

【祖宗】ソソソウ ①(祖は創業有功の君、宗は守成有徳の君。) 第一世と第二世以下の先祖。△「皇祖皇

宗」について吟味せよ。

【措大】ソソダイ (大事を舉措する意。) ①秀才。②學生。例「窮措大」貧乏學生。

【祖道】ソソドウ 旅立に道祖神を祭つて道中の安全を祈ること。①旅立に宴會を催して送ること。

【措置】ソソチ 取りはからひ。

【疏通】ソソツウ とまごほりなく通すること。

【卒遷】キョフ 事にはかなのであわてること。

【率爾】ジツ 輕卒なさま。輕々しくあわただしいさま。○「卒爾」とも書く。

【率先】セン 眞先に立つこと。

【率然】ゼン ①にはかなるさま。②輕率なるさま。○率爾(ジツ)。

【率直】テツク 「卒直」とも書く。飾氣なくありのまゝなること。

【俎豆】トウ 祭禮の時に用ひる器具。俎は肉を載せて神に供へるつくり。豆はたつきに似た木製の食器、儀式祭祀などの時に食物を盛るに用ひる。

【鼠輩】ハイ 鼠のやうなともがら。つまらない者ども。

【粗放】ハウ 心又は行がわがまゝでしまりのないこと。

【素貧】ヒン もとからの貧乏。

【素封家】カホウ 長者。金満家。

□素は空しいの意。爵位・封土がなくて、富は王侯に比すべきものであるの意。

【素朴】ボク かざりけなく素直なこと。

【粗笨】ホン 粗末でつたないこと。

【殂落】ラク 帝王の死去。○崩御。崩殂。殂落。

【損友】イウ 交際して自分の修養上損になる人。△「益友」の對。

【蹲踞】クワン うづくまること。

【尊攘】ソウヤウ 「尊王攘夷」の略。

【存恤】ジュツ あはれみすくふこと。

【遜色】ソンシキ 劣るさま。

【付度】ツクタン 他人の心中を推測すること。

【存養】ヨウヤウ 本然の良心を失はぬやうにし、善性を養つてゆくこと。

【村夫子】ムラフウシ 田舎の學者。

【村閭】ムラノ 村の入口の門。○里門。

た

【朶頤】ダ ①おどがひを垂れる意。②物を食はうとするさま。③物を羨みほしがること。④強國が弱國を併呑しようとする事。

【大猷】ダイ 大きなばかりこと。○宏謨。宏猷。

【大隱】ダイ 眞の隱者。例「小隱隱ニ陵藪ニ、大隱ハ隱ニ朝市。」

【退嬰】タイ あとじさりすること。「進取」の對。

【大瀛】ダイ 大海。

【大廈】ダイ 大きな建物。例「大廈將ニ傾ニ非ニ一木所ニ支也。」

【大牙】ダイ 天子又は將軍の旗。例「曉見千兵擁ニ大牙。」

【大駕】ダイ 帝王の御乗物の敬稱。

【臺駕】ダイ 高貴の方の乗物の敬稱。

【體解】タイ 五體を切りはなして殺すこと。②

解詞。

【大行】ダイ ①大きな仕事。例「大行不レ顧ニ細謹。」②天皇が崩御あらせられてまだ御諡號を奉らない間の敬稱。大行天皇。

【退耕】タイ 官を辭して野に下りること。○歸農。

【臺閣】ダイ 天下の政治をとる最高の役所。内閣。

【帶甲】ダイ 鎧をつけること。又鎧をつけた兵士。

【大義】ダイ 君國に對して臣民のなすべき道。例「大義滅レ親。」「大義名分。」

【大義名分】ダイ 人として守るべき大切な道。大義は前出、名分は名によつて表はされた人倫上の分際。即ち君に對しては臣たる分際あり、父に對しては子たる分際あるの類。

【太極】ダイ ①易學及び支那の哲學で世界萬物の生じた根元。②天地のまだ分れない以前の狀態。

【大塊】ダイ 大地。

【胎教】ダイ 婦人が懷妊中、その精神又は品行を

正しくして、胎兒によい感化を及ぼすやうにはかること。

【體験】ケン 自分が實際にあたつて深く經驗すること。

【乃公】コウ (汝の公の意) 目下の者に對する第一人稱。おれ。わが輩。

【大造】ゾウ 大功。(造はいたる意。)

【對策】サイ 策に對ふの意。官吏登用試験の時、受験者が認めた答案の文章。策は問題を書いた札。

△日本では或事件に對するばかりこと。

【泰山北斗】トウ 人から仰ぎ尊ばれる者。泰山斗。泰山は支那山東省にある高山、北斗は北斗七星。「泰斗」を参照せよ。

【代謝】タイ 舊いものが去つて、新しいものがそれに代ること。例「新陳代謝」

【臺榭】タイ 高い建物。
□臺は土を築き上げて遠望の用に供するもの。榭

は材木を用ひて築いた物見用の高臺。

【大人】ジン 父の尊稱。◎高德の人。◎高位の人。◎他人の尊稱。△「ダイニン」とよんでおとなの意にも用ひる。

【泰西】サイ 西洋。

【堆積】セキ うづ高く積むこと。

【泰然】ゼン 物事に臨んで精神・態度の少しも變じないこと。例「泰然自若」

【駘蕩】タイ 春景色ののどかなさま。

【大轟】カウ 天子のみはた。◎節度使がたてて行く旗。

【臺鼎】ダイ 三公。◎三槐。

□三臺星と鼎の三足とに象つていふ。

【泰斗】トウ 「泰山北斗」の略。その道で、最も仰ぎ尊ばれる人。權威。オンスリタイ。

□泰山と北斗星とは、衆人の常に仰ぎ見るものである所から、人に仰ぎ尊ばれる者に譬へる。

【擡頭】トウ 頭をもちあげること。

【大旆】ハイ 天子又は將軍の旗。

【頽敗】タイ 才たれ破れること。◎頽廢。

【大方】ハウ 度量の大きい人。◎學問の博い人。見識の高い人。◎世間一般の人。

【大白】ハク 大きなさかづき。

【太白】ハク 金星の別稱。俗に「青の明星」といふ。例「太白當レ船明 似レ月」

【大夫】フイ 支那周代の官名。士の上、卿の下に位す。◎五位の通稱。◎大名の家老の異稱。△「ダイフ」「ダイフ」と讀む時は別の意味になる。

【乃父】フイ (汝の父の意) 他人の父。◎父が子に對して用ひる第一人稱。例「慎 勿下計 較禍福」

【臺聞】フイ 貴人の聞くことの敬稱。

【泰平】フイ 太平。

【太廟】ベウ 初祖のおたまや。太祖の廟。△日本

では伊勢皇太神宮をいふ。

【逮捕】トウ おつかげ捕へること。めしとること。(逮は追ふ意。)

【臺命】タイ 將軍又は三公等の命令。

【體用】タイ 事物の本體と作用。

【太牢】ラウ 支那で天子が社稷の祭に犠牲として用ひた牛・羊・豕をいふ。

【臺覽】ライ 貴人の覽ることの敬稱。

【頽齡】レイ 年をとること。おいぼれること。

【道家】カウ 黄帝・老子を祖述して無爲思想を抱いた學者の總稱。儒家と共に二大學派の一に數へられてゐる。

【當該】ガイ そのかゝり。例「當該官廳」◎そのもの。

【道學】カウ 支那宋代の程子・朱子の學派、即ち心性・理氣の學。◎道德を主として説く學問。儒學。◎道教の學問。◎心學。

【讜議】ギョウ 正しい議論。

【討究】キョウ たづねまはめること。

【當局】キョウ (碁盤に向かつて碁を囲むこと)。

その事を處置する任に當ること。①政務の重要な地位にあること。

*【刀鋸鼎鑊】タウキョウ 死刑の道具。(鼎鑊はかな)

へとなべ。煮殺すに用ひる。

【愚愚】グウ おろかなこと。愚直。

*【唐虞三代】タウグ 堯・舜の時代と夏・殷・周

の三代をいふ。

【唐虞之治】タウグ 仁徳が生まれくゆきわたつ

て、教化のよく行はれた堯舜二帝の間の治世。

【陶化】タウ 感化。教化。

*【韜晦】タウイ 才徳をつゝみくらまして人に知らせ

ないやうにすること。

*【湯鑊之罪】タウカク 釜入りの罪。

*【刀圭】ケイ (藥を盛るさじ) 醫術。△刀圭家

醫師。

【道教】ケウ 黄帝・老子の教。虚無・無爲・自然。

恬淡を道徳の主義とした。

【倒懸】ケン ①さかさまにかけること。②非常な

苦しみ。

*【套言】ダウ ①古くさい言葉。平凡な言葉。常套

語。②おきまり文句。○套語。

【讜言】ダウ 正しい言葉。

*【桃源】ダウ 俗世間を離れた別天地。仙境。(陶

淵明の桃花源記に見ゆる故事) ○武陵桃源

【韜鈴家】カウケン (弓袋と矛の柄) 兵法家。

【道士】シウ ①道教を奉ずる人。②仙人。③有道

の士。君子。

*【倒屣】ダウ (草履をさかさまにはく意) 客の來

たのを喜び、急ぎあわてて出迎へること。例「蔡

邕倒屣在門、倒屣迎之。」

ついで行ふこと。

*【瞠若】ジヤク 驚いて目を見張るさま。驚きあきれ

るさま。○瞪目。

*【陶朱猗頓】タウシュ (何れも昔の富者の名) 富者

の稱。

【道術】ジヤウ 道教で修する術。

【島嶼】シヨウ 島と小島。いろ／＼の島。

*【蕩盡】ジヤウ ①つかひはたすこと。②すたれ失せ

ること。

*【盜跖】セキ 昔の大盗賊。

【陶然】ゼン 酒に酔つて心がくつろぎ、何となく

心地よいさま。

*【陶汰】タウ 不用の部分を残し去ること。えりわ

けてよいものを後に残すこと。

【鞞鞞】タウ ①太鼓などの音。②瀑布や波の音な

どの形容。

【滔々汨々】タウタウ コツコツ 水が音をたてて盛んに流れ

るさま。

【讜直】チウ 直言して憚らないこと。(讜は正直

な言)

【蕩滌】ダウ あらひきよめること。

【唐突】トウ ①つきあたること。②だしぬけ。不

意。

*【道破】ダウ いひやぶること。あくまで言つて説

き破ること。

【獐猛】マウ (俗にキマウ) あらくたげ／＼しいこ

と。わるづよいこと。

【湯沐之邑】タウモク ①天子の御料地。②諸侯が

*【陶冶】ヤウ 人を教育して立派な性格をつくりあ

げること。

□陶は形をなほして正しい陶器をつくること。冶

*【螭螂之斧】タウラウ 自分の力をはからずして大

敵にあたることの喩。

【濤瀾】 タウ 大きな浪。

*【韜略】 タウ 兵法。「六韜三略」の略稱。

【當路】 タウ (要路に當る意。) 樞要の地位に居て

政務を取扱ふこと、又その人。

【當惑】 タウ 途方にくれること。思案がつきてこ

まること。

【朶雲】 ウン 他人の手紙の尊稱。○芳墨。

*【唾棄】 キタ (つばを吐いてする意。) 棄てて顧

みないこと。

*【謫居】 キョ 罪の爲に遠方に流されてゐること。

【磔刑】 ケイ はりつけの刑。

【卓見】 ケン すぐれた意見。

【卓子】 シタ つくゑ。△子は助辭。「扇子」「金子」

「銚子」「椅子」なども考察せよ。

【度支】 シタ 會計をつかさどる官。

【卓爾】 シタ すぐれてゐるさま。○卓然。△爾は

然・如・乎などと同じく副詞を作る助辭。「莞爾」

「蕤爾」なども考察せよ。

*【卓絶】 セツ 非常にすぐれてゐること。○卓越。

卓拔。

【謫仙】 セン 非凡な詩人。

【謫遷】 セン 遠い國に流されること。

【卓然】 ゼン 高く抜け出てゐるさま。○卓爾。

【橐駝】 タク ちくた。○植木屋。

【卓拔】 ハツ すぐれて抜け出てゐること。○卓

絶。卓越。

*【諾々】 ヤク いふがまゝに承知すること。

*【卓犖】 タク 性質が他より抜き出てすぐれてゐる

こと。「卓犖不羈」と熟す。

【析裂】 レツ さけること。

【兌換】 タワ 〔とりかへる意〕主として紙幣を貨幣

に引換へることにいふ。

*【妥協】 ケツ 雙方がおだやかに意見を合はせるこ

と。折り合ふこと。

*【打算】 サン 數へること。勘定すること。○打算

的。物事をするに、損得を考へてとりかゝる態度。

【他日】 ジツ ①前日。②後日。

【懦弱】 ジョウ ①なまけて意氣地のないこと。氣質

の弱いこと。②體力の弱いこと。

*【妥當】 タウ ①よくあてはまること。おだやかであ

ること。

*【蛇足】 ツケ (蛇には足が不用である。) 餘計なも

の喩。

【多端】 タン ①事の多いこと。②忙しいこと。

【達意】 イツ ①自分の思想を充分に述べあらはすこ

と。

*【達觀】 タツ ①先の先まで見とほすこと。○大觀。

【達見】 タツ ①道理を十分に見ぬいた考。

【達言】 タツ ①道理に通達した言。

【達人】 ジン 道理に通達した人。

*【達德】 トク 人生の古今東西を通じて尊ぶべき

徳。

【脱兎之勢】 トウ 兎が檻から逃げ出した時の

やうな急速な勢。

【奪略】 リヤク うばひかすめること。○奪掠。

*【茶毘】 チビ 「茶毗」とも書く。火葬。

【懦夫】 フダ ①臆病な男。②意氣地のない男。

【沓至】 シツ かさなり至る。頻繁に来る。

【他聞】 タン 他人の耳に入ること。

【多聞】 タン 多くの物事を聞き知つてゐること。

*【拿捕】 ナツ つかまへて自由にさせぬこと。とら

へること。

【惰眠】 ミン ①なまけて眠ること。②元氣が衰へ

て緊張味のないこと。

【他律】 タツ 他人の束縛・支配によつて行動する

こと。○「自律」の對。

【坦夷】タン たひらかなこと。

【彈劾】ガン 官吏の罪過をしらべたゞして上に告げること。

【淡交】カン あつさりとした交。

□論語に、「君子之交淡若水、小人之交甘如飴。」とあるに本づく。

【赧顔】ガン 恥ぢて顔をあかくすること。

【坦懷】タン 胸にわたかまりのないこと。心の平かなこと。例「虚心坦懷」

【彈冠】タン (冠の塵をはらふ意。) 朝廷に出仕する仕度をする事。

【彈丸黒子之地】タン (はじきだまやほくる程の狭い土地の義) 極めて狭小な土地。

【短檠】タン 燭臺の丈の低いもの。○「長檠」の對。

【端倪】タン ①始と終。かぎり。はて。②推測すること。

ること。うかがふこと。

【端嚴】タン きちんと正しくておごそかなこと。

○端莊。

【端午】タン 五月五日の節句。あやめの節句。

【探索】タン たづね求めること。

【彈指】タン (指をばじく間) 極めて短い時間。

○瞬間。

【端緒】タン いとぐち。こぐち。

【澹如】タン さつぱりとして物事に拘泥しないさ。

○瞬間。

【丹心】タン まごころ。誠意。○丹誠。

【誕辰】タン 生れた日。誕生日。

【湍水】タン 早瀬。

【丹青】タン ①赤と青。②繪の具の色。繪畫。

【談笑】タン 笑ひながら語る事。

【灘聲】タン 早瀬の音。

【旦夕】タン ①朝夕。②明けても暮れても。始終。③時機又は危急の切迫すること。○且暮。

【儻石之儲】タン わづかばかりのたくはへ。(儲は二石、石は一石。)

【短折】タン 若くして死ぬこと。○夭折。夭死。

【湛然】タン ①水をたゞへてゐるさま。②落ち著いて静かなさま。

【眈々】タン 見下すさま。ねらひ見るさま。例「虎視眈々」

【斷腸之思】タン 非常に悲しい思。(はらわたをたちきられるやうな思の義。)

【坦途】タン 平かな道路。

【誕妄】タン いつぱり。

【澹泊】タン さつぱりとしてゐること。あつさりしてゐるさま。

【談柄】タン 話の種。○話柄。

【短兵】タン 短い兵器。刀劍の類。例「短兵接

戦」互に刀劍を用ひて相近づいて戦ふこと。

【擔保】タン 抵當。しちぐさ。

【誕妄】タン うそ。いつぱり。

【貪婪】タン むさぼること。

【團欒】タン 親しい者の集合。車座。

【膽略】タン 大膽で智略のあること。

ち

【知音】チン 自分の心をよく知つてくれる友。○知己。

□支那の余伯牙といふ者が琴を上手に弾き、その友の鐘子期がよくその妙音を聞きわけたといふ故事。

【胄胤】チウ 正統の子孫。○胄裔(エイウ)

【中堅】チン ①軍隊の中央の主力の存する所。②最も大事である部分。その主力の集まつてゐる部分。

【籌策】チウサク はかりごと。○籌略。籌算。

【胄子】シウ 天子から卿・大夫に至るまでの嫡子。

【晝餉】シヤウ 晝食。ひるげ。○晝餐(チウサン)

【疇昔】セキ ①前日。②むかし。

【抽籤】セン くじびき。

【惆悵】チヤウ うらみ悲しむさま。

【躊躇】チウ ためらふこと。○踟躕(チウ)。

【綢繆】チウ まとひつゝむこと。例「綢繆ス戸ヲ」

|| まとなまとひつゝむ。

【稠密】チウ しげくこみあふこと。例「人口稠密」

*【晝夜兼行】チウヤ 晝夜を兼ねて行くこと。又は晝夜休まずに或仕事をすること。

【儔侶】リョ たぐひ。なかま。

【疇類】ルキ 同類の人。なかま。(疇は儔に通ず。)

【痴漢】カン 馬鹿者。○「癡漢」とも書く。

【知己】チ 自分の心をよく知つてゐてくれる友だち。

【稚氣】キ 子供らしい氣風。○稚氣。

【遲疑】ギ 疑つてぐづ／＼してゐること。

【池魚之殃】チキョノ ①そば杖なくいふこと。まきぞへにあふこと。②類焼すること。

【逐一】イチ 一つづつ順々に。

*【知遇】グ 人に知られて重く用ひられること。

【値遇】グ 出あふこと。

【逐次】ジ 順々に。次第をおうて。

*【忸怩】ヂ はづかしさうな様子。ままりのわるいやうな様子。

*【逐電】テン (奔電を逐ふ意。)住所を去つて跡をくらまし逃げること。○出奔。逃亡。

*【竹帛】ハク 書物。青史。

□昔、支那では竹のふだ又は布帛に物事を書き記した。

【舳舻】ロク 船尾と船首。△日本では舳を船首の

意に用ひ、舻を船尾の意に用ひてゐる。

*【逐鹿場裏】ジヤウリ 英雄が互に相争うて天下を

取らうとする場所。△「中原之鹿」を参照せよ。

【弛緩】チワン ゆるめる。ゆるむ。

*【竹園】エチ 皇族。△國語では、「竹の園生そのふ」といふ。

【笞刑】ケイ 鞭で體をたたく刑。

【知言】ヂン 道理に明かなことば。

*【致仕】シ 仕官をやめること。辭職。

【置酒高會】チシユ 盛に酒宴を開くこと。

【褫奪】チツ 官位・勳章などをとりあげられること。

と。

【踟躕】チウ ①ためらひしりこみすること。②徘徊すること。

徘徊すること。

【蟄居】キョ とちこもつてゐること。△我が國では、徳川時代に武士に課せられた刑。即ち自家の一室に押込めて外出を禁じたこと。

【昵懇】コツ 親しむこと。心安いこと。○入魂(ジュツ)

【秩祿】ロク 俸祿。ふち。

*【馳騁】チ 馬をかけたせること。

*【雉兔芻蕘】スウゼツ 獵師や木こり。下賤の民。□雉兔はきじやうさぎを捕る者、即ち獵師。芻蕘は草かりや木こり。

【遲暮】ボ 年のよること。

*【緻密】ミツ ①きめのこまかいこと。②細工のこまかいこと。③こまかい處まで行きとゞくこと。

ぬげめのないこと。

【魑魅罔兩】チミヤウ 魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

ぬげめのないこと。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

魑魅は山中の怪物。罔兩は水中の怪物。「魑魅」とも書く。

【致命】^{チイ} 命を君に差出すこと。○その爲に命を失ふこと。○致死。

【知命之年】^{チトシ} 五十歳の事。○論語に「五十而知天命」とあるに基づく。

【漲溢】^{イフク} みなぎりあふれる事。

【長揖】^{イフク} 人に對する敬禮の一。手を胸の邊にあてて上から下へ出来るだけ撫でさげること。

【長驅】^{チヤウ} 遠く疾驅すること。

【悵恨】^{コシヤウ} いたみうらむ事。

【醸造】^{チヤウ} 酒などをかもし造ること。

【長袖】^{チヤウ} ①丈の長いそで。②公卿。例「長袖者何知兵。」

【長者】^{チヤウ} ①年長者。②徳の高い人。△日本語としては「チヤウツヤ」とよんで富豪の意。

【長逝】^{セイ} ①遠くへ行つて歸らぬ意。②死ぬこと。

【長嘯】^{セウ} ①口をつぼめて長い調子の聲を出す

こと。○詩歌を吟ずること。例「獨坐幽篁裏、彈琴復長嘯。」

【悵恨】^{チヤウ} うらみかなしむさま。○悵然。

【打擲】^{チヤウ} うちたたくこと。

【長汀極浦】^{チヤウテイ} 遠く續いた海濱を形容していつたもの。○「長汀曲浦」とも書く。

【張本】^{チヤウ} ①事件のもと。おこり。②悪事の企

をしまじめた者。

【著想】^{チヤク} 思ひつき。考へつき。○落想。

【嫡子】^{チヤク} あとつぎ。○嗣子。

【嫡流】^{チヤク} 本家のいへすぢ。

【柱楹】^{チユウ} はしら。

【中葉】^{チュウ} なかごろ。中世。

【誅求】^{チュウ} せめ求めること。

【中浣】^{チュウ} 各月の十一日から二十日までの稱。中の十日間。○中旬。中浣。

【中堅】^{ケン} ①左右又は前後の中間にある軍隊、即ち大將のゐる本隊。②中心となる確乎たるもの。

【中興】^{チュウ} ①一旦衰へたものが再び盛に興る運に中ること。一旦衰へものを再び興すこと。

【中原之鹿】^{チュウ} ①天子の位。②天下。例「中原還逐鹿」○國の中央部では、また天下の奪

ひあひなしてゐる。

【中國】^{チュウ} ①世界の中央にある文明國の意。支那人が自分の國を稱する語。○中華。

【駐劄】^{チュウ} とどまつてゐること。○駐在。

【中秋】^{チュウ} 陰曆八月十五日。△「仲秋」と混同しないやうに。

【仲秋】^{チュウ} 陰曆八月のこと。

【忠恕】^{チュウ} 自らまごころをつくし、人に對して思ひやりのあること。

【忠信】^{チュウ} 忠義と信實。まごころを盡していつはらないこと。

【衷心】^{チュウ} まごころ。本心。

【中樞】^{チュウ} 中心。主要な點。

【柱石】^{チュウ} ①柱といしする。②國家の重任を負つて支持する臣。

【偷盜】^{チュウ} 盗むこと。

【重鎮】^{チュウ} 重いおさへ。一方のかしら。

【忠貞】^{チュウ} まめやかで正しいこと。

【冲天】^{チュウ} 高く天にのぼること。

【駐屯】^{チュウ} 軍隊が或處に陣營を構へてとどまつてゐること。

【駐驛】^{チュウ} ①先拂ひをとどめる意。②天子が行幸中、一時御駕をおとどめになること。○駐輦(チュウ)

【仲父】^{チュウ} 中のなち。△伯・仲・叔・季の順序を忘れぬやうに。

【中庸】^{チュウ} 過不足なく、中正を得てゐること。例「中庸者徳之至者也。」

【忠信】^{チュウ} 忠義と信實。まごころを盡していつはらないこと。

【誅戮】リキウ 罪ある者を殺すこと。

【柱梁】リヤウ (はしらとつばり) 頼みとなる者。

【黜陟】チキョク 官位をあげることをさげること。功ある者をのぼせ、功無き者を退けること。

【忱惕】チキツ おそれあやぶむこと。例「忱惕惻隱之心」

【寵幸】チヨウ 主君から愛せられること。

【重五】チヨウ 五月五日の節句。○端午。

【冢宰】サイ 百官の長。

【重三】チヨウ 三月三日の節句。○上巳。

【徵士】シヨウ 學徳が高く、官から召されても、出仕しない人。△明治の初年に諸藩から朝廷に召し出された人。

【寵兒】チヨウ ①特に愛する兒。②世上にもてはやされる人。例「運命の寵兒」「俗界の寵兒」

【寵辱】チヨウ ①愛せられる事と、はづかしめられる事。②世に時めく事と、恥の多い事。○榮辱。

【重祚】チヨウ 一度位を下りられた天子が再び位に即かれること。

【徵逐】チキョク 招いたり招かりして互に往來すること。

【澄澈】チヨウ 水の清くすむこと。

【寵嬖】チヨウ お氣に入りの人。

【重陽】チヨウ (陽の數即ち九が重なる意) 九月九日の節句。○重九。

【懲膺】チヨウ うちこらすこと。

【直言骨鯁之臣】チヨクカウノシン 君の面前を憚らず、思ふまゝを言つて諫める臣。(鯁は魚の骨、喉につかへる所から、直言の耳にさばる喩として用ひる。)

【直截】チキョク 直ちに判断を下すこと。

【勅諭】チキョク 天子のおことば。みことのり。

【陟罰】シキョク 功ある者をのぼせ、罪ある者を罰すること。

【儲貳】ジキョ 皇太子。天子のよつぎ。○儲君。皇儲。儲位。

【猪突】トキョ 猪のやうに前後も考へず一方につき進むこと。向ふ見ず。

【楮幣】チキョ 紙幣。

【楮墨】チキョ 紙と墨。

【除夜】ヤチヨ 大みそかの夜。

【佇立】リチヨ たちどまること。たゝすむこと。

【持論】ロチン 平生持つてゐる意見。○持説。

【地維】チキ 大地を支へてゐると考へられてゐる想像上の綱。例「天柱地維」

【沈吟】ギン ①幾度も口ずさむこと。②深く考へこむこと。

【塵寰】チン ちりの世界。人間の住むところ。○人寰。

【鳩殺】カウ 毒殺。(鳩は毒を有する鳥、この羽毛を酒に浸して飲めば死ぬといふ。)

【珍羞】シケン 珍しい御馳走。

【珍什】ジケン 珍しい道具。

【枕藉】シヤ 互に枕しよりかゝること。

【陳蹟】セケン 古いあと。○古蹟。陳迹。

【陳套】チン 古くさいこと。○陳腐。

【沈沈】チン ①鐘の音の形容。例「暮鐘沈沈。」②夜の更けゆくさま。例「敬輿院落夜沈沈。」

【鳩毒】トク 鳩といふ鳥の毒。酒に加へて人を殺すに用ひられた。

【闖入】ニフ だしぬけに入りこむこと。あばれこむこと。

【沈酒】メン 飲酒に耽りすさむこと。

【沈淪】リン ①深く沈むこと。②おちぶれること。

【通家】カウ 昔から交際してゐる家。父祖の代か

ら親しく交はる家。

【通好】カウ(ヨシマ) 交をむすぶこと。好意をおく
ること。

【通義】キツ 一般に通じる道理。

【通曉】ダウ 宵から曉まで。○徹夜。○くはし
く知りざとること。

【通察】ツツ 全体を明らかに察すること。

【通事】ジツ 通譯。通辯。○中間に立つて取次
ぐこと。

【通儒】ジユ 博學多聞で、よく事理に通じた學
者。

*【通患】ツワン 何人にも共通のうれへ。○全般に
わたる弊害。○通弊。

【通稱】シヨウ 普通にならるる名。俗稱。○一般
に通用する名稱。

【通塞】ツク 仕合のよいこととわるいこと。

【通達】ダツ ①ゆきとどくこと。②その道によく

熟達してゐること。

【通牒】ツツ 書面で通知すること。又或事を通知
する書面。

【通判】ハン ①すべての事を判定すること。②支
那宋代の地方官。朝官が出でて一州の政事を管督
したものの。

*【痛痒】ヤウ (痛さとかゆさ) 物事の爲にうける
影響。例「不レ感三痛痒」||何等の刺戟をも影響をも
感じない。

*【杜撰】ザン 著作物や議論などに誤の多いこと。

□杜撰といふ人の詩が多く律に合はなかつた事が
ら出た語。

【杜漏】ロウ ヤリつげなしであること。しめく、
りの無いこと。

【追詮】シキ おくりな。

【追頌】シキ 人の死後、その善行などをほめあら
はすこと。

*【追従】シヨウ おもれりへつらふこと。○阿媚。

【追縦】シヨウ 逃げるのを追ひかけること。○追
跡。追躡(セツ)

【追随】ズキ ①あとから追ひしたがってゆくこ
と。②模倣すること。

【追逐】ツキ ①あとからおふこと。②競争するこ
と。③連れだつてゆくこと。

【追録】ロク あとから書き加へること。

て

*【提孩】ガイ (提は手でひつさげる、孩は初めて
笑ふ年頃) 幼い子ども。

*【提衡】カウ (衡は平の意) 兩兩相共に等しいこ
と。例「貴賤不三相論、賢智提衡而立、治之至也」

【帝郷】キヤウ ①天帝の都。仙郷。②天子の郷里。

*【低徊】クワイ 頭をたれて行きつもとどりつすること
△文字は「低回」「低徊」などとも書く。例「低

徊不レ能レ去」

【鼎鏊】クワ 脚のあるかなへと、脚のないかな
へ。

*【庭訓】クニ (キニ) 家庭におけるをしへ。

*【提攜】ケイ 手を引いて互にたすけあふこと。
①手に物をささげ持つこと。

*【提挈】ケツ 互に助けあふこと。

*【締結】ケツ ①むすぶ。②しめくゝる。

【遞減】ゲン 或割合で次第に減じて行くこと。

*【亭午】テイ (日が午に時に至る意) 正午。まひ
る。

*【抵牾】ゴイ 互に相容れないこと。

【偵察】サツ ひそかに敵の様子をさぐりうかゞふ
こと。

*【底止】シイ いたりどまる。

*【諦視】シイ あきらかにみること。○諦觀。

【廷叱】シツ 朝廷に於て群臣列坐の前でしかりつけること。

【亭榭】シヤ あづまや。

【提唱】シヤウ 意義を説き開かすこと。

【貞淑】シユク 操が正しく心が善良であること。

【汀渚】シヨ みぎは。

【抵觸】シヨク ふれる。さしさばる。

【詆辱】ジヨク そしりはずかしめること。

【挺身】シン 身をぬき出して先に進むこと。

【鄭聲】セイ (鄭國の聲の意) 淫猥野卑な俗曲。

○淫聲。△「雅樂」の對。

【定省】セイ (定は父母の祗席を定めること、省は父母の安否を省みること) 父母によくつかへること。例「定省温清」(テイセイ)

【遞送】サイ 次から次へと送ること。

【提撕】セイ 後輩を教へ導く。

【泥塑人】ジイン 土人形。でく。○土偶。

【爲體】タイ ありさま。なりゆき。(體爲りの名詞化したもの。)

【諦聽】テイ つまびらかにきく。

【鄭重】テイ 丁寧なこと。手あついこと。

【釘飯】テイ 徒らに食糧をつられること。徒らに文詞を排列して無味な文章をつくること。

【享享】テイ 木などの真直にのびてあるさま。

【偵諜】テイ ものみ。斥候。

【停頓】テイ とどまる。とどこほる。

【泥濘】テイ ぬかるみ。

【薙髮】ハツ 頭髮をそること。佛門に入ること。○剃髮。落飾。

【貞婦】テイ 操の正しい女。例「忠臣不仕二君」(テイフ)

【遞夫】テイ 驛傳の役卒。例「以軍卒爲遞夫」(テイフ)

夫。」

【睥睨】ハイ (ハイ) 横目で見ること。

【鼎立】テイ かなへの足のやうに英雄又は國家が三つならび立つこと。

【庭燎】レイ 庭でたくがぶり火。

【鼎位】テイ 宰相の位。

【扛鼎】コウテイ 重い鼎をあげる程力量のあること。○文章に長じてゐることの形容。

【定鼎】テイテイ 都を定めること。

○周の成王が九鼎を郊野の地に置いて王都と定めたことに基づく。

【朝家】カウ 帝室。王室。

【嘲諷】カウ おどけ。冗談。

【朝勤】カウ 諸侯又は屬國の主などが、君主に拜謁に来ること。△日本では古、正月二日に天皇が上皇又は皇太后の宮に行幸あつて、賀をお述べなされたこと。

【岩嶠】ゲウ 山の高いさま。例「巖嶠之危阻」(イワン)

登岩嶠之高岑。」

【肇造】チウ はじめてつくること。○創造。

【朝章】シヤウ 朝廷のおきて。

【碧齒】シキ 七八歳の子ども。(碧は小兒の髪の後方に垂れたもの、齒は初生の歯がぬけて新しい歯の生ずる頃の年齢。)

【凋悴】テイ やせ衰へること。

【超世】テイ 一世に超越してゐること。

【鳥跡】セキ 文字のこと。(文字は鳥の足あとを見えて作ったものだといふ。)

【超絶】テイ こえずぐれてゐること。○超邁。

【朝宗】ソウ 諸侯が天子に拜謁すること。○河水が海に集まり流れ込むこと。

【彫琢】テウ 玉をきざみみがくこと。

【超脱】テウ 世間の拘束を受けず、とびはなれて

高潔に保つこと。

【調停】テイテイ 仲なほりをする事。仲なほりをさせること。

【迢迢】テウテウ ①はるかなるさま。②高いさま。例「迢迢牽牛星。」

【嫋嫋】テウテウ 音響の長くひびくさま。例「餘音嫋嫋」
トシナルコトエシ 嫋嫋不絶如練。

【調度】テイテイ 手まはりの道具。

【朝暾】チウテン 朝日。例「丹霞捧朝暾。」

【掉尾】テウビ (ビ) (尾をふる意) 最後の活動の勢のよいこと。

【調伏】テイテイ 佛に祈つて、敵を降伏させること。

【超邁】チウマイ こえずぐれてゐること。

【兆民】チウミン 人民。萬民。

【朝野】チウヤ ①朝廷と民間。②世間。

【跳躍】テウヤク 跳びはれること。

【凋落】テウラク ①しばみ枯れること。②落ちぶれること。

【跳梁】テウリヤウ ①などりあがりねまはること。②謀叛人や悪人などがわがま、勝手に勢力を振ふこと。

【兆域】チウイキ 墓場。墓地。

【超越】テウエツ ①こえずぐれてゐること。②世俗をかげはなれてゐること。

【敵愾心】テウキガイ ①君主のうらみ怒る所の者に手むかひあたる心。②公敵に當り報いようとする心。③敵と戦はうとするいきこみ。

【適歸】テウキ ゆいて歸すること。赴き従ふこと。

【剔抉】テツケツ ほじくり出すこと。

例「爬羅剔抉」(ハラクテツ) 隠れたものをほじくり出すこと。

【倜儻】テウキウ 衆人にかけて離れて志の大きいこと。
○倜儻(テウキウ)。

【摘發】テツハツ あばくこと。ほり出すこと。

【觀面】カンメン まのあたり。目の前に。例「天開觀面。」

【撤去】テツキョ 取り去る。○撤却(テツキョク)

【撤回】テツクワイ とりさげること。又はとり返すこと。

【鐵窓】テツサウ (鐵格子の窓の意) 牢屋。獄屋。

【哲人】テツジン 明智の人。道理に通じた人。

【跌宕】テツタク 物事にかまぼらす勝手に振舞ふこと。

【鐵搭】テツタフ 鐵でつくつた熊手。物をかきよせるに用ひるもの。

【徹底】テツテイ (底までとほる意) 残るくまなく行きとどくこと。物ごとをあくまでやりとほすこと。

【牒人】テツジン ひそかに事情をさぐりしらべる者。まはし者。○間諜者。

【牒知】テツチ ひそかに事情を探り知ること。

【束手】テツカヌ (手を拱く意) 傍觀して何事もなし得ないこと。又、抵抗し得ないこと。

【喋々】テツツ 言葉多くしやべるさま。

【諜報】テツハフ 手紙で通知すること。

【天佑】テツエン 天のたすけ。

【恬逸】テツイツ やすらかにしてたのしむこと。

【轉嫁】テツカ 自分の過失を人におぼせること。例「責任轉嫁。」

【天河】テツカン あまのがは。○銀河。銀漢。天漢。

【典雅】テツガン 正しく品のよいこと。

【天涯地角】テツカンガイ (天のはて地の隅の意) 非常に遠いところ。

【天鑑】テツカン 天のかげみ。天が見ること。

【天漢】テツカン あまのがは。○「天河」を参照せよ。

【恬嬉】テツキ 心やすらかに楽しむこと。

【天機】キナン

●天の秘密。●天子の御機密。

【典據】キヨ

取つてのりとするべきよりどころ。

【天啓】ケイ

神が人間に靈感を與へること。天帝のお示し。

【典型】ケイ

のり。手本。

【天業】ケイ

帝王の事業。

【天譴】ケイ

天のとがめ。天罰。

【點檢】ケン

一つ一つあらためしらべること。

【典故】ケン

定まつた儀式と古い事實。

【添削】セン

詩文をなほすこと。○添寫(ゼン)

【天資】セン

うまれつき。○天性。

【典章】セン

のり。規則。

【天爵】セン

天から授けられた爵、即ち自然にその身に備はつてゐる徳。△人爵の對。

【天錫】セン

天からのたまもの。○天授。

【天授】セン

●天から授けられたもの。例「陛下、

所謂天授。非人力也。」●うまれつき。天稟。

【天職】セン ●天子の職。(民を治めるのは、天命に由る。君主の専らにすべきものでない。)●天から命ぜられたつとめ。

【天縱】セン (天からゆるされた徳を有する意。天性。

【天心】セン 大空のまんなか。

【點心】セン 間食。おやつ。

【典籍】セン 書物。本。

【恬然】セン 心に感じないさま。例「恬然不恥。」

【填然】セン 鼓の音の盛んなるさま。例「填然鼓之、兵刃既接。」

【傳奏】セン ●取次いで奏聞すること。●昔宮中で武家からの奏聞を傳達した職。

【恬澹】セン (儼然安靜の意。)心の静かにしてやすらかなさま。例「恬澹無欲、志不_レ在於仕。」

【恬淡】タン

安靜にして淡泊なること。例「恬淡

虚無」

世間のうるさい事を捨てて、心を無我の境に置くこと。老子の學說。○恬澹。恬憺。

【田疇】テン

田はた。

【天聽】テン

天子のお聴きになること。●報聞。

【天誅】テン

●天が罰を下して殺すこと。●天命を奉じて無道の者を殺すこと。

【點綴】テン

●點を打つたやうにぼつり／＼とつづいてゐること。●程よく取合はせて飾ること。

【輾轉】テン

れ／＼がること。例「輾轉反側」

●思ひなやんで幾度もれがへりすること。

【奠都】テン

都をその地に定められること。

【纏頭】テン

歌舞などをなす者に褒美として與へる品物。祝儀、かづげもの。

【傳統】テン

●系統をうけ傳へること。●傳來の風習・道徳・信仰などないふ。

【傳播】テン

●それからそれへと傳はり布くこと。

【顛沛】テン つまづきたふれること。例「造次顛沛」

(ザウジ) ●あわただしい場合と、つまづきたふれるやうな場合。どんな場合にでも。

【典範】テン のり。のつとるべき手本。

【天稟】テン (天よりうけたものの意。)うまれつき。○天性。天賦。

【顛覆】テン ひつくりかへること。△覆はクツガ

ヘルといふ意味の時には音フクで、オホフといふ

意の時には音フであることに注意。

【天分】テン ●天からうけた性質。●天から定められた分限。

【天兵】テン 官軍。例「天兵四臨」(ニノノム) ●官

軍が四方から攻めて來ること。

【天步】テン 自然のめぐりあはせ。天運。例「天

步艱難」●天運が未だめぐり來らずして、時勢の

艱難なこと。

【展墓】テン 墓まゐり。

【顛末】マツ 事柄の始から終まで。

【天命】メイン ①めぐりあはせ。②天から受けた大命。

【殄滅】マツ ほろぼしつくすこと。○剿滅(マツ)。殄(セン)。殄戮(リク)。

【纏綿】マツ まとひついてはなれないさま。例「情緒纏綿。」

【詔諛】ユナン へつらふこと。○阿諛(ユ)。

【天籁】ライ ①天上に發する自然の聲。風の音。「地籁」に對す。②自然に發する聲。風の音。波の音などの總稱。「人籁」に對す。③詩文などが巧妙で、自然の節奏によくかなつてゐること。

【天倫】リン (天の倫次、即ち兄は先にして弟は後なる意)兄弟のこと。例「天倫樂事」兄弟が仲よくすること。

【弩】ド 機械の作用で矢又は石を發射する武器

と

いしゆみ。①おほゆみ。

【儉安】アツ 一時の安きをぬすむこと。姑息の安を願ふこと。

【東夷】イト ①東方の蠻族。②京都の者が關東武士をいやしめて呼ぶ語。△西戎・南蠻・北狄をも同時に記憶して置くがよい。

【登遐】カウ (はるかなる所に登る意)天子のおかくれになること。○崩御。升遐。

【童孩】ガイ 幼童。(孩は小兒が初めて笑ふ頃)○孩童。卵童(ドウワン)。

【恫喝】カウ おどかして恐れさせること。○恐喝。

【等閑】カン 意を用ひないこと。なほざり。

【騰貴】キウ 物價の高くなること。

【登極】キョク 天子が位につかれること。

【春宮】グウ 皇太子の御殿。例「周穆王九年、築春宮。」皇太子。○東宮。△五行説では、春は東に當るから春をもトウと讀む。

【登科】カウ 科擧即ち官吏登用試験に應じて之に及第すること。

【童卵】ドウワン ①子供の髪の方の一つ。あげまき。②幼童。

【慟哭】コウ 聲をあげて悲しみなくこと。

【東作】トウサク (春の耕作の意)農事につとめること。○農作。

【洞察】トウサツ みぬくこと。よく察知すること。

【動止】ドウジ ふるまひ。舉動。

【謄寫】トウシヤ かきうつすこと。例「謄寫版。」

【統帥】トウスイ すべひきあること。○統率。

【儉生】ケンセイ ①死すべき時に死なず、徒に生きながらへてゐること。②眞面目な働をしもせず生きながらへてゐること。

【登仙】トウセン 仙人となつて天にのぼること。

【東漸】トウゼン 東方に漸進すること。

【凍餒】トウノウ こぼえうぶること。衣食の缺乏する

こと。

【磴道】ダウ ①石段。②石だたみの道。

【偷盜】トウダウ ①ぬすむこと。②ぬすびと。

【東道主】トウダウシユ 主人となつて來客の世話をする者。(東は主人の位)。

【撞着】トウチャク あとさきの合はないこと。○矛盾。

【透徹】トウテツ ①すきとほること。②或物事をくまなくのみこんでゐること。③心の明かに見えること。

【同胞】トウポウ 兄弟。ばらから。

【同袍】トウポウ 朋友(一つの袍を着て互に救ひ合ふ意)。

【儉薄】ケンハク 人情の薄いこと。

【東風】トウフウ ①東方から吹く風。②春風。例「東風飈。」△南風が夏の風、西風が秋の風であることをも併せ記憶し置くこと。

【膳本】ホン 原本をうつしたもの。

【童蒙】モウ 幼くて知識の少ない者。こども。

【頭目】モク かしら。親方。

*【登庸】ヨウ 人才を引きあげ用ひること。

【逗留】リウ ①一所にとゞまること。②旅先に永くゐること。滞在。

【棟梁】リヤウ (棟木とうつばり。主要なるもの意。①一國又は一家の重任にあたる人。②大工の親方。

【登龍門】トクリヨウ ①人が榮達すること。②名士に謁すること。

□支那黄河の上流に龍門といふ急流がある。鯉がこゝを上ると龍となるといふ。

【等倫】リウ なかま。同類。

【登臨】リン 高い處に登つて見下すこと。

【同僚】リウ 同じ役所につとめてゐる者。同役の友。

*【土芥視】シカイ 土やあくたと同じやうに見下げる

こと。

【菟裘】キウ 隱棲の地。官を辭して居住する所。

【斗牛】キウ 北斗星と牽牛星。

【屠者】シヤ 獸類を殺すことを業とする者。○屠兒。

【蠹魚】キョ ①書物や衣類などを食ふ小さい蟲。しみ。○紙魚。銀魚。②本ばかり讀んで、それを活用させない者を嘲つていふ語。

【慝惡】アク 隠れた惡事。

【土偶】グウ 土人形。でく。△木偶は木製の人形。

【德器】キク ①身にそなはる器量。②道德を行ふ性能。

【德業】ゲク 徳をたてる事業。善に進む所業。

【得喪】サウ 得ることと失ふこと。例「利益得喪。〽〽得失。

【督勵】リク とりしまりはげますこと。

【度外視】シゴク 眼中に置かないこと。かまはずに置くこと。

【篤行】カク 篤實な行爲。てあついおこなひ。

【獨眼龍】ゴク 片目の英雄。

【得策】タク 自分に利益になるばかりごと。○上計。

【潰職】シツ 官公吏があるまじき行をして職務をけがすこと。

【杜鵑】ケン ほととぎす。○杜宇。蜀魂。子規。

【駑才】サイ 才能のにぶいこと。鈍才。(駑はわるい馬。○駑材。

*【斗筭】トウ (一斗樹と二升入りの竹器。)人の器量の小さいこと。物の数にも入りぬつまらぬ人間。

【屠戮】リツ ほふりころすこと。○屠殺。

【徒爾】ジ いたづら。むだ。

【斗出】シュツ 土地などの突き出てゐること。

【斗食】シヨク (日に一斗二升を貰つてゐる者。)下賤の役人。△一斗は我が國の約一升。

【徒食】シヨク ひ。かせがすにゐて暮らすこと。ぬぐひ。

【杜絶】ゼツ ①ふさがりたえること。②ふさがたつこと。

【徒涉】セツ 水を徒歩でわたること。

【蠹賊】シツ 物をそこなひ害すること。物をそこなひ害する者。

【駑駘】タイ ①にぶい馬。②才のにぶい者。○鈍物。

【徒黨】タク 事を共にしようとする團結。

*【塗炭】タン (どろとすみ。)水火の苦しみ。非常な困苦。

【吶喊】ナツ 敵をおどす爲のかけこみ。ときのこと。

【突兀】トツ 高く峻しく聳えること。

【訥言】ダツ 物を言ふことの鈍いこと。よくしゃべれないこと。

【咄嗟】ダツ ①舌うちすること。②ちよつとのひま。例「咄嗟之間。」

【突如】トツ だしぬけなるさま。不意であること。

【呐辯】ネン 拙くてにぶい辯舌。

【塗轍】トツ すぢみち。みち。①くどくしく物いふさま。②かし

【呶々】トツ ましいさま。

【茶毒】トク 物事を害すること。

【蠹毒】トク ①木を食ふ蟲のなす害。②害毒。

【駑鈍】ドン 駑馬のやうに愚かでにぶいこと。○愚鈍。

【圖南】ナン 大事業を企てること。

□莊子に、鵬といふ大きな鳥が南方に飛翔する、とが述べてあるのに基く。

【斗南】ナン (北斗星の南の意。)例「斗南一人」天下第一の賢才。

【歸土】キニ 人の死ぬこと。

【駑馬】バ 役に立たぬにぶい馬。

【屠腹】フク 切腹。

【徒兵】ヘイ 歩兵。

【瘡痍】ホ つかれること。①ぬりつける。②ぬりけす。○抹殺。

【肚裏】リ 心の中。

【孳戮】リク 妻子をあはせて誅戮されること。①ぬりつける。②ぬりけす。○抹殺。又は事業を経営し得る品性。

【堵列】レツ かきのやうに連なり並ぶこと。自分の意見をのべあらはすこと。

【吐露】ト

【遜逸】イッ 世の中をのがれかくれること。○隱遁。

【敦厚】カウ 人情のあついこと。

【頓挫】ザン 急に勢の挫けること。

【遜竄】ザン にげかくれること。

【遁辭】ジシ いひぬげの言葉。

【遁世】セン ①世をのがれかくれること。②出家すること。佛門に入ること。遁世(センシ)。

【吞臚】ゼン ①かみくらふこと。②私慾を逞しくして他の領土を奪ふこと。

【貪慾】ゴウ 限なくむさぼりのぞむこと。強欲。

【敦樸】ボク 〇「貪欲」ともかく。偽飾がなくすなほであること。人情があつて飾がない。○敦朴(ボク)

な

【内謁】ナイ ひそかにその人の家へ行つて面會す

ること。内々の謁見。【内應】ナイ ひそかに敵に通すること。うらぎり。○内通。

【内訌】コウ うちほもめ。

【乃公】コウ 自尊していふ語。おれ。

【内濟】サイ おもてむきにせず、内々ですますこと。

【内省】セイ ①自分の心にかへりみ思ふこと。②君王の財貨の倉庫。③天子のお手元金。

【内府】フ 内大臣。△左府・右府をも考察せよ。

【惱殺】サウ なやますこと。(殺は語勢を強める助辭。)

【曩昔】ナウ 昔。以前。

【曩祖】ソウ 先祖。

【捺印】ナツ 印形をおすこと。○押捺(ナツ)

【納得】トツ のみこむこと。得心。承知。

【賣名】ウツナ (バイ) 名が世間に聞えるやうにする。○「沽名」とも書く。

【難詰】ナン 缺點をあげて非難しなせること。

【難關】ナン 通過することの困難な所。

【難色】ナン むづかしいとする顔色。いやだと思つてゐるやうな様子。

【喃喃】ナン べちや／＼しやべるさま。

【南冥】ナン 南海。

【南風】ナン ①南から吹く風。②夏の風。薰風。

【南面】ナン 君主の位につくこと。君主となつて國を治めること。

□支那で、王者は南面して坐し、臣は北面して坐した所からいふ。

【日新】シン 毎日舊い悪習を去つて、自ら新にすること。

【日昃】ソツ 正午を過ぎて太陽が西に傾くこと。

【二程】ニ 宋代の程明道と程伊川。

【乳臭】ニウ 年が若くて経験に乏しい者を嘲つていふ語。青二才。○黃吻。

【任侠】ニヤ 弱い者をたすけて強い者をなくじく氣性に富むこと。なとこぎ。なとこだて。

【刃傷】ニヤ 刃物で人を傷つけること。

【忍從】ニユ ちつと我慢して境遇のままに服従すること。

【忍辱】ニユ ぼつかしめを忍ぶこと。(佛語として「ニンニク」と讀む。ぼつかしめを忍んで、少しも人を怨まないこと。)

【認諾】ダク よしと見て承知すること。

【人非人】ヒニン 不義非道の人。

に

【柔和】ワウ すなほなこと。○温順。

*【肉袒】ニク 上衣をぬぎ、肩を出して打たれる覺悟を示す意。謝罪の意を表はす作法。

*【肉薄】ニク 飛道具などを用ひず、敵にまぢかくせまること。

【二豎】ニジュ 病氣。

□晉の景公が病氣にかつた時、投神が二人の豎子となつてあらはれたといふ故事。

*【二心】ニシン ふたごころ。そむく心。

*【二千石】ニセン 支那漢代に於ける郡の太守。(日本では府縣知事をいふ。)

【日昃】ニツ 日かげ。光陰。

【日子】ニツ 日數。

【日者】ニツ 吉凶をうらなふ人。易者。○先日。

【日者】ニツ

【日者】ニツ

【日者】ニツ

ね

【佞幸】ネイ へつらひこびて君主の寵を得てゐる者。

【佞姦】ネイ 心がまがつてよくへつらふこと。心のねちけてゐること。○佞奸。奸佞。

*【寧馨兒】ネイ こんなよい子。轉じて人の子を譽める詞。(寧馨は宋頃の俗語でコンナの意。)

*【寧日】ネイ 安らかな日。事の無い日。

*【佞臣】ネイ 心のねちけて巧みにへつらふ臣下。

*【佞人】ネイ 心がねちけて巧みにへつらふ者。○佞者。

【寧謚】ネイ やすらかなこと。太平無事。

【饒舌】ネウ 多辯なること。よくしやべること。

【捏造】ネツ 無根の事實を構成すること。

*【熱鬧】ネツ あつくるしくかまびすしいこと。都

會に於て往來のほげしくさわがしいこと。

【捏報】バツ・バツ 無根の事實を、實際あつたやうにこしらへて報告すること。

【熱中】チユウ 或事に専ら心をそぐこと。夢中になること。

【涅槃】ヘン (梵語Nirvanaの音譯。不生不死の意。肉身を消滅せしめて、永遠の生命を得ること。専ら釋迦の死をいふ。

【燃犀】サイ (犀角をもやして、水中を照らし、色々の怪物の形をあらはしたといふ故事。)人の偽又は隱事をくじり出すこと。例「燃犀之眼。」

【年齒】ネン よほひ。年齢。

【捻出】ニョウ ひねり出す。

【念々】ネン 常に思ひつゞけること。②時々刻々。

○

【濃艶】ニウ こつてりとした美しさ。つやくし

く美麗なこと。

【農隙】ゲキ 農事のひま。

【農功】コウ 農夫の仕事。耕作のわざ。

【能士】シ 才能の多い人。役に立つ人。○能者。

【能事】ジ ①成し遂ぐべき事業。例「能事畢。」
②自分のなすべき仕事がつんだ。③成し得るわざ。

【能文】ブン 文章に巧みなること。

【能辯】ベン 辯舌のたつしやなこと。

【能吏】リ よく事務を處理する官吏。

は

【敗荷】カイ 秋になつて風に吹きやぶかれた蓮の葉。

【沛艾】カイ 馬の勇ましいさま。

【輩行】カイ 一族中で、尊卑屬又は年齢の關係に

【稗史】シ 小説的の歴史。

【癡弛】シ すたれゆるむこと。

【倍蓰】シ 幾倍もすること。(倍は二倍、蓰は五倍。)

【廢疾】シ 治すことの出来ない不具の病。○癩病。

【賠償】シヤウ 他人に蒙らしめた損害をつぐなふこと。

【陪乘】シヤウ 貴人のお供をして乗ること。

【陪從】シヤウ 貴人のそばに侍り従ふこと。お供をすること。△陪食も推して知れ。

【輩出】シヤウ すぐれた人物などが續々と出ること。

【配所】シヤウ 罪人として送られる場處。

【背誦】シヤウ そらよみ。○誦誦。

【陪臣】シヤウ 臣の臣。またげらい。(録倉の執權などさうである。)

よつて定めた順序。○排行。

【背汗】カイ (せなかに汗を出す意。)非常にほち入ること。

*【肺肝】カン (肺臓と肝臓。)まごころ。

【悖逆】ガイ 道理にそむくこと。

【廢墟】キョ 城廓・宮殿・社寺などのすたれたあと。

【配偶】カウ つれあひ。夫婦。○配耦(カウ)

*【徘徊】カウ あるきまはること。うろつくこと。○「徘徊」とも書く。

【陪觀】カウ 貴人の御供をして觀ること。

*【沛乎】カウ ①雨の盛んに降るさま。②多大なるさま。○沛然。

【配劑】カウ ①くすりを調合すること。②程よく組み合せること。

【拜芝】シ (芝眉を拜する意。)お目にかゝること。○拜頰。拜眉。

【拜趨】ハツ 目上の人の許へ行くことの敬語。参上。

【排擠】セ 人をおしのけ陥れること。

【敗績】セキ いくさに大いに負けること。

【沛然】ゼン 雨の盛んに降るさま。例「雨沛然トシテ」

至ル○沛乎。

【敗類】ハイ やぶれくづれること。

【胚胎】ハイ (胎内に子のやどりこもる意。ほらこもり) 物事のきざすこと。

【配謫】ハイ 遠方へ逐ひやられること。

【背馳】ハイ そむくこと。反對すること。

【敗衄】ハイ 戦にまけて血まみれになること。

【廢黜】ハイ 官職をとりあげてしりぞけること。

【悖德】ハイ 徳義にもどること。正義に反した行。

【背負】ハイ そむくこと。

【肺腑】ハイ (肺臓の意。) 肺臓の相附くがやうに、至つて親しい者。心のおくそこ。心腹。

【敗北】ハイ 戦にまけてにげること。○敗亡。

【敗戻】ハイ そむきもとること。

【悖禮】ハイ 禮儀にそむくこと。△悖徳の意をも考察せよ。

【銜枚】ハイ 戦時、敵にさとられぬやう靜肅を保たしめる爲に枚を口にくはへさせること。枚は箸のやうな形をしたもので、兩端に紐がついてゐる。

【防遏】ハイ ふせぎとゞめること。○防止。

【放逸】ハイ ほしいまゝなこと。きまゝなこと。○放佚。放恣。放縱。

【妨礙】ハイ さまたげ。邪魔物。○妨碍(ハイ)

【報效】ハイ 恩に感じて力を盡すこと。

【咆哮】ハイ 猛獸のほえること。

【芳翰】ハツ 他人の手紙の敬稱。○芳墨(ハツ)

【芳紀】ハツ 年若い貴婦人の年齢。

【拋棄】ハツ なげやりにしてすてること。○放棄。

【抱懷】ハツ ①心にいだきもつこと。②こゝろざし。かんがへ。○抱負。

【彷彿】ハツ さまよふこと。○「彷彿」「方皇」などとも書く。

【貌言】ハツ うはべを飾るのみで實の無いこと

【妄語】ハツ みだりな言語。でたらめ。それごと。うそ。

【旁午】ハツ ①往來の頻繁なこと。入りまじること。例「干戈旁午天下」。②物事の煩雜なさま。

【報賽】ハツ お禮まゐり。

【方劑】ハツ 藥劑を調合すること。調合した藥劑。

【寶算】ハツ 天皇の御齡。

【方士】ハツ 仙道を修める人。仙人。

【放肆】ハツ ほしいまゝなこと。わがまゝなこと。○放恣。放逸。放佚。放盜。放縱。

【彭殤】ハツ 長命なることと短命なること。[彭は彭祖(仙人の名)。殤はわかじに。

【褒錫】ハツ ほめて物をたまはること。

【方術】ハツ 神仙の術。仙術。

【苞苴】ハツ ①薬で包んだもの。②土産物。③賄賂。

【放縱】ハツ ほしいまゝなこと。わがまゝなこと。

【望蜀】ハツ 一つの望が達して更に又他の望を起すこと。(得レ望レ蜀の略。)

【放心】ハツ ①心をとめないこと。うっかりしてゐること。②外に馳せ向つてしまりのない心。例「學問之道無レ他求ニ其放心ニ而已矣。」③安心す

ること。○放神。放念。

【方寸】^{ハツ} 一寸四方。僅かの大きさ。①心。むね。

【肪脆】^{モイ} 魚鳥等の肉の脂肪に富んで、口に入るとすぐとけること。例「會一獵師新獲三豪猪^{ニタリ}割煮^テ之。肪脆如水。連引^リ三數大白^ヲ。」

【歴然】^{ゼン} 甚だ廣いさま。

【彭祖】^{ハツ} 昔の長壽を保つたといふ人の名。七百歳餘まで生きたといふ。例「彭祖之壽。」

【寶祚】^{ハツ} 天子の御位。皇祚。

【滂沱】^{ハツ} 雨又は涙のひききりなしに落ちるさま。例「涕泗滂沱。」

【龐大】^{ハツ} 廣がつて大きいこと。むくくと大きいこと。○「龐大」ともかく。

【放誕】^{ハツ} みだりに大言を吐くこと。

【放膽】^{ハツ} 思ひ切つて事をすること。

【妄誕】^{ハツ} 無根の言語。うそいつはり。

【庖廚】^{チウウ} 臺所。くりや。

【抛擲】^{チキ} ①なげうつこと。②なげやりにすること。かへりみないこと。

【冒頭】^{トウ} ①言語、文章などの前置きの言葉。②物事のはじめ。

【暴騰】^{トウ} 物價の急に高くなること。

【冒瀆】^{トウ} なかしげがすこと。無禮を加へること。

【忘年之交】^{トウネンノ} お互に才徳を以て交際し、年齢の差を忘れること。

【澎湃】^{ハハ} 波濤の相觸れてもどるさま。又その際に生ずる音の形容。○澎湃。滂湃。

【磅礴】^{ハツ} ①まぜ合はせて一つにする。例「將^ニ磅^ヲ萬^ヲ以爲^レ一^ト。」②みちふさがる。例「磅^{シテ}萬^ヲ以爲^レ一^ト。」

【抱負】^{ハツ} ①かゝへたりおぶつたりすること。②心に抱きもつ所のもの。志望。計畫。③覺悟。

【放埒】^{ハツ} (馬が埒を放れる意。) 遊樂に耽ること。だらち。○放逸。

【庖廩】^{リン} くりやと米倉。

【破顔】^{ガン} 顔をやほらげて笑ふこと。

【霸氣】^{キハ} 進取して勝利を得ようとする氣象。

【破鏡】^{キヤウ} 夫婦の離別。

□昔、夫婦別れをした者が、後の形見にと、鏡を破つて各、がその半分づつを持つてゐたといふ故事による。

【白雨】^{ウハク} にはか雨。夕立。○驟雨。

【博奕】^{エキ} ばくち。

【薄倖】^{カク} ふしあはせ。不運。○薄命。

【薄行】^{カク} 輕薄な行。

【博洽】^{カク} ひろくあまれきこと。

【白眼】^{ガン} 人を卑しめ、又はにくんでにらむ目つき。△「青眼」の對。

□晋の阮籍が禮俗の士を見る時、白眼を以てこれ

自信。

【髣髴】^{ハツ} ①ぼんやりとして明白でないさま。例「水天髣髴青一髮。」②よく似てゐるさま。○「彷彿」「彷彿」なども書く。

【方物】^{ハツ} その地方の産物。△「不可^{カラ}三方物^ス。」は物の甚だしく混亂して區別しがたい意。

【放肆】^{ハツ} 勝手氣儘で心のねらけてゐること。例「苟無^{モクシ}恒心^ニ、放肆^{カラン}邪修^ニ無^レ不^レ爲^レ已^ト。」

【褒貶】^{ヘン} ほめることとそしめること。

【放慢】^{ハツ} ほしいまゝなことを。きまゝなことを。自國を脱走すること。

【亡命】^{ハツ} 自國を脱走すること。

【茫洋】^{ヤウ} ひろくとしたさま。

【豊約】^{ヤウ} ゆたかなことと、つまやかなこと。

【方輿】^{ヨウ} 大地。(方は國、輿は萬物を載せる意。)

【炮烙之刑】^{ハウラク} 油をそそぎかけた銅柱を炭火の上になわし、その上を歩ませる酷刑。

に對したといふ故事。

【莫逆】モクギャク (心に逆ふことなしの意。) よく心の合つた友。

【白玉樓】ハクギョウロ 文人・墨客の死後に行くといふ樓。例「爲白玉樓中人。」文人・墨客等の死ぬこと。

【白駒】ハクコ ①白い馬。②光陰。日月。時間。例「如三白駒過隙。」光陰の速かに経過するこの喩。

【駁撃】ガクキ 他人の言論や所説に反對して攻撃すること。

【遜乎】ソント ①はるかなるさま。②人をうとんずるさま。そつけないさま。

【麥秋】マクアキ ①麥のとり入れ時。②陰曆四月の異稱。

【白皙】ハクシツ 皮膚の色の白いこと。

【轟然】コウゼン まつしぐらに。一散に。○轟地。

【莫大】モクダイ (これより大なるは莫しの意。) 極めて大きいこと。極めて多いこと。

【剝奪】ハクダツ 奪ひ取ること。

【搏闘】ハクトウ くみうち。○格闘。

【白熱】ハクネツ 非常に勢立つこと。

【白波】ハクハ 盜賊。○綠林。梁上の君子。

【白眉】ハクメイ 後漢の孝靈帝の時、黃巾の餘賊が白波谷に籠つて掠奪を事としてゐた故事による。

【白眉】ハクメイ 群衆中にひとりすぐれてゐる者。

【白兵】ハクヘイ 蜀の馬氏に五人の子があつて何れも才名があつたが、その中眉に白い毛の交つてゐた長兄の馬良が最も傑出してゐたといふ故事から出た語。

【薄暮】ハクモ しらは。拔身。(兵は兵器、即ち刀劍の類をいふ。) ゆふぐれ。○黄昏。

【伯樂】ハクラク 天馬を主るといふ星の名。○背支

那でよく馬を見つけたといふ人の名。△國語とし

【破綻】ハクタン (やぶれほころびる。) 商店・會社などに於て事業の立ち行かなくなること。

【破談】ハクタン 一旦きまつた相談を取消すること。

【把持】ハチ とりもつこと。

【拔尤】ハツユ すぐれた人物を選抜すること。

【末葉】マツエフ ①末代。末世。②末孫。

【八極】ハツキョク 四方と四隅。

【八荒】ハツクワウ ①八方の遠いはて。國のはづれ。②四方八方。天下。

【八紘】ハツクワウ 八方の隅。地のはて。

【跋扈】ハツコウ 上を凌いでわがまゝな振舞をすること。

【拔擢】ハツタク よりぬくこと。人才をひきあげ用ひること。

【發祥】ハツショウ ①天命を受けて天子となる吉兆のあらはれること。②帝王・英雄などの生まれ出ること。例「發祥地」

ては、バクラウとよんで、馬の事に明るく、又馬の賣買・周旋などをする者をいふ。

【幕僚】マクリョウ 大將の帷幄の中にあつて、作戰に參與する將校。

【暴露】ハクポ ①かくしてゐた事があらはれること。②風雨にさらされること。△暴をバウとよむ時はあらいといふ意。

【駁論】ハクロン 或説に反對する議論。

【霸業】ハクゲツ 諸侯の上に立つて、天下を統一する事業。覇者の事業。

【婆娑】ハバ ①舞ふさま。②亂れ動くさま。

例「松影婆娑。」

【霸者】ハクシャ 諸侯のはたがしら。

【播種】ハクシュ 種をまくこと。

【馬食】バシヨク 箸を用ひず、直ちに口をつけて食ふこと。△わが國では「牛飲馬食」と熟して大食の意に用ひる。

【發軔】^{シツ} 旅行の途に上ること。③仕事をは

じめること。(軔は車を止める木、發軔は車を動か

【拔萃】^{エキ} たくさんの中から抜き出すこと。特

【末節】^{セツ} 末事。小さな節操。

【跋渉】^{セツ} 山川を歩きまはること。諸所を遊歴

【閥族】^{バツ} 貴い家柄。

【潑刺】^{ハツ} 魚のをどりはれるさま。勢の盛んな

【破天荒】^{ハツ} 人のまだしないことをするこ

【法家】^{ハフ} ①法律學者。②支那で、道徳よりも

法律を以て國家の統治上重要なものと認められた學

者。管仲・申子・商子・韓非子など。③法度ある

【法度】^フ のり。おきて。△國語としては「ハ

【波瀾】^ハ (大波)。①紛争。葛藤。②文章の變

【罵詈】^バ の、しること。

【破倫】^{リン} 人倫の道にそむくこと。

【破廉恥】^チ 恥を恥とも思はぬこと。

【霸王樹】^ハ さぼてん。

【盤紆】^フ めぐりまはること。

【攀援】^{エン} たのみにすること。

【挽歌】^{カン} 死者を葬る時に柩の車の綱を執る者

【泛交】^{カン} 廣く多くの人と交際すること。(泛は

【萬古】^{ゴン} ①大むかし。②いつまでも。永久

【萬戶侯】^{コウ} 大名。

【煩瑣】^ソ こまかく面倒なこと。

【晚餐】^{サン} 晩の食事。

【萬乘之君】^キ 天子。君主。(天子は戰の時

【反證】^{シヨウ} 反對の證據。

【萬鐘之祿】^{ロク} 多額の俸祿。(鐘は量の名で

【伴食】^{シヨク} 職にありながら何もしないこと。無

【反唇】^シ 人をそしること。(唇を反す意。)

【反噬】^シ ①恩を受けた者又は親しかつた者に

【反間】^{カン} ①敵の間諜(まはしもの)を利用し

てかへつて我が用をなさせる計略。②敵の油断に

【反眼】^{カン} 互ににらみあふこと。仲のわるいこ

【萬機】^キ 天下の政治。

【反求】^キ 我が身にかへつて求める。

【畔逆】^キ そむきさからふこと。

【挽回】^キ もとへひきかへすこと。もと通りに

【磐桓】^{カン} ①進み難いさま。例「樵三孤松」以盤

【萬頃】^{ケン} (一頃は百畝をいふ。)土地又は水面

【晩節】セバン

●晩年の節操。●晩年。

【煩擾】ヤハン

わづらはしくみだれること。

【版籍】セハン

●版圖と戸籍。●土地と人民。

【晩節】セバン

死に近い數年間。老後。○晩年。

【盤旋】セバン

●山道などのめぐりまがること。○盤紆。盤回。例「至^{ルニハ}絶頂^ニ半里餘、曲磴盤旋、如^シ煙繞^ル樹。」●あそびめぐること。一隱者之所^ニ盤旋^ス。

【反側】ツツ

●寝つかれないのでねがへりをうつこと。●味方にそむいて敵につくこと。

【範疇】チハン

部類。部屬。階級。

【版圖】ハン

(戸籍と地圖の意。)一國の領地。

【凡百】ハン

もろくの。たくさんの。すべて。

【反駁】ハン

反對して非難すること。

【斑白】ハン

●こましほの毛髪。●老人。○斑白。半白。

【蠻貊】ハン

外國をいやしめていふ語。

【藩屏】ハン

(まがき)皇室を守護する者。

【反哺】ハン

子鳥が親に養育され、長じて後に、その恩を報じること。(哺は口中にある食物。)

【反目】ハン

にらみあふこと。仲のわるいこと。

【萬籟】ハン

萬物の音響。例「萬籟聞^{トシテ}而無^レ聲。」

【汎濫】ハン

水のみなぎりあふれること。○汎濫。

【樊籠】ハン

●鳥籠。●鳥が籠の中にあるやうに自由を束縛されること。

【凡例】ハン

卷首に掲げて、書中の内容・編纂の大體のすぢを述べたもの。

【庇蔭】ハン

おかげ。

【眉宇】ハン

眉のあたり。

【繆巧】ハン

巧妙なばかりこと。

【秕糠】カウ

●しひなとぬか。●役に立たぬ殘物。

【微行】カウ

しのびあるき。

【誹毀】キヒ

そしること。

【匪躬】キウ

我が身を顧みずして王事につくすこと。

【魏貅】キウ

(猛獸の名)勇士。武人。

【比丘】クビ

●僧侶。●比丘尼の略。出家した婦人。

【卑屈】ケツ

心がいちけて深くないこと。奮發心に乏しいこと。

【秘訣】ケツ

おくの手。奥義。

【丕業】ゲツ

(丕は大の意)大業。

【拂鬚】ハラフ

貴人にこびへつらふこと。

【比肩】ケン

(肩をならべる意)同等の位置にあ

【披見】ケン

ひらいて見ること。

【蜚語】ヒ

うはさ。無根の言○飛語。例「流言蜚語。」

【菲才】サイ

●才智の乏しいこと。●自分の才智の謙稱。例「淺學菲才。」

【皮相】サウ

●うはつら。うはべ。●うはべだけを見てすぐ判断すること。例「皮相之士。」||表面だけを見て、内實をば察し得ない人。

【彼蒼】サウ

そら。天。

【容膝】イザラ

(やつと膝を容れるだけの廣さの意)屋内の狭いこと。

【屈膝】クツス

(膝をかゞめる意)人の風下に立つこと。

【比周】シウ

比は私の心でかたより親しむこと。周は正しい道を以て善く交はること。例「君子周

不_レ比、小人比不_レ周。」

【飛翔】シヤウ とびかけること。

【裨將】シヤウ 輔佐の大將。○副將。

【飛錫】シヤク 僧侶が諸國を遍歴すること。○巡錫。

【匕骨】シユ あひくち。短刀。懐劍。

【批准】シユン ① 臣から上奏した事柄又は文書に對して、君主が裁許すること。② 全權委員が署名捺印した條約を國家が確認する手續。

【秕政】セイ わるい政治。(秕は穀物のみのらぬもの、轉じてわるい物事の形容。)

【肥饒】ゼウ 地味のよくこえてゐること。○肥沃(ヨク)

【丕績】セキ 大いなる功績。(丕は大の意。)

【眉雪】セツ 老人の白いまゆげ。例「眉雪、老僧時ムクコトヲ 綴_レ帯。」

淺薄で内部に及ばないこと。例「皮肉之見」。△國語ではいちわるくあてこすりをいふ意。

【腓肉】ニク 股の肉。例「腓肉之歎」|| 武人が久しく戦に出ることが出来ず、馬に乗らない爲、股の肉の生じたことを歎く意。功名をたてることの出來ないのを歎息すること。

【比年】ネン 年々。毎年。

【未亡人】ジバウ(ジバウ) 寡婦。やもめ。(夫が死ねば妻も從つて死すべきを、未だ死せずしてこの世に生存する人の意。)

【疲憊】ハイ つかれること。

【卑鄙】ヒ いやしいこと。

【霏霏】ヒ 雨や雪の盛んに降るさま。例「霖雨霏霏。」

【披靡】ヒ 草木の風に靡くこと。

【微服】フク 身なりを粗末にして人目に觸れないやうにすること。しのびあるきの服装。

【靡然】ゼン なびくさま。

【眉尖刀】トウ なぎなた。○薙刀。

【鼻祖】ソ 始祖。元祖。

【畢竟】キヤウ つより。つまるところ。

【拂士】シツ 輔佐の任にあたる賢士。(拂は弼に通ず、たすける意。)

【匹儔】チウ ① つれあひ。② たぐひ。なかま。

【必定】ヂヤウ きつと。必ず。

【筆誅】ヒツ 罪惡を書き立てて責めること。

【匹敵】チキ ① たぐひ。② 優劣なく並び立つこと。

【匹夫】フツ ① ひとりの男。② いやしい男。

例「匹夫不_レ可_レ奪_レ志也。」「匹夫之勇」|| 智慮が淺くて、勢ばかり強いこと。血氣の勇。

【匪徒】ト 暴動をなす者。

【皮肉】ニク ① かはとにく。例「燒_レ其皮肉。」②

【皮膚之見】ケン 語る所の極めて淺薄で、内部に及ばないこと。○皮肉之見。

【彌縫】ホウ (つくろひ合せる意。) まにあはせの處置をすること。姑息の手段で一時をすませること。例「彌縫其闕。」

【有隙】アリ 仲のわるいこと。

【肥笨】ホン (笨はあらうこと、精の對。) 體ばかり大きくて何の役にもたぬこと。

【瀾漫】マン 廣がりばかりすること。○瀾漫。

【微恙】ヤウ 一寸した病氣。

【評騭】シヤウ (騭はさだめる意。) 評し定めること。しなすだめ。○品評。

【氷釋】シヤク ① 氷のとげること。② よく理解して心に少しの疑惑を存しないこと。

【百家】カヤク 多くの學者。例「諸子百家。」

【百揆】キヤク ① 庶政をとりおこなふ官吏。② すべ

ての政治。

【百歳後】^{ヒヤクサイ} 人の死ぬことを忌んでいふ語

○天子の崩御の後のことを「萬歳の後」といふ。

【百姓】^{セイヤク} 人民。萬民。△國語としては「ヒヤクシヤウ」と讀んで農民の意に用ひる。

【百辟】^{ヒヤク} (辟は君の意) 多くの諸侯。

【百里之才】^{ヒヤクリ} (方百里は一縣の廣さ) 一縣に長たるべき才。手腕・器量の小さい形容。例「龐士元非百里之才」。

【百里之命】^{ヒヤクリ} (百里は周代に於て諸侯の國の廣さ) 一國の政治。例「可^シ以^テ寄^ル百里之命」。

【百僚】^{ヒヤク} 多くのつかさ。○百官。

【譬喻】^{ユビ} たとへ。○比喩。

【憑依】^{ヒヨウ} よりすがること。

【氷釋】^{シヨウ} 「氷釋」とも書く。氷のとけるやうに疑念のとけること。○氷解。

【馮河】^{ガヒョウ} 黄河をちわたりすること。舟なくして河をわたること。例「暴虎馮河」虎を手う

ちにし河をちわたりすること。向ふ見すの事をする喩。無謀の勇。

【馮弔】^{チョウ} 立ち寄つて弔ふこと。

【水輪】^{スイリン} 月の異名。

【糜爛】^{レイラン} ①たゞれること。②疲弊すること。

【比倫】^{ヒリン} たぐひ。○比類。匹儔。

【賁臨】^{ヒリン} (賁は飾、光彩を添へる意) 他人の來ることの敬語。○賁來。光臨。光來。御來臨。

【鄙吝】^{ヒリン} いやしくけちであること。

【披瀝】^{ヒキ} ひらきあらはすこと。心の中をうちあけること。

【披露】^{ヒロウ} ①文書をひらきあらはして見せること。②公然とひろめ告げること。

【尾籠】^{ビロウ} 無禮なこと。きたないこと。

【微祿】^{ロク} 少ない俸祿。薄給。

【麋鹿】^{ロク} 大きい鹿と普通の鹿。

【比屋】^{ヒク} 並んだ家。

【伸眉】^{シンメイ} (擡めた眉をのぼす意) 憂患の去つたこと。○信眉。舒眉。

【殯宮】^{キョウキウ} 天皇・皇族の御棺を御葬儀の時まで、假に安置し奉る御殿。

【貧窶】^{クワン} 貧乏でやつれてゐること。

【敏慧】^{ケンケイ} さといこと。かしこいこと。

【擡蹙】^{シヨク} 眉をひそめて憂へること。

【稟性】^{レイシヨウ} 天からうけた性質。

【擯斥】^{ヒンシツ} いやしめしりぞけること。○擯却。

【敏捷】^{ベイレツ} すばしいこと。

【惘然】^{ウワン} ふびんに思ふさま。○愴然。

【品隲】^{シンシツ} しなさだめ。○品評。

【旻天】^{ミンテン} 秋の空。△夏の空を「昊天」といふことも記憶して置くこと。

【效顰】^{キョウタン} わけわからず他人の眞似をしてし

くじることの喩。

□醜い女が美人の顔をしかめるのを眞似て、益、醜くなつたといふ故事。

【稟賦】^{レイフ} うまれつき。

【繽紛】^{フン} ①多くて盛んなるさま。例「旌旗繽紛」②亂れるさま。例「思繽紛而不^レ理」③花びらの亂れちるさま。例「落英繽紛」

【黽勉】^{ケンメン} よく勉強すること。精を出すこと。例「拮据黽勉」

【泯滅】^{ミンメツ} ほろびること。

ふ

【布衣】^{フイ} (布の衣の意) 官に仕へて居ない者。無位無官の者。例「布衣之交」平民的な交際。△國語としてはハイとよみ。狩衣の無紋のものないう。

【蜉蝣】^{フウウ} かげろふ。朝に生まれて夕に死すといふ。人生の短いことの喩に引かれるもの。

【撫育】イブ かいがりそだてること。

【訃音】イフ 死去の通知。

【風雲兒】シフウジン 天下の事變に際會して、功業をたてようとしてゐる者。

【風概】ガフ けだかいやうす。○風格。

【風格】カフ けだかい人格。

【諷諫】カン 遠まほしにいさめること。

【風紀】キフ 風習の上の規律。

【風化】カフ 善教を以て自然に導き化すること。

【風教】ケフ 徳を以て下民を教化すること。○風化する上の教。

【風采】サフ 人の様子。○風姿。風丰。(ハフ)(フウ)

【諷刺】シフ 遠まほしにそしること。あてこすること。

【風趣】シフ おもむき。

【諷誦】シフ 聲を出し節をつけてよむこと。

【風致】フウ ①おもむき。面白味。②人のやうす。○風采。

【風塵】フン (風にたつ塵の意。) ①世上の俗事。②兵亂。

【風潮】フウ (風に従ふ潮の流れ。) 時勢の傾向。世間のなりゆき。

【風度】フウ ひとがら。○人品。風采。

【風土】フウ 土地の氣候・地味・地勢など。

【風丰】フウ (フウ) うるほしいすがた。

【風伯】フウ 風の神。風師。△河の神を「河伯」といふことも記憶置くこと。

【風發】フウ ふるひおこること。はげみ立つこと。

【風靡】フウ 風が草木をなびかすやうに、靡け従へること。

【風物】フウ ①季節のもの。②眺に入るもの。

【風聞】フウ 根拠のない言葉。うばさ。

【諷諭】ユフ 遠まほしにさとすこと。

【風流】リフ ①先祖の遺風。②世俗からかけはなれて高尚なこと。みやび。

【風韻】フン おもむき。○風趣。

【扶搖】フウ 強い風。暴風。

【夫役】エフ (ヤク) 公の爲の勞働に人民を使用すること。

【不易】エフ 變らないこと。

【敷衍】エン ①のべひろげる。②意味を引きのばして説くこと。○敷衍。

【負荷】カフ (セオふこと) ①父の業や師の學をうけついでよくその任に堪へること。②すべて任務を負はせられて、よくそれに堪へること。

【符合】カフ (符はわりふ) 判符を合せたやうにびつたりと合ふこと。

【膚合】ガフ 小さなきれの雲が集まり合ふこと。(膚は指四本をならべただけの長さ) 例「雲絲

【不堪】カン 藪能にたくみでないこと。

【俯瞰】カン 高い處から見下すこと。下瞰。

【不羈】キフ (ほだしてつなげられない意) 他人の制御を受けないこと。他人に自由を束縛されないこと。

【不諱】キフ ①君父の名を諱み避けないこと。②直言して諫めること。③死。

【不軌】キフ 國家の掟を守らないこと。

【俯仰】フウ 下を向くことと上を向くこと。ふすこととあふぐこと。

【不興】キフ ①興味のさめること。②機嫌を損ねること。

【馥郁】イク 香氣の發するさま。ぶんくにはふこと。

【不遇】グウ 不仕合で立身出世の出來ないこと。○「不耦」とも書く。

【福祉】シツク さいはひ。○幸福。

【腹笥】シツク (腹の中にある書笥の意。) 學問の素養。

【腹心】シツク ①腹と胸。②心のおくそこ。③深くたのむ人。例「股肱腹心之臣。」

【復性】セツク 心中の私慾を去り、その本體の靈性にたちかへること。

【輻輳】フツク 車の輻が轂に集まるやうに四方八方から一所に集まること。○輻湊。

【覆轍】フツク (車のくつがへつたあとの意。) 前者の失敗。

【復辟】ヘツク 再び天子の位にかへり給ふこと。(辟は君の意。)

【復命】フツク 命ぜられた事をなし終へて、その旨を申し上げること。かへりまうし。

【服膺】フツク 確に心にとめて忘れないこと。よく守ること。例「拳拳服膺。」

【誣告】コツ 無實のことを人に告げること。

【覆載】フツク (おほふものとのせるもの。) 天地。

【扶桑】サウ ①支那の傳説で、東海日出の處にあるといふ神木。轉じて東海日出の處。②わが日本國の異稱。

【斧鑿】サツ (をのとのみ。) 詩文を作るにあたりて、徒らに辭句を修飾すること。

【蕪雜】ヂツ みだれていりまじること。例「蕪雜烏合之衆。」

【負恃】ジツ たのみたよること。

【蕪辭】ジツ 粗末な言葉。自分の文辭の謙稱。

【父執】シツ 父の友人。

【俘囚】ジツ とりこ。○捕虜。

【不日】ジツ 日ならず。近いうちに。

【覆醬】シツ 著書の世に行はれないこと。

□著書が世に行はれず、空しく醬油の瓶をおほふ

【浮華】フワ 輕浮で華美なこと。

【附會】フワイ こじつけること。例「牽強附會。」

【負郭田】フクワク 城の近くにあるよい土地。例「使吾有洛陽負郭田二頃、吾豈能佩六國相印乎。」

【幅員】フツク はば。

【府君】フツク (官府の君の意。) 亡父の敬稱。

【不稽】ケフ 言説の據所のないこと。

【負荆】ケフ 自分の罪を謝すること。□廉頗が荊鞭を負うて藺相如の門に至つて謝罪した故事による。

【浮言】フツク 無根の風聞。據所のないうはさ。○浮説。

【誣言】フツク しひごと。構へしらへて人を悪ざまにいふこと。

【府庫】フツク 財物をなさまたくはへるところ。くら。

反古紙として用ひられる意。

【亡狀】シツク ①無禮。無作法。②功狀のないこと。特別すぐれた所のないこと。

【腐儒】フツク 役に立たぬ儒者。

【拊循】フツク 撫でしたがへること。

【撫循】フツク 撫でしながへること。○拊循。

【部署】シツク てくばり。受持の仕事。

【扶植】シツク しつかりと樹てること。

【腐心】フツク 心を苦しめること。

【腐寸】フツク すこし。ちよつと。(腐は指四本を並べただけの長さ。) 例「腐寸之地。」

【賦性】セフ うまれつき。○天稟。稟性

【浮生】セフ 定まりのない人生。例「浮生如夢。」

【不世出】シツク めつたに世に出て來ないこと。稀に見ること。例「不世出之資。」

【不肖】セフ 自己の謙稱。

□有は似るの意。人は天の生ずる所であるが、不才にして天に似ざる意。(一説に父に似ざる不才者の意だといふ。)

【膚淺】セフ 淺はかなこと。○淺薄。

【富贍】セフ 富んでゆたかなこと。

【撫存】フン なでいつくしむ。(存は慰め問ふ意。)

【附託】フツ たのみまかせること。○付託。

【負擔】フツ 負ひ擔ぐこと。身に引受けること。

*【武斷】フツ 武力を以て物事を決斷すること。

【扶持】フツ たすけて介抱すること。△國語としては「フチ」と讀んで米で給與した俵穀。

【浮沈】フシ 浮き沈み。榮枯盛衰。

【物議】フツ 世上の議論。世間の取沙汰。○物論。

【拂逆】フツ さらふこと。たがふこと。

【物外】フツ 有形物の範圍外。

*【物故】フツ 人の死ぬこと。○逝去。死去。

*【物色】フツ 一人相書によつて、その人をさがすこと。○あれかこれかとたづね求めること。

*【拂底】フツ (底をはたく意。) 甚だ少ないこと。

*【拂亂】フツ さからひ亂すこと。

*【不逞】フツ 行爲のよくないこと。○不平をい

だくこと。

【不敵】フツ 大膽なこと。「大膽不敵」と熟す。

【載筆】フツ 自ら筆を隨へ持つこと。

【浮屠】フツ 佛。僧。○寺院。○「浮圖」とも書く。

*【埠頭】フツ 波止場。

【不佞】フツ 口才のないこと。

*【浮薄】フツ 輕々しくて移り氣の多いこと。○輕々しくて人情のうすいこと。○淺はかなこと。

*【武弁】フツ 武人。武官。(弁は武人のかんむり。)

*【撫摩】フツ なでさすること。

*【不毛】フツ 地味のよくないこと。○草木の生

えない地。

【侮蔑】フツ あなどりないがしろにすること。

【普遍】フツ あまねくゆきわたること。○普遍。

【不遍不黨】フツ どちらにも味方しないこと。中立。

【不豫】フツ 心中よろこばないこと。○天子の御病氣。

【賦與】フツ くばりあたへること。

【附庸】フツ 他の大國に附屬してゐる國。

【婦容】フツ 女の身だしなみ。

【芙蓉】フツ 蓮の異名。△日本では葵に似た花の咲く落葉灌木。木芙蓉。

*【扶翼】フツ たすけること。

*【無賴】フツ 一定の職業なく。性行の放漫なこ

と。例「無賴漢」ならぬもの。ごろつき。

【浮浪】フツ さすらふこと。さまよふこと。

*【不埒】フツ 法にはづれたこと。ふとどき。

*【無聊】フツ ①たのみなきこと。心さびしいこと。と。例「謫居無聊。」②つれづれ。たいくつ。○徒

然。

*【賦斂】フツ 租税をわりあてとりたてること。

*【附和】フツ 己の定見なくして輕々しく他人の説に賛成すること。例「附和雷同。」

*【無爲之化】フツ 君王の徳が高くて、何事も爲さずして國が定まり、民がその徳に化するこ

と。

*【斧鉞湯鑊】フツ 重い刑罰。

□斧鉞はのやまさかりで斬られる刑。湯鑊は釜

で煮られる刑。

【紛紜】フツ ①亂れるさま。②紛擾。こた〜。

もめ。

【吻合】フツ ぴったりと合ふこと。

*【紛糾】フツ みだれもつれること。

*【文教】フツ ①文治を以て國民をみちびくこと。

●文事上の教。

- 【文獻】ケン 文飾と實質。例「文質彬彬。」(フンビン)
- 【文質】シツ 文飾と實質とが適度に相まじること。
- 【文弱】ジヤク 文事にのみ耽つて軟弱になること。
- 【紛飾】シヨク 女子の化粧すること。①うはべな飾ること。
- 【奮迅】ジュン 勢はげしく進むこと。
- 【分疏】フン ①簡條わけにしてのべること。②いひわけすること。
- 【粉黛】クイン 化粧の材料。(おしろいとまゆすみ)。
- 【噴飯】フン 口中の飯をふき出す意。①覺えず俄に笑ひ出すこと。
- 【文物】フツ 文化の産物。學問・藝術・宗教など。
- 【芬芬】フン 香のよいさま。
- 【紛紛】フン 入りみだれるさま。

●文野と野蠻。

- 【分袂】ベツ 袂を分つ意。わかれること。
- 【粉壁】ベキ 白壁。
- 【文墨】ボク 詩文・書畫などのわざ。例「托ニ文墨ニ自遣。」
- 【粉本】ボン ①畫の下がき。②手本となる詩文。例「模ニ做粉本。」
- 【憤懣】マン いきどほりもだえること。
- 【分野】ヤン ①支那全土を天體二十八宿に配當して區別した稱。②區域。範圍。③境遇。ありさま。
- 【文野】ヤン 文明と野蠻。
- 【盆涌】ヨウ わき出ること。
- 【紛亂】ラン まぎれみだれること。みだれもつれること。
- 【紊亂】ラン ①きめ。あや。②文章のすぢ。
- 【文理】リン

〽

- 【嬖愛】ヘイ 格別愛すること。
- 【平夷】ヘイ ①たひらかなこと。②平坦。
- 【秉彝】ヘイ ①人道をとり守る。人の常道を執り行ふ。
- 【平衍】ヘン ①たひらかで廣いこと。(衍は廣と同じ意)。
- 【嬖幸】ヘイ 君の寵愛を受けてゐる者。おきにいり。
- 【兵革】カク ①兵は兵器、革は甲冑。戦争。
- 【兵甲】カク ①兵器と甲冑。兵士。
- 【平居】ヘイ ①ふだん。②居常。居恒。
- 【屏居】ヘイ 世を退いてこもり居ること。
- 【秉鈞】ヘイ ①政權をとること。(鈞はろくろ又物事の樞機の意)。
- 【兵戈】カク ①(刃物とはい)。(い)くさの道具。②

戦争。〇干戈。

- 【炳煥】ヘイ 明かにかゞやくこと。
- 【睥睨】ヘイ ながし目に見ること。にらむこと。〇倂倪。
- 【兵戟】ゲキ ①(刃物とはい)。(い)くさの道具。しきり。へだて。
- 【屏障】シヤウ 八十八歳の賀。(米は八十八の合字)。
- 【米壽】ジユ ①兵器。②戦争。
- 【兵戎】ジユ ①手に燭を執ること。②日が暮れて燈火のつく頃。
- 【秉燭】シヨク
- 【柄臣】シイ 朝廷に於て第一の權柄をにぎる臣。
- 【嬖臣】シイ 君主にお氣に入りの臣。
- 【嬖人】シイ お氣に入りの人。〇嬖幸。
- 【弊政】セイ 悪い政治。
- 【兵燹】ヘイ ①(兵はいくさ、燹は野火)戦争によつて生ずる火災。〇兵火。

【炳然】 ゼン あきらかなさま。

【屏息】 フクイ 息をつめること。恐れてちびこまつてゐること。

【兵杖】 ヤヤウ ①刀剣弓箭の類。②護衛兵。

【平板】 ハン 詩文などの變化少なく、趣味の乏しいこと。

【平明】 ハイ ①平易で明晰なこと。②夜明がた。

【弊風】 フウ 悪い風俗。

【聘問】 モン 贈物を携へて訪問すること。

【閉塞】 ヨウ 閉ぢ塞ぐこと。

【聘禮】 レイ ①人を呼び迎へる爲の禮物。②婚禮の約束の禮物。

【勒兵】 ロクテ 兵の勢揃をする事。兵の隊伍を編成し點檢すること。(勒は「と」のへる「レ」をさめる「レ」などの意。)

【苗裔】 エイ 子孫。○後胤。

【剽悍】 カウ あら／＼しくつよいこと。

【廟議】 ゴウ 廟堂の評議。朝廷の評議。

【飄忽】 コウ ①風の疾いさま。②忽ち。

【藐視】 ベウ 輕視すること。

【廟社】 シヤ ①宗廟と社稷。②やしろ。ほこら。

【廟食】 ショウ 廟にまつられること。

【剽竊】 セウ 他人の論說又は文句などをぬすみ取つて自分の創作のやうに見せかけること。

【飄然】 ゼン ①さまよふさま。②何となく去來するさま。ふらりと。

【眇然】 ヤウ ①細かいさま。小さいさま。②遠いさま。

【剽盜】 タウ おびやかしぬすむこと。

【漂蕩】 タウ 所定めずさまよふこと。

【廟堂】 タウ ①先祖の靈をまつる所。おたまや。②宗廟と明堂、即ちおたまやと正殿。③朝廷。天下の大政の出る所。

【標榜】 ハウ ①看板。②かかげしめすこと。主義

特色などをかかげあらはすこと。

【渺茫】 ハウ ぼてしなく廣いさま。○渺渺。

【漂白】 ハウ 水又は藥品でさらして白くすること。

【漂泊】 ハウ 水にたゞよふこと。さまよふこと。○流浪。

【颶風】 フウ はやて。つむじ風。○颶風。颶風。旋風。

【縹緲】 ハウ 遠くかすかに見えるさま。○「縹渺」

「縹渺」なども書く。

【豹變】 ハウ 豹のまだらのかげり方が著しく目に

つくやうに、性行の明かに一變すること。

【漂母】 ハウ 水で髪をうつてさらす女。洗濯女。

【廟謨】 ハウ 廟堂に於けるばかりこと。○廟謀。

【森漫】 マン 水の廣くてはてしのないさま。○森々。渺々。洋々。森茫。渺漫。

【剽掠】 ハウ おびやかしかすめる。

【辟易】 エキ (道を辟いて位置を易へる意。)

き恐れて道を開くこと。②勢におされてしりぞみすること。

【碧血】 ケツ あな色を帯びた血。色の濃い血。

【僻見】 ケン 間違つた見解。

【僻壤】 ジヤウ 片田舎。○僻地。

【僻陬】 スウ 片田舎。○僻地。(陬は片隅の意。)

【僻說】 セツ 間違つた説。

【碧潭】 タン あな／＼したふち。

【碧疇】 チウ みどりの畠。

【劈頭】 トウ まつさき。

【霹靂】 レキ あなぞら。○若天。碧空。

【僻遠】 エン かたよつて遠いこと。

【瞥見】 ケン ちらりと見ること。

【別業】 ゲツ 別荘。下屋敷。○別墅(シヅ)

【蔑視】シベツ ないがしろにすること。

【僂焉】エン 勤勞するさま。

【扁額】ガクシ 横に長い額面。よこがく。

【篇簡】カン 書物。文書。○篇翰。

【邊境】ケン くにさかひ。○邊疆。

【偏狹】ケン 心がかたよつて狭いこと。

【偏見】ケン かたよつた見方。正しくない見解。

【變故】カン かはつた事故。變事。

【邊塞】サイ 外蠻の侵入を防止する爲に國境につくつたとりで。

【偏私】シ えこひいきのあること。○不公平。

【駢死】シ ①首をならべて死ぬこと。②死ぬ者の多いこと。

【編輯】シ 多くの材料をあつめて本をつくること。○編纂。

【邊陲】ス 國のはて。國境。

【編躡】セン ①舞ふさま。②よろめくさま。

【辯疏】ソ いひわけ。

【貶謫】ハク 官位をおとして遠國に流すこと。○流竄。配謫。

【鞭撻】テン ①むちうつこと。②はげますこと。

【褊袒】テン 片はだをぬぐこと。

【駢植】チ ならびたつこと。

【貶黜】チ 官位をおとして退けること。

【變通】ツ 臨機應變のばかりことのあること。

【便殿】テン 休息の御殿。

【邊陲】ス 片田舎。

【籩豆】ト 祭祀の器。(籩は竹製の器で、果物・乾肉などを盛り、豆は鹽づけなどを盛るもの。)

【辯難】ナン 非難してせめること。いひあらそふこと。

【便佞】ネ 口さきがうまくて、巧に人の意に迎合すること。

【偏頗】ハン えこひいき。かたおち。不公平。○「偏岐」とも書く。

【辯駁】バン 他の説を反駁すること。

【編裨】ビ 一部隊の大將。副將。

【拊舞】フ 手をうつつてよろこび舞ふこと。

【冕服】ベン 儀式用の冠と服。

【便嬖】ベ 小才のきいたお気に入り。

【便辟】ベ 威儀は整つてゐるが、心のれぢけてゐること。

【翩翩】ペン ひるがへるさま。○翩翩。

【便蒙】モン 初學者にとつて便利な本。

ほ

【鳳駕】ガ 天子の御乗物。○鳳輿。鳳輦。變輿。

【蓬蒿】カ ①よもぎなどの生ひ茂つてゐる所。

①草ぶかい田舎。例「隠_レ於蓬蒿之下。」

【蜂起】キ 蜂の群り起るやうに英雄などの起ること。

【封間】カン 兩者の間をとりもちたすける者。△國語としては酒間をとりもち遊興を助ける者。た

いこもち。

【矛戟】キ 枝のあるほこ、股のあるほこ。い

ろくのほこ。

【鳳闕】ケ 宮中。御所。

【封建】ケン 土地をわけて諸侯を建てること。

【封冊】サ 王侯に封ずる旨を記した書付。

例「秀吉裂_レ明封冊。」

【鳳兒】ジ ①兒童の俊秀な者をいふ。②まだ世

にあらばれない英雄。○鳳雛。

【鳳城】ジ 宮城。

【豊穰】ジ 作物のゆたかにみること。豊作。

○豊稔(ホウ)

【眸子】 ショウ ヒとみ。

【幫助】 ショウ 傍から手助けをして或事をなさせること。

【豊饒】 セウ ヨシ 豊かなにして多いこと。

【篷窓】 ホウ ソウ とまで覆つた船のまど。船窓。例「烟横ニ篷窓ニ日漸没。」

【朋黨比周】 ホウ タウ 同志が相結んで黨外の者を排斥すること。

【蓬着】 ホウ チャク 出くはすこと。であふこと。

【鵬程】 ホウ セイ 遠い船路。遠い海の上。例「鵬程萬里。」

【鋒鏑】 ホウ セキ 刀のほこさきとやじり。

【鵬圖】 ホウ ト 非常に大きな計畵。(鵬は想像上の大鳥。鯤といふ大魚の化したものだといふ。

【鋒鋦】 ホウ ケツ 刀のきつさき。鋭い氣象。○「鋒芒」とも書く。

【蓬髮】 ホウ ハツ よもぎのやうに亂れた髪。

【捧腹】 ホウ フク 腹をかへて笑ふこと。例「捧腹絶倒」

【賀々】 ホウ ハウ 頭を垂れて氣を失ふさま。○目の明らかでないさま。

【蓬萊】 ホウ ライ 「瀛洲」と同じく、仙人の住所と想像されてゐる山。

【峰巒】 ホウ ラン 色々の形をした山峯。

【鳳輦】 ホウ レン 天子の御乗物。○鳳駕。鳳輿。變輿。

【封祕】 ホウ ヒ 諸侯のふち。

【脯醢】 ホウ カイ 乾肉と肉の鹽漬。ほじしとしじし。○古の刑法。

【墨客】 カク 詩文や書畫に巧みな人。

【木強】 キョウ ことごとくしてゐること。かたいちなること。○木強。

【卜居】 キョク 居をうらなひ定めて住むこと。

【北闕】 ケツ 禁中。御所。

【墨守】 ショウ ショウ (墨翟のやうに固く守る意。) 固く城を守つて強敵をうち退けること。○自分の意見を固く守つて改めないこと。

【牧豎】 ショウ ショウ 牧童。まきばで牛馬の世話をする子ども。

【卜筮】 ショウ シ うちなひ。

【北堂】 ショウ タウ は。○母堂。萱堂(ケウ)。

【木鐸】 ショウ タク 舌が木で出来てゐる鈴。(支那で政教を布き施す時に之を振つて衆を警めた。) 世人を教導する人。例「先生一世木鐸。」

【朴直】 ショウ チョク 質朴で正直なこと。

【北斗】 ショウ ホウ 北斗七星。

【木訥】 ショウ トツ かざりけなく口不調法なこと。

【北邙】 ショウ マウ 支那洛陽の北にある山で有名な墓地。例「北邙之塵」

【牧民官】 ショウ ミン 縣知事。地方長官。○二千石

(セキ)

【北面】 ホク 臣の座。○臣として仕へること。△わが國では、院の御所を守護した武士をいふ。

【樸陋】 ショウ ロウ 飾氣がなく見苦しいこと。

【晡時】 ショウ シ 申の刻。即ち今の午後四時頃。

【保障】 ショウ キョウ 小域ととりで。○租税をかくし民を保んずる政治。例「以爲三藩一乎、以爲二保障一乎。」

【輔仁】 ショウ ニ 互にはげみ合つて徳を修めること。

【捕捉】 ショウ トツ とらへること。

【噬臍】 ショウ シ 後悔しても及ばぬことの喩。

【捕拿】 ショウ ナ とらへること。いけどること。○捕獲。

【沒交渉】 ショウ カウセフ かゝりあひの無いこと。○無關係。

【勃然】 ショウゼン にはかに起り出るさま。○むつと

して怒るさま。

(セキ)

【没頭】トウ 専らその事に熱中すること。

【輔弼】ヒツ 天子の政をたすけること。○大臣宰相。

【歩武】ホ 歩は二あゆみ、武は半歩即ち一あゆみ。○わづかの隔たり。○あゆみ。

【匍匐】フク はらばふこと。○蒲伏。

【莫夜】ヤ 莫は暮に同じ。夜分。よる。例「莫夜無知者」。

【輔翼】ヨク そばにゐてたすけまもること。○扶翼。

【蒲柳】リウ 體質の弱いこと。かよわいたち。

【賁育】ヘン (孟賁と夏育) 春秋時代の有名な腕力家。腕力家の例としてよく引かれる。

【奔逸】ヘン はしりにげること。

【梵磬】バン 佛寺で用ひる樂器。玉石又は銅で作られ架に懸けて打ち鳴らすもの。

【梵語】バン 印度の古代語。サンスクリット。

【鑄刻】コク 版本をそのまま、また版に上すこと。

【梵刹】サツ お寺。寺院。○精舎。伽藍。

【本支百世】ホンシヒヤクセイ 一門の末永く繁昌すること。(支は「えだ」「わかれ」などの意。)

【梵鐘】シヨウ 寺のつりがね。

【笨拙】セツ 粗末でまづいこと。○粗笨。

【奔湍】ホン 早瀬。急流。

【煩惱】ナワン 心神をわづらひなやませる一切の忘念。情欲・願望のまよひ。

【梵唄】バン 佛の功德を讃嘆する爲に、節をつけて唱へる唄。

【奔放】パン 常規に従はないこと。

【奔命】ペイン 命令をうけて奔走すること。

【本領】ホンリョウ 特色。特質。

【翻弄】ホンロウ 弄ぶこと。なぶりものにする。

ま

【枚舉】マイ 一々かぞへあげること。

【味爽】サイ よあけがた。○黎明。拂曉。昧且。

【昧日】マイ まだ夜の明けきらない薄暗い時。

【網罟】コウ あみ。(網は魚鳥を捕るあみ、罟はあみの總稱。)

【妄語】マウ 虚言。みだりな言葉。でたらめ。うそ。

【莽蒼】マウ 青々とした草原の色。原野の景色。

【盲従】マウ 是非善悪を辨へずして従ふこと。わけもなく従ふこと。

【忘執】マウ みだりな想念。執念深いこと。

【孟春】シユン 春三箇月間の初の月、即ち正月。仲春・晩春に對する語。△孟夏・孟秋・孟冬をも考

察せよ。

【毛錐】マウ 筆のこと。

【猛省】メイ 精神をふるひ起してよく反省すること。

【網羅】マウ 網を張つて取り入れるやうに、残らず集め收めること。

【孟浪】マウ とりとめのないこと。みだりなこと。

【魍魎】リョウ 山川の精。すだま。△魍魎魍魎(マウリョウ) いろいろのばげもの。

【末學】マツ 學問しても根本を極めないこと。

【末技】マツ 小さな技藝。

【抹殺】マツ ぬりけすこと。

【磨礪】レイ みがきとぐこと。

【蔓延】エン ばびこりひろがること。

【漫言】マン そとること。みだりなる言。

【滿腔】マン 胸一杯。例「滿腔の同情」。

【蹣跚】サン よろめくさま。例「醉步蹣跚」。

【慢心】 ショウシン おごりたかぶること。

【滿著】 マンチャク ごまかすこと。あざむくこと。

【滿目】 マンモク 見渡すかぎり。例「滿目蕭條。」

【持滿】 ティマン 弓を十分に引きしぼつて構へる。○物事の極點に達した状態をもちこたへる。

み

【未曾有】 ムゼウ (未だ曾て有らざる意。) まだ一度もないこと。

【微塵】 ミジン 極めて小さいもの。

【自持】 ジチ 自分の節操を守ること。

【未亡人】 ムイバウ 寡婦の自稱。(夫が死ねば、自分も共に死すべきであるのに、未だ死亡しない者の意。) △今日は誤用して他人の寡婦の敬稱として用ひてゐる。

【名聞】 ナンブン 世間に聞ゆるほまれ。

【冥利】メイリ 神佛が冥々のうちに利益を垂れ給ふこと。

こと。

【冥慮】メイリョウ 神佛の御心。

【未練】 ムレン ①まだ熟練してゐないこと。②心が残つてあきらめられないこと。

【脈絡】 マクラク つゞき。○連絡。

【挺身】 テイツン ひとり身をぬき出して進むこと。

む

【無我】ムゲ ①我意のないこと。私心のないこと。②我を忘れてすること。

【無價寶】ムヘンバウ (價格の知れない寶の意。) 非常に高價な寶。

【無垢】ムコウ けがれの無いこと。△わが國では、表裏同じ色の無地の絹で仕立てた衣服。

【無稽】ムキ ①よりどころの無いこと。でたらめ。例「荒唐無稽。」

【無辜之民】ムコノ 罪の無い民。

【無告之民】ムコク 自分の窮苦をつげうつたへる所のない民。たよる所のない民。

【無慙】ムゼン ①恥を知らないこと。例「破戒無慙」

「無慙無愧」②痛はしいこと。

【矛盾】ムジュン あとさきのくひ違ふこと。言ふことがつちつまの合はぬこと。

□矛(ほ)と盾(たて)とを賣る者があつて自らほめて「この矛は如何なる盾をも貫き、この盾は如何なる矛をも防ぐに足る」といつた。或人が「然らば、その矛でその盾を突いたらどうか。」と問うたら、返答が出来なかつたといふ故事による。この話は韓非子に出てゐる。

【無盡藏】ムジン いくら取つても盡きないこと。

【無名之師】ムシイ 正當な理由がなくて起したいこと。

【無慮】ムリョ ①小計慮なしでの意。およそ。大かた。○亡慮。

め

【溟海】メイカイ 青海原。大海。○蒼海。

【冥行】メイカウ くらやみの道を行くこと。

【銘肝】メイカン 心にとめて忘れないこと。

【名教】メイケウ (一々名目をつけて授ける教の意。) 聖人の教。儒教。

【瞑眩】メイケン 目まひのすること。

【明察】メイサツ 明らかに察すること。

【名利】メイリ 名高い寺院。

【命數】メイスイ ①壽命。②運命。めぐりあはせ。

【命世】メイセイ 天から命ぜられて人間の世に生まれ

ること。例「命世之才」「命世之雄。」

【明晰】メイセイ はっきりとして明らかなこと。

【名節】メイセツ 名譽節操。人倫上守るべきみさを。

【明達】メイダイ 才智がすぐれて、物事によく通じて

あること。

【酩酊】メイ 酒によつばらふこと。

【明哲】メイ 智慧が明らかでよく事理に通じてゐること。

【明澈】メイ 水がよく澄んで底まで見えること。

【明媚】メイ 景色があざやかで美しいさま。

（媚は景色が観客の機嫌を取るやうな趣のあること。）

【明府】メイ 太守・縣令などを尊んでいふ。

【冥府】メイ あの世。よみぢ。（冥はくらき意。）

○冥土。黄泉。九泉。

【冥福】メイ 死後の幸福。

【冥冥】メイ ①暗いさま。②知ることの出来ない

さま。例「冥冥之志」胸の中に秘して外にあらはさない志。

【名分】メイ 名に伴なふ人倫上の分際。即ち臣・

子・幼・婦・朋友等の名とそれらに伴なふ分際である。例「大義名分」君國に對する臣民として

の節義と分際。

【名聞】メイ 世間のきこえ。評判。名譽。

【妙訣】メイ すぐれた方法。

【妙算】メイ たくみな計略。

【妙齡】メイ 年の若いこと。

【面謁】メイ お目にかゝること。

【面晤】メイ 面會して話をする事。○面語。面

談。

【面質】メイ 目の前で問ひたゞすこと。

【面責】メイ 目の前で責めること。○面詰。面

折。

【面縛】メイ 両手を背後にしばりその面を前にさ

し出させること。

【綿綿】メイ 長くつゞいて絶えないさま。例「此

恨綿綿不盡」

【面諛】メイ 面と向つてこびへつらふこと。

も

【蒙茸】モウ ①草の亂れ生じてゐるさま。雜草の

生ずるさま。②物の亂れてゐるさま。

【蒙塵】モウ 天子が難を避けて身をお逃れになる

こと。（平素は道を清めて後にお通りになるが、今はその暇もないので塵を蒙るの意。）例「後醍醐

帝蒙塵 于笠置」

【朦朧】モウ 軍艦。

【蒙昧】モウ 事理にくらいいこと。人智の開けない

こと。例「蒙昧之世」

【濛濛】モウ 霧や雨などで薄暗いさま。

【朦朧】モウ ぼんやりしてゐるさま。

【模擬】モウ かたどりなぞらへること。○「摸擬」

とも書く。

【默契】ケイ 口に出さずに雙方の意見が一致する

こと。

【目撃】ダク 實際に目で見ること。

【沐猴】モウ （楚の方言。）猿のこと。例「沐猴

而冠」猿に人の衣類を着せても、その心は人に非ざる意。人にして智慮のない者を嘲つた語。

【目今】モク たゞいま。○目下。

【默殺】サツ 何等の批評もせずさすに葬り去ること。

問題にもせず握りつぶしてしまふこと。

【目算】モク 目分量。見つもり。もくろみ。

【默示】シヨク 明言しないで、それとなく或事を示すこと。

【目眦】セイ 目尻。まなじり。例「目眦盡

」目を目張つてにらみつけるさま。○「目眦」とも書く。

【目笑】セウ 目と目と見合せて笑ふこと。

【迫目睫】ニセマツ 目前にさしせまること。

【目睫之間】ノカン （目とまつげとの間の意。）

極めて接近してゐること。

【黙諾】ダクダク

だまつてゐて承諾すること。

【黙認】ニモク

だまつて許すこと。見ぬふりをしてとがめないこと。○黙許。

【沐浴】ヨク

①髪を洗ひゆあみをする事。②恩澤を被ること。

【目禮】レイ

だまつて敬禮すること。

【模糊】コモ

霞んでぼんやりしてゐるさま。○「模糊」とも書く。

【模造】ザウ

似せてつくること、又似せてつくつたもの。

【摸索】サク

さぐり求めるとこと。例「暗中摸索」。

【模倣】ハウ

まねをすること。○「模倣」「摹倣」などとも書く。

【模範】ハン

ならひのつとるべきもの。手本。

【摸稜】リョウ

事を曖昧にして是非を決しないこと。○俗に「摸稜」と書く。

【門客】カク

門下に寄食する者。ゐさふらふ。

【門外漢】カンゲウ

その道にたづさはつてゐない者。その方面に關係のない者。

【門戸】モン

①家の出入口。②一家。③自分の流派を立てる。例「成門戸」④一家を興す。⑤一

【悶死】モン

もだえ死ぬこと。

【門弟】テイ

弟子。○門下。門生。

【悶絶】モン

もだえて氣絶すること。

【捫著】モン

もめ。あらそひ。ごたく。○「悶着」とも書く。

【門閥】モン

家柄。○門地。

【文盲】モン

全く文字を知らないこと。あきめくら。

【門閥】モン

家の門と、村の入口の門。門をまもる賤しい男。門番。

や

【養病】ヤウ

病氣を養生すること。

【陽炎】ヤウ

かげろふ。

【羊角】ヤウ

つむじかぜ。○旋風。

【佯狂】ヤウ

氣ちがひのまねをすること。

【揚言】ヤウ

①聞えるやうにわざと高くいふこと。②廣くいひふらすこと。

【陽春】ヤウ

①陽氣のみち／＼した春。②正月の異稱。

【羊腸】ヤウ

①羊のぼらわた。②折れ曲つてけほしい山路。つゞらなり。

【洋洋】ヤウ

①水の満ち足つて溢れようとするさま。②土地の廣々とひろがつてゐるさま。

【揚揚】ヤウ

得意顔なるさま。例「意氣揚揚」。

【瓔珞】ヤウ

①印度の貴族男女が珠玉を編んで頭又は頸などにかけた装身具。②花形の金具と珠玉

とを綴つて佛像佛殿等の裝飾としたもの。

【野鶴】ヤク

(野に自由に遊んでゐる鶴)仕官せずして自由な暮しをしてゐる名士。例「閑雲野鶴」自由な境地にある者に喩へる。

【冶金】ヤウ

鑛石を分析して金屬を探ること。ふさわげること。

【約款】ヤク

約束の箇條。

【躍如】ヤク

①躍り立つさま。②生き／＼してゐるさま。○躍然。

【藥石】ヤク

(藥と石ばり)疾患の治療。例「藥石之言」人の身の爲になる戒の言。

【扼塞】ヤク

おさへふさぐこと。

【藥籠中物】ヤク

(藥箱の中の藥品)必要な人物。例「君正吾藥籠中物、不可一日無也」わが手中のもの。

【野史】ヤ

民間で編述した歴史。○野乘。外史

△「正史」の對。

【野趣】 シヤ 田舎のおもむき。
 【野人】 ジヤ ①田舎者。禮儀を知らない卑しい者。②野蠻な人間。
 【野心】 シヤ ①野獸の心。馴れつかぬ心。②身分不相應の望。そむかうとする心。
 【野猪】 チョ ぬのしし。
 【野衲】 ナフ ①田舎坊主。②僧侶の謙稱。
 【病草】 ヤマヒ アラタマ 病氣がつのつて危篤になる。
 【擲捨】 ユ ナぶりもてあそぶこと。からかふこと。○「擲捨」とも書く。

ゆ

【融解】 カウ 固體がとけて液體となること。
 【融合】 ゴウ とけ合つて一つになること。
 【勇敢】 カウ 勇ましくて、物事を思ひ切つてすること。
 【勇悍】 カウ たげくつよいこと。

【瘦死】 シュ 獄中で病死すること。囚徒の死ぬこと。例「瘦死獄中」。
 【染指】 ヲビテ 物事に著手すること。
 【滄盟】 ヲイ ちかひを變へてそむくこと。
 【由來】 ヲイ その物事の來歴。
 【遺誠】 カイ 臨終の際の戒。死後に残した戒。
 【由緒】 ショキ その事柄のいはれ。○來歴。由來。

よ

【餘殃】 アウ 先代の悪事の報として子孫の上に来る凶事。△「餘慶」の對。
 【餘韻】 キン 音響の絶えた後に残るひびき。
 【餘蔭】 イン 先人のおかげ。○餘德。
 【涌溢】 イツ 水がわきあふれること。
 【容喙】 カイ くらげをいれること。はたから口を出すこと。
 【備耕】 カウ 人にやとばれて耕作すること。○客

【融化】 クウ 融けあつて他の形となること。
 【融會】 クウ 物事が融けあつて互にまじること。
 【雄渾】 コウ 言論や文章などが力づよくてよどみのないこと。○例「詩律雄渾」。
 【雄心】 シウ 雄々しい心。
 【融通】 ツウ とゞこほりなく通ること。③臨機應變に事を處すること。④金錢・物品等を用立ててお互の便益をはかること。
 【雄圖】 トウ 雄々しい企。大きなくろみ。
 【雄飛】 ヒウ 雄鳥の飛翔するやうに威勢の盛んなこと。△「雌伏」の對。
 【勇邁】 ムイ 勢はげしく進むこと。
 【輪贏】 エイ・シユ まげとかち。勝負。
 【愉悅】 ユツ たのしみよること。
 【諛言】 ゲン へつらひの言葉。○諛辭。
 【遊山】 シュン ①山に遊びにゆくこと。②遊樂に出かけること。

作。
 【雍熙】 キウ やはらぎたのしむこと。
 【容儀】 キウ なりふり。態度。
 【擁護】 コウ かばひまもること。
 【容赦】 ショウ ゆるすこと。○容捨。
 【癰疽】 ショウ わるい出來物。
 【庸臣】 ショウ 平凡な臣。凡庸な臣。
 【壅塞】 ショウ ふさがること。ふさがること。○壅閉。
 【壅滯】 コウ ふさがりとゞこほること。物事がはかどらないこと。
 【膺懲】 チョウ 悪い者をうちこらすこと。例「膺懲之帥」|| 悪い敵をうちこらす爲のいくさ。
 【庸夫】 フウ 世の常の男。別にえらい所のない男。
 【壅蔽】 コウ ふさがおほふこと。
 【備聘】 コウ やとひ迎へること。請うてやとひ入

れること。

【鷹揚】ヨウ 鷹が飛揚するやうに武勇を振ふこと。△國語としては「オウヤウ」とよんで、ゆつたりとしてゐるさま。

【溶漾】ヨウ 水波のゆれうごくさま。

【踊躍】ヨウ などりあがること。

【擁立】ヨウ たすけまもつて位につかせること。

【庸劣】ヨウ すぐれてゐないこと。なとつてゐること。○庸愚。

【餘蘊】ヨウ あまつたたくはへ。

【餘榮】ヨウ 死後の光榮。

【餘裔】ヨウ 子孫。○後裔。苗裔。末流。

【餘贏】ヨウ あまりののこり。

【抑壓】ヨウ おさへつけること。

【抑遏】ヨウ おさへとどめること。

【翼贊】ヨウ 力をそへてたすけること。○輔贊。

【弋射】シヤク いぐるみで鳥を捕へること。

【沃饒】ゾウ 地味の肥えてゐること。

【抑損】ヨウ 心をおさへつけておごらないこと。

【翼戴】ヨウ 力をそへておしいたぐくこと。たすけ立たせて奉載すること。

【弋釣】ナク いぐるみで鳥をとらへ、釣を垂れて魚をとらへること。

【抑揚】ヨウ おさへたりあげたりすること。○音楽・詩文などの勢や調子などを或は高くあげ或は低くさげること。

【餘慶】ケイ 先代の功德の報として、子孫の上に来る吉事。例「積善家、有餘慶、積不善家、有餘殃。」△「餘殃」の對。

【餘孽】ゲツ ひこばえ。○亡家の子孫の残つてゐるもの。○遺兒。

【豫後】ゴ 疾病を治療した後の経過。

【與國】ヨク 同盟をむすんでゐる國。

【餘師】シヨ 十分に師と仰ぐに足るもの。

【餘貲】シヨ あまりの財。○餘財。

【輿人】ヨウ 多くの人の衆人。

【餘燼】ジン もえのこり。○殘兵。

【餘喘】ゼン 死にかゝつてゐる命。○殘喘。餘命。

【餘黨】タウ 残りの徒黨。○殘黨。

【與黨】タウ くみする人たち。同志。○政府の味方の政黨。△「野黨」の對。

【與澤】タク 死後にまで残つてゐる恩澤。宏大な恩澤。

【餘談】タン 本筋以外の話。雜談。

【輿地】チヨ 大地。地球。世界。

【與知】チヨ あづかり知ること。その事に參與すること。

【餘波】ハヨ 風が止んだ後になほ残つてゐる波。なごり。○事が周圍又は後世に及ぼす影響。とばしり。さしひゞき。

【輿望】バウ 世間の人望。

【餘弊】ヘイ あとに残る弊害。

【餘裕】ユウ ゆとりのあること。○度量の廣いこと。ゆつたりとしてゐること。

【餘瀝】レキ あまりのしづく。

【餘烈】レツ あとに残つた事業。○あとに残つた威光。

【輿論】ロン 社會一般の議論。天下の公論。

【餘韻】ミン 残るひゞき。○殘る趣。○餘情。

【磊砢】ライ 石のつみ重なつてゐるさま。○性質の凡庸にすぐれてゐるさま。

【來駕】ライ 他人の來訪することを敬つていふ語。

【磊塊】クワイ 石のかたまり。例「鉏犁磊塊無。」

○胸中の平らかならざるさま。例「阮籍胸中磊塊、